

市民意識調査

結果報告書

令和元年 11 月

稲城市

稲城市では、現在、第四次稲城市長期総合計画に引き続く新しい長期総合計画を策定しています。

第四次稲城市長期総合計画では、「緑につつまれ友愛に満ちた市民のまち稲城」を将来都市像とし、その実現に向けて様々な施策に取り組んでおりますが、新しい計画では、2030年の稲城の姿を思い描き、どのようなまちをつくっていくのかについて検討しています。

検討にあたっては、市民の皆さんの声をまちづくりに反映させていくため、公募の市民で構成する「2030年の稲城を描く市民会議」や、地区別懇談会、団体別懇談会、2030年の稲城へのご提案等、様々な形で市民の皆さんの思い描く2030年の稲城の姿をお伺いしています。

この市民意識調査は、こうした市民の皆さんの声をお伺いする取り組みの一つとして実施し、まちづくりに対するニーズや満足度、その経年変化を把握することを目的としています。

本書は、今回の調査結果をまとめたものであり、新しい長期総合計画策定や今後の市政運営の基礎資料として活用させていただきます。

また、市民の皆さんの行政に対する理解や関心を深めていただきたく、ここに報告書として公表いたします。

最後に、今回の調査実施にあたりまして、ご回答のご協力をいただきました市民のみなさんに心よりお礼を申し上げます。

令和元年 11 月

稲城市長 高橋 勝浩

〔目次〕

I	調査設計	3
1	調査実施の目的	3
2	調査手法	3
3	回収状況	3
4	調査項目	3
5	グラフ・表中の表記、表の色分け表記等	4
6	本調査の標本誤差	4
II	回答者の属性	7
1	性別	7
2	年齢	7
3	居住地区	8
4	居住年数	8
5	世帯構成	9
6	高齢者・子どもの同居	9
7	職業	10
7-1	仕事場	10
III	調査の結果	13
1	稲城市の住みやすさについて	13
(1)	稲城市の住みやすさ	13
(2)	今後の居留意向	15
(2)-1	住み続けたい理由	17
(2)-2	転出したい理由	21
2	稲城市での暮らしやすさの満足度について	25
(1)	保健・医療・福祉の満足度	25
(2)	教育・文化の満足度	27
(3)	商工業・観光・農林業の満足度	29
(4)	都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度	31
(5)	市政運営の満足度	35
3	稲城市のまちづくりの方向について	37
(1)	市の将来像のイメージ	37
(2)	進めるべきまちづくり	41
4	今後の施策等について	45
(1)	健康・医療・福祉について力を入れるべき施策	45
(1)-1	心身ともに健康であるかの評価	49
(2)	高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス	52
(2)-1	障害者に暮らしやすいまちであるかの評価	56
(2)-2	成年後見制度の認知度	59
(3)	子育て支援について力を入れるべき施策やサービス	61
(4)	学校教育について力を入れるべき施策	65

(5) 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス	69
(5) -1 週に1回以上の運動(スポーツ)の実施について	73
(5) -2 運動(スポーツ)を行っていない理由	75
(6) 商工業・観光・農業について力を入れるべき施策	78
(7) 都市基盤について力を入れるべき施策	82
(8) 生活環境について力を入れるべき施策	86
(9) 防災や防犯について力を入れるべき施策	91
(10) 近所づきあいの程度	95
(11) 地域の団体や組織への参加意向	97
(12) 行政施策への関心度	99
(13) 市民と行政との協働によるまちづくり	102
(14) 「広報いなぎ」の精読度	104
(14) -1 「広報いなぎ」の関心のある記事	106
(14) -2 「広報いなぎ」の紙面に期待すること	109
(14) -3 「広報いなぎ」を見ない理由	111
(15) 市の公式ホームページの閲覧状況	113
(15) -1 市の公式ホームページをみる媒体	115
(16) 行政活動への参加方法	117
(16) -1 参加したくない・できない理由	121
IV 調査票	125

I 調査設計

1 調査実施の目的

今回、令和3年度を計画初年度とする「(仮称)第五次稲城市長期総合計画」の策定を進めるにあたり、市民の生活形態の現状、施策に対する満足度等を把握し、今後の市政資料とするため実施しました。

2 調査手法

- (1) 調査地域：稲城市全域
- (2) 調査対象：市内在住の16歳以上の男女
- (3) 対象者数：2,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収・WEB回答を試行）
- (6) 調査期間：令和元年5月30日～令和元年6月14日

3 回収状況

	票数	回収率
配布数	2,000	-
回収数	934	46.7%
うち郵送による回収	840	42.0%
うちWEBによる回収	94	4.7%
有効回収率	934	46.7%

※参考：過去実施調査での回収率

実施年度	配布数	回収数	回収率
平成26年度	2,000	736	36.8%
平成21年度	2,000	921	46.1%

4 調査項目

- (1) 基本属性（F1～F7-1）
- (2) 稲城市の住みやすさについて（問1～問2-2）
- (3) 稲城市での暮らしやすさについての満足度（問3～問7）
- (4) 稲城市のまちづくりの方向について（問8～問9）
- (5) 今後の施策等について（問10～問29）

5 グラフ・表中の表記、表の色分け表記等

- (1) グラフの基数は、特に標記のない限り総数 (n=934) です。基数が総数と異なるときには、その都度グラフ上に表記します。
- (2) 各設問において、次の略称を使用しています。
 - SA：シングルアンサー（一つだけ選択回答）
 - OLA：リミテッドアンサー（〇つ以内の選択回答）
 - MA：マルチアンサー（回答選択数制限なし）
- (3) グラフはすべて各回答の百分率 (%) で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。そのため、数値の合計は 100% を前後する場合があります。
- (4) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出しています。複数回答を求める設問については、すべての比率を合計すると 100% を超える場合があります。
- (5) 表の色分け表記の区分は、以下のとおりとします。
 - 属性内での 1 位： **XX.X** 属性内での 2 位： **XX.X**
- (6) [その他欄自由記載内容] は、回答をそのまま掲載しています。

6 本調査の標本誤差

本調査の標本誤差は、次式によって得られます。ただし、信頼度を 95% とします。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{p(1-p) \div \frac{n(N-1)}{N-n}}$$

b = 標本誤差
N = 母集団数
n = 基数 (サンプル数)
p = 回答比率

標本誤差の早見表は下表のとおりです。表の見方は、例えばある質問の回答者数が 934 人で、回答比率が 50% であった場合、その回答比率の誤差は、最大で ±3.19% 以内となることを示しています。

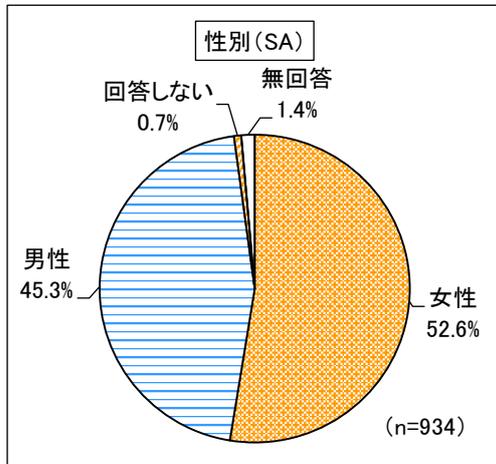
回答比率 基数 (n)	10% または 90% 前後	20% または 80% 前後	30% または 70% 前後	40% または 60% 前後	50% 前後
☞ 934 人	±1.91	±2.55	±2.92	±3.12	±3.19
1,000 人	±1.84	±2.46	±2.82	±3.01	±3.07
500 人	±2.62	±3.49	±4	±4.28	±4.37
100 人	±5.88	±7.83	±8.97	±9.59	±9.79

※母集団である 16 歳以上人口 (外国人住民を含む) を、76,712 人 (住民基本台帳。令和元年 5 月 1 日現在) で計算。

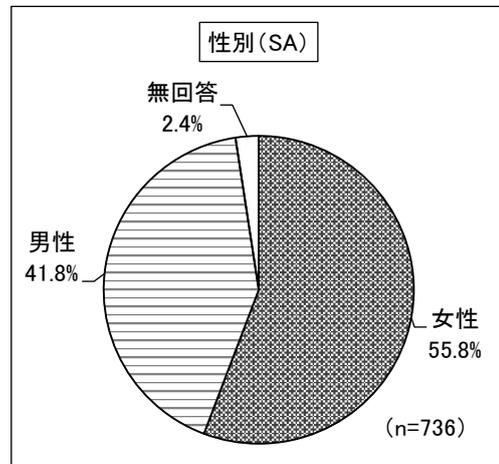
II 回答者の属性

1 性別

〔令和元年度〕

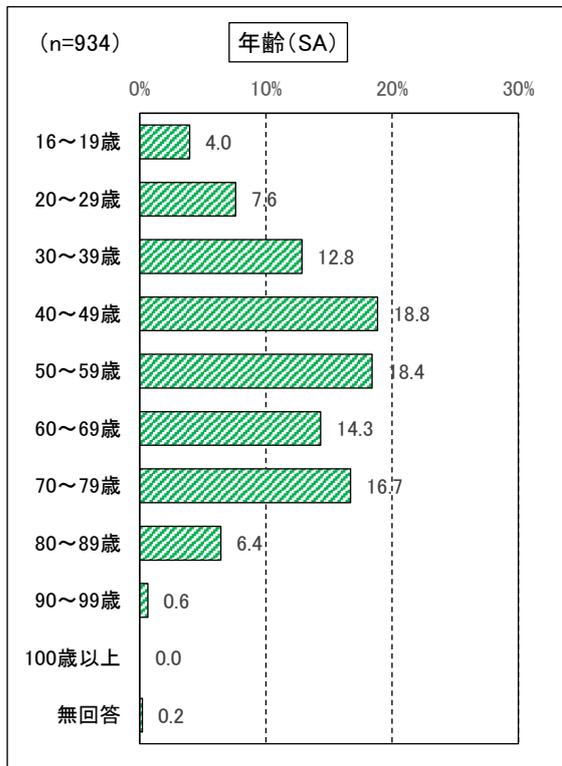


〔平成 26 年度〕

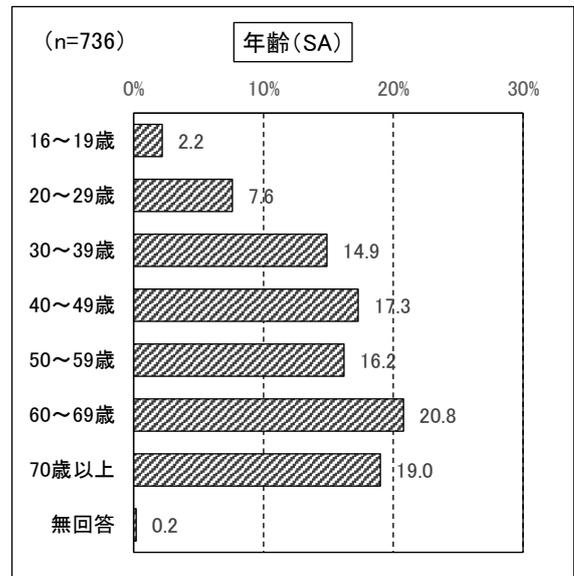


2 年齢

〔令和元年度〕

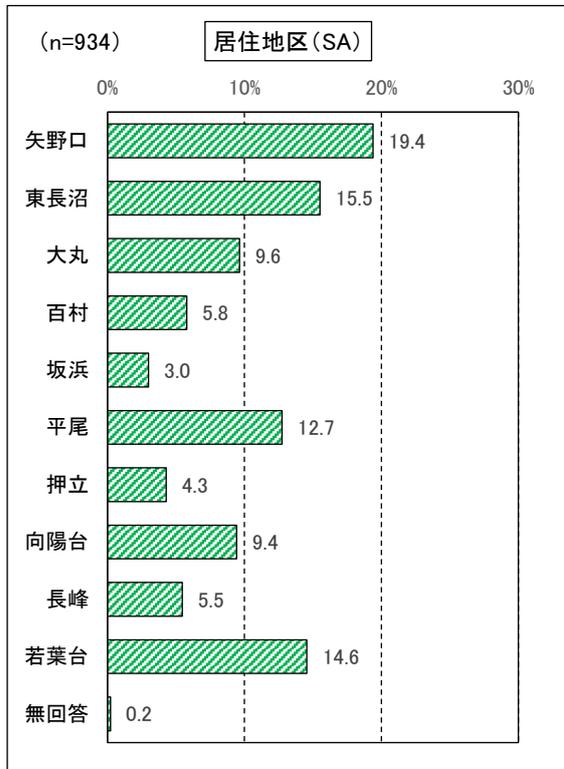


〔平成 26 年度〕

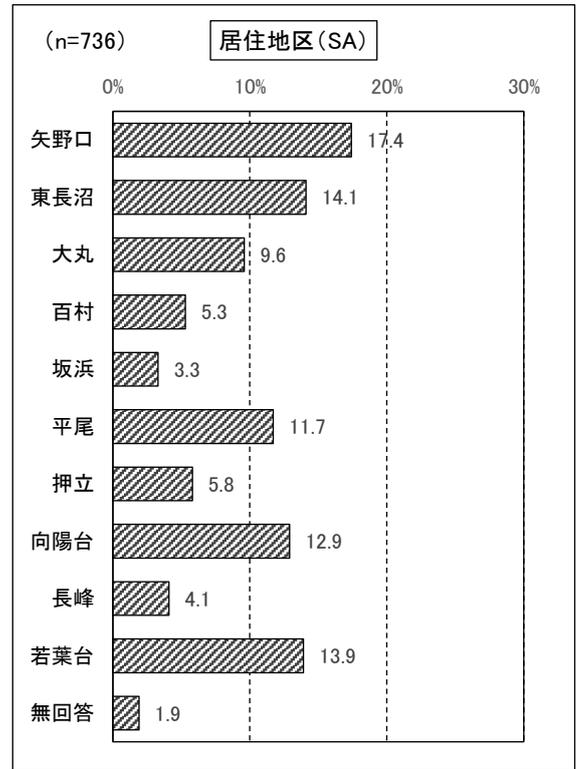


3 居住地区

〔令和元年度〕

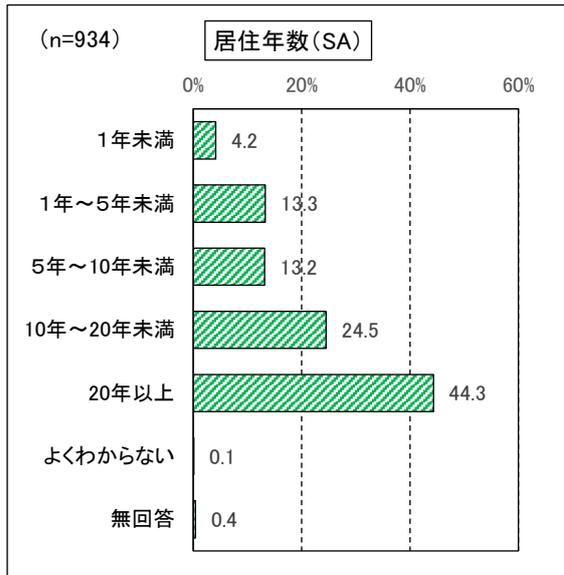


〔平成 26 年度〕

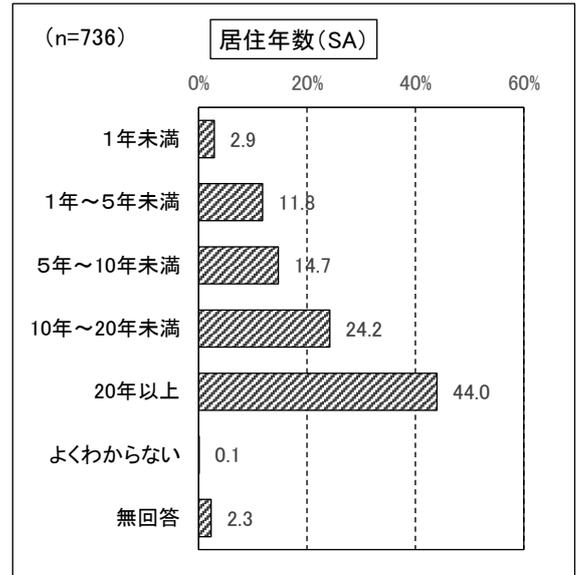


4 居住年数

〔令和元年度〕

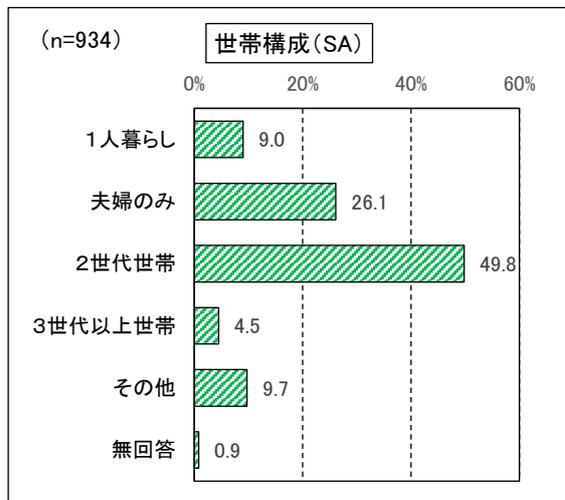


〔平成 26 年度〕

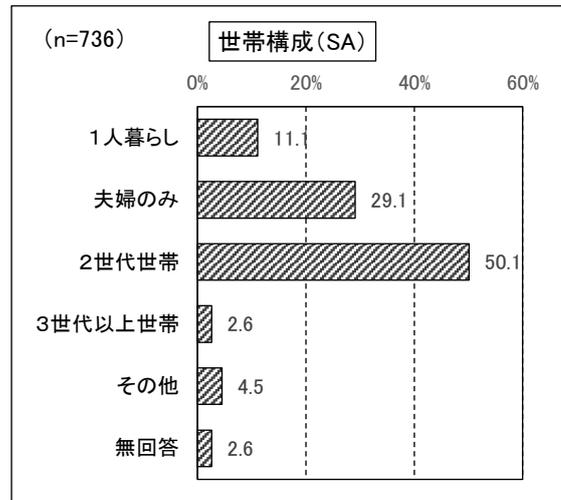


5 世帯構成

〔令和元年度〕

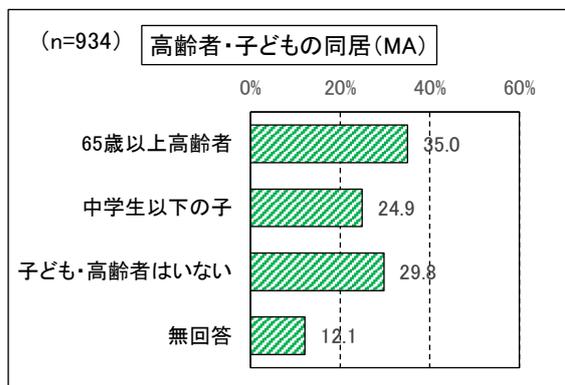


〔平成 26 年度〕



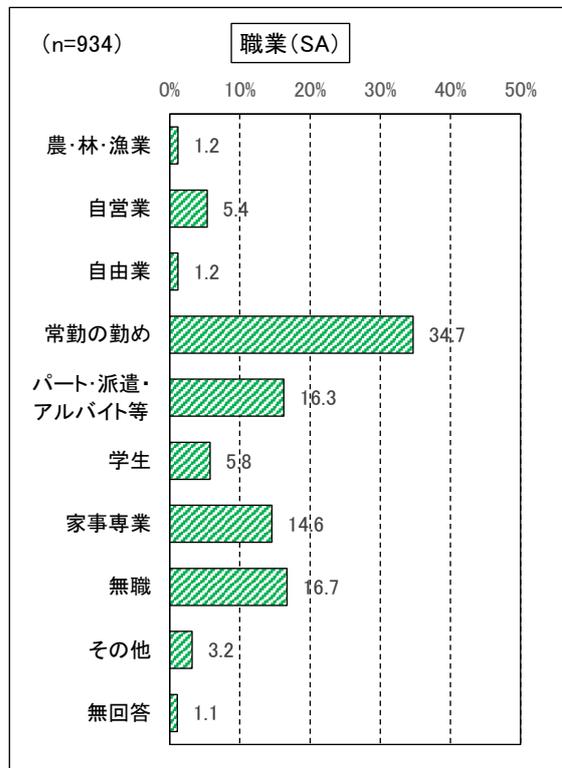
6 高齢者・子どもの同居

〔令和元年度〕

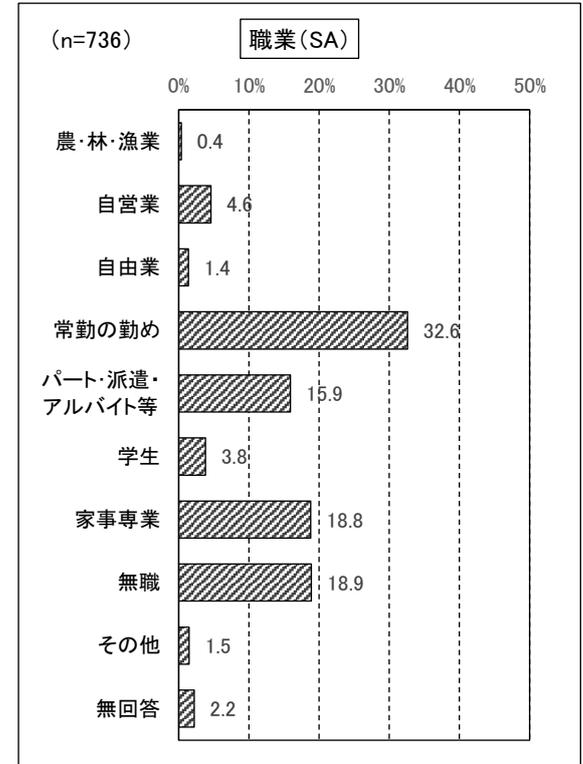


7 職業

〔令和元年度〕

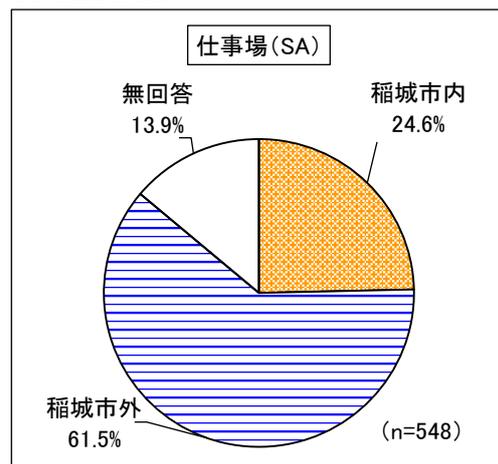


〔平成 26 年度〕

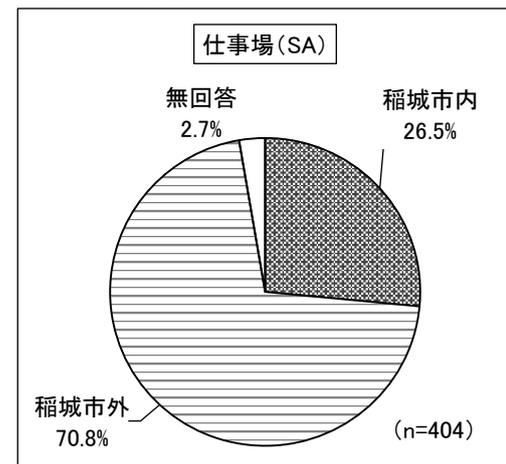


7-1 仕事場

〔令和元年度〕



〔平成 26 年度〕



Ⅲ 調査の結果

1 稲城市の住みやすさについて

(1) 稲城市の住みやすさ

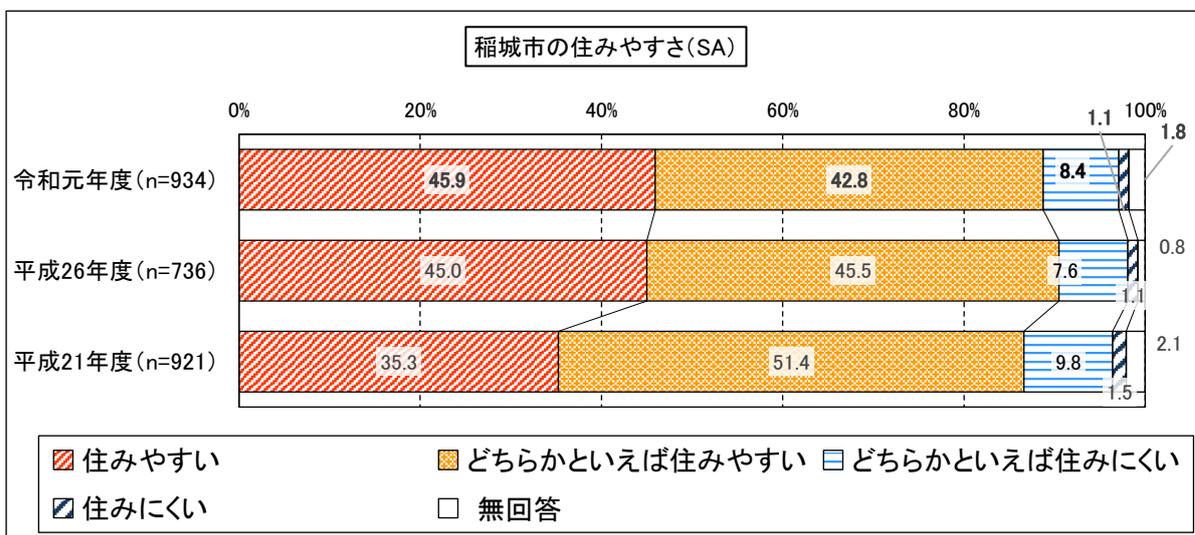
〔全体〕

稲城市の住みやすさについては、「住みやすい」が 45.9%、「どちらかといえば住みやすい」が 42.8%となっており、合わせて 88.7%と 9割近くの回答者が“住みやすい”と回答しています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」は 8.4%、「住みにくい」は 1.1%となっており、合わせて 9.5%と、約 1割の回答者が“住みにくい”と回答しています。

〔比較〕

前回（平成 26 年度）及び前々回（平成 21 年度）と比較すると、「住みやすい」の回答割合が増加傾向にあります。



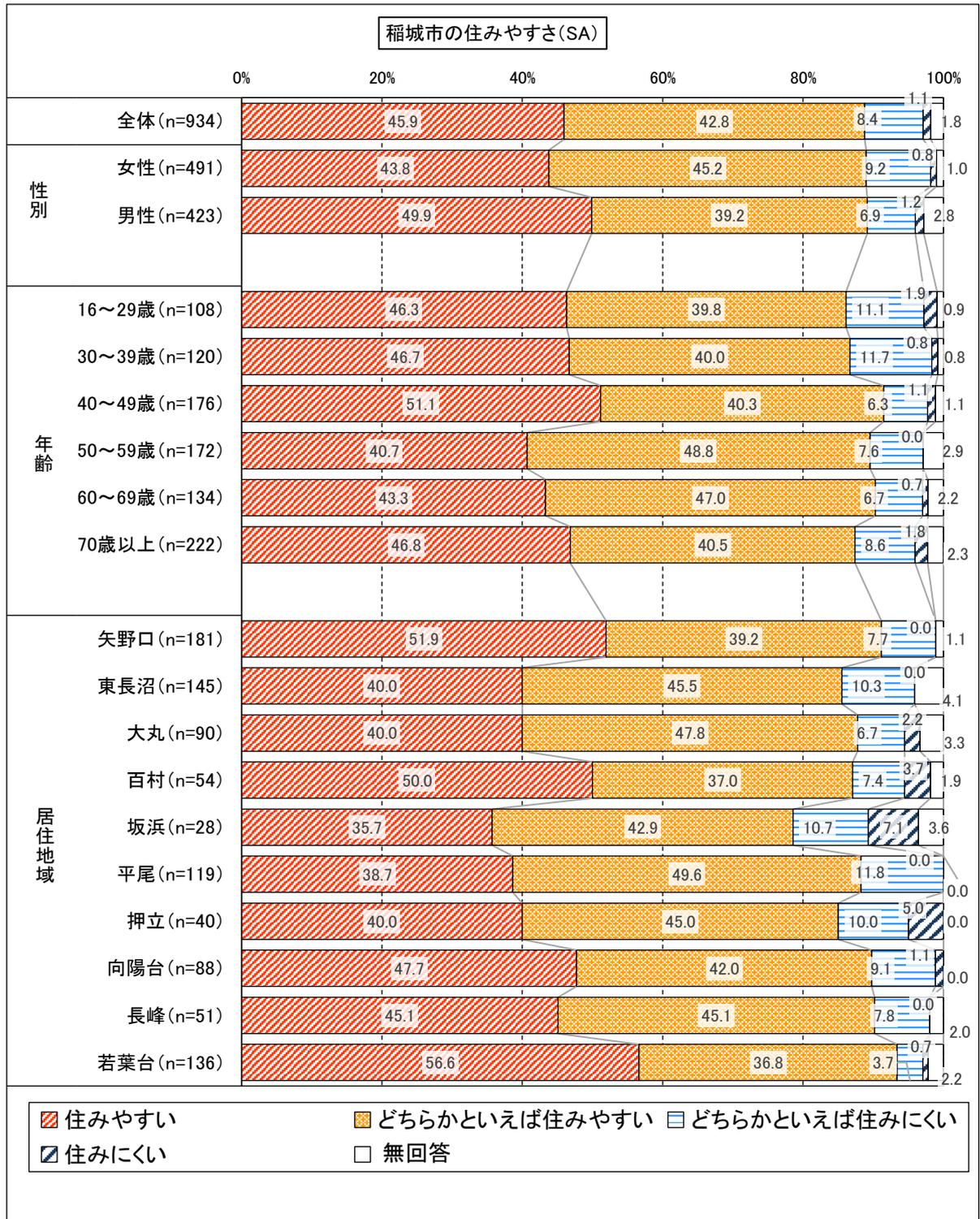
〔属性別〕

性別で見ると、女性は「どちらかといえば住みやすい」が多く、男性は「住みやすい」が多くなっていますが、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた“住みやすい”は男女ともに 9割近くとなっています。

年齢別で見ると、“住みやすい”は 16～29 歳、30～39 歳、50～59 歳、70 歳以上で 9割弱、40～49 歳、60～69 歳で 9割強となっています。

居住地域別で見ると、“住みやすい”は各地域ともに 9割を超えています。坂浜は 8割弱となっており、他の居住地域と比較して低くなっています。

〔属性別〕



(2) 今後の居留意向

〔全体〕

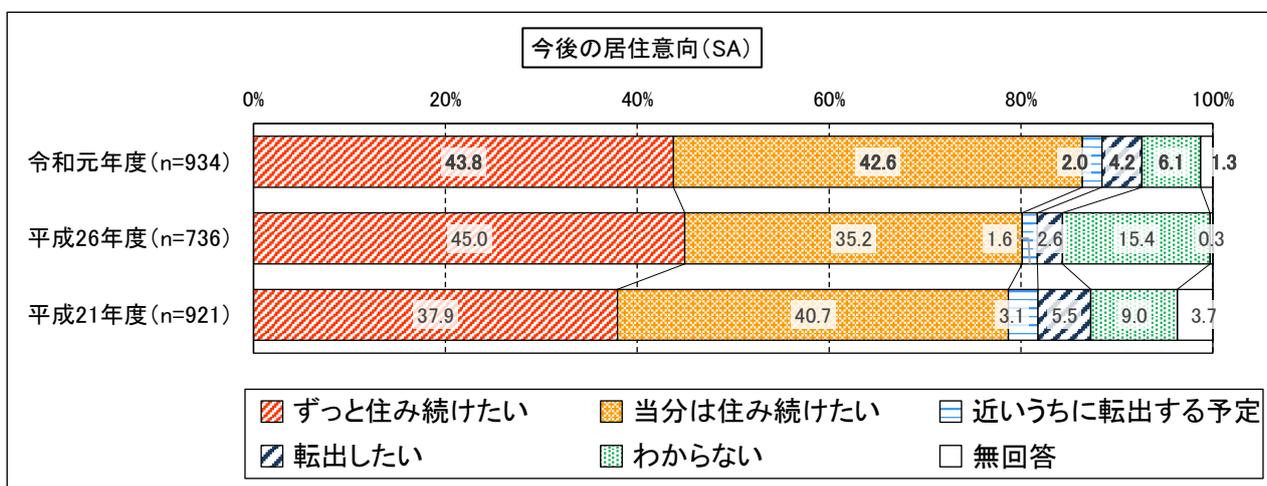
今後の居留意向については、「ずっと住み続けたい」が43.8%と最も高くなっており、次いで、「当分は住み続けたい」が42.6%、「転出したい」が4.2%、「近いうちに転出する予定」が2.0%と続いています。

「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた“住み続けたい”は86.4%となっています。

一方、「近いうちに転出する予定」と「転出したい」を合わせた“転出したい”は6.2%と少ない回答割合となっています。

〔比較〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、“住み続けたい”の回答割合が増加しています。

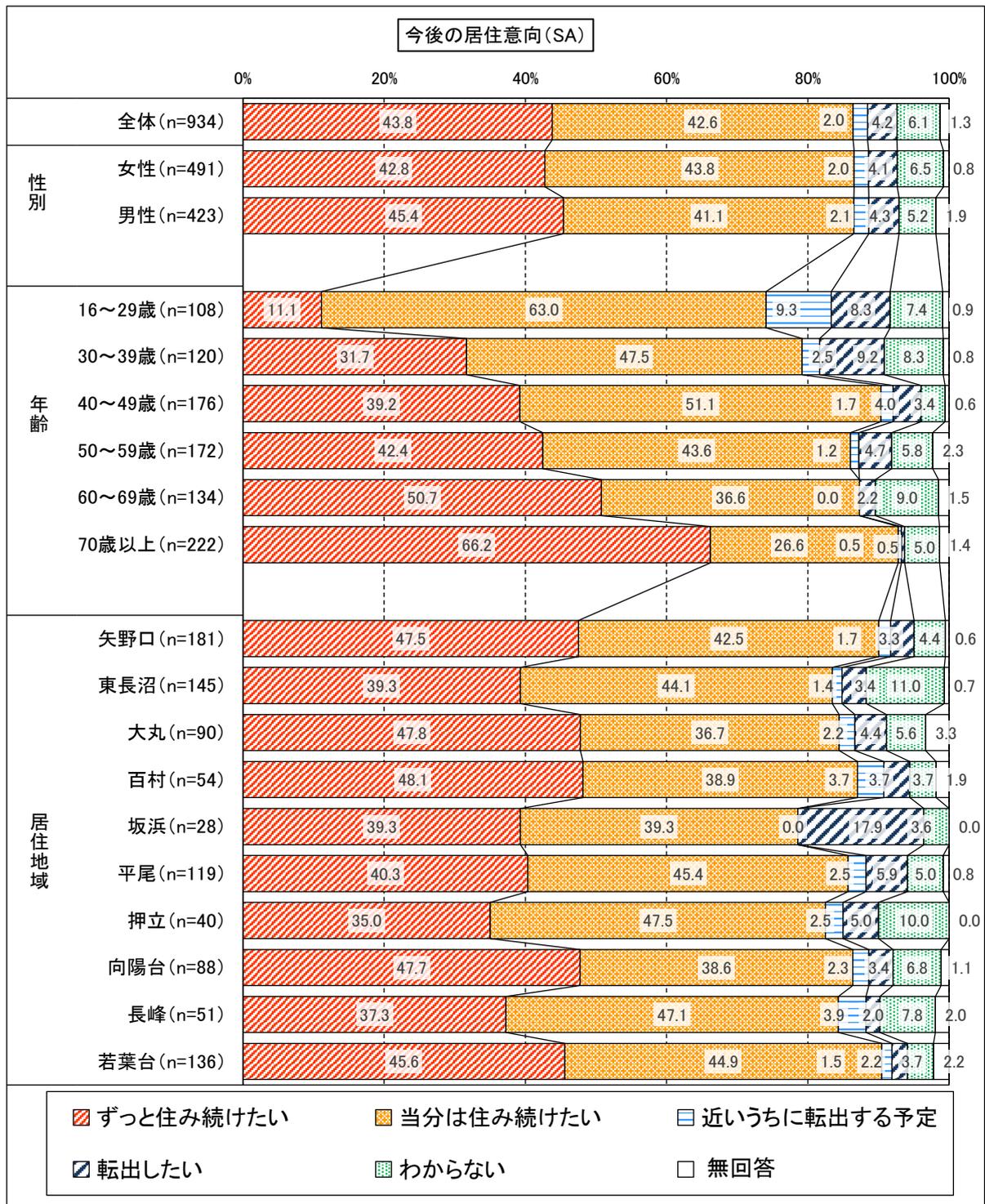


〔属性別〕

性別でみると、男女ともに「ずっと住み続けたい」が4割を超え、「当分は住み続けたい」と併せた“住み続けたい”は、男女ともに8割半ばとなっています。

年齢別でみると、“住み続けたい”は40歳以上で8割以上と多くなっていますが、16～29歳では74.1%と7割台半ばとなっています。

居住地域別でみると、“住み続けたい”は矢野口、東長沼、大丸、百村、平尾、押立、向陽台、長峰、若葉台で8割以上と多くなっていますが、坂浜は8割を下回る結果となっています。



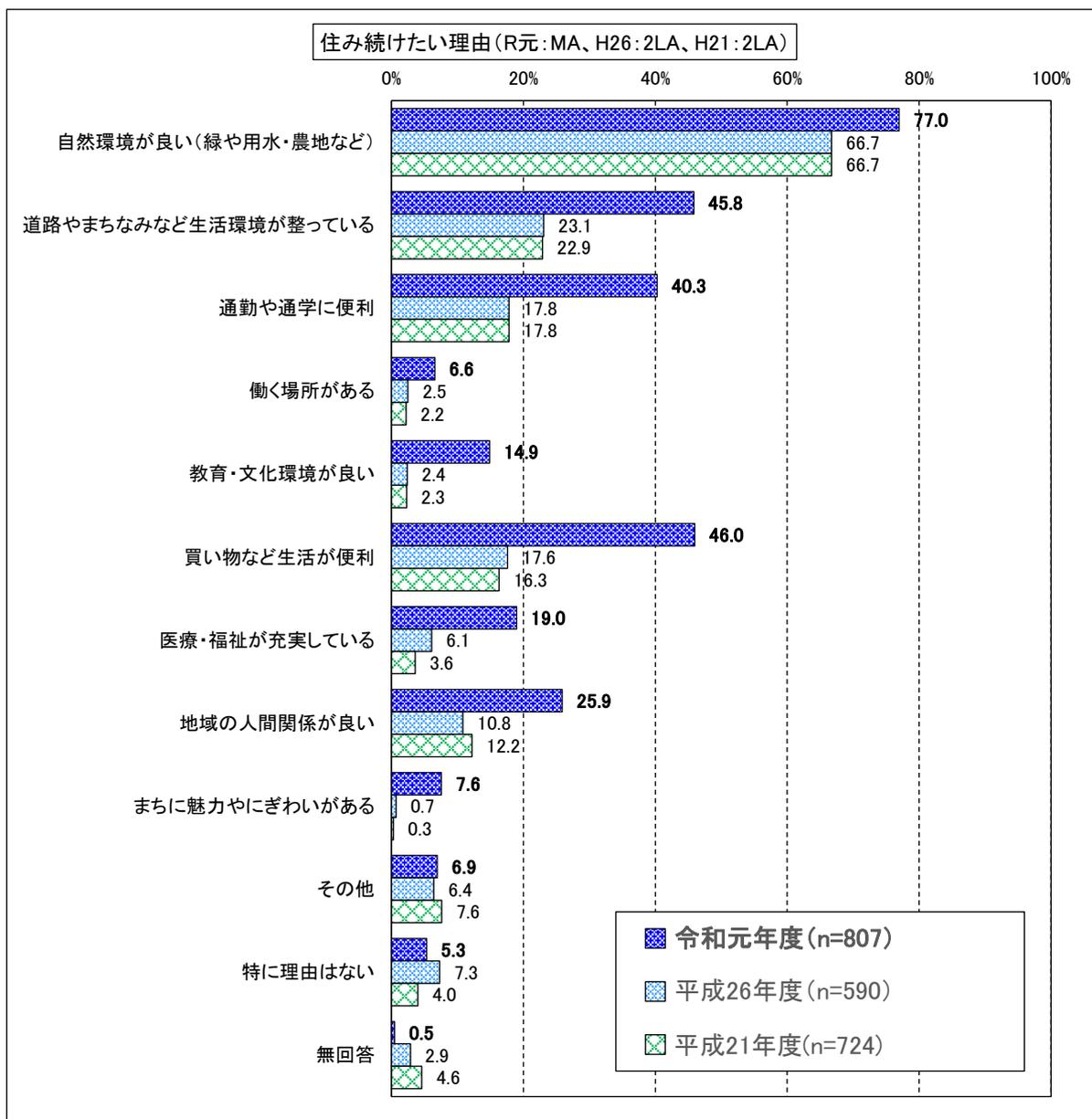
(2) -1 住み続けたい理由

〔全体〕

住み続けたい理由は、「自然環境が良い(緑や用水・農地など)」が77.0%と最も高く、次いで、「買物など生活が便利」が46.0%、「道路やまちなみなど生活環境が整っている」が45.8%、「通勤や通学に便利」が40.3%と続いています。

〔比較〕

今回の回答条件(MA:回答選択数制限なし)と、前回(平成26年度)及び前々回(平成21年度)の回答条件(LA:選択回答数制限)が異なるため、一概に比較はできませんが、回答傾向はおおむね同様であり、特徴がより明確に表れています。



〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 学校から近い(女性 10代)
- ・ 静か(男性 20代)
- ・ 地元だから(女性 20代)
- ・ ヴェルディのホームタウン(男性 30代)
- ・ 近所に梨がある(男性 30代)
- ・ 今のところ引っ越す理由がない(男性 30代)
- ・ 混みあっていない(男性 30代)
- ・ 治安が良い(男性 30代)
- ・ 生まれてから稲城を出たことがないから(男性 30代)
- ・ 保育園に入れた(男性 30代)
- ・ I Cが近い(女性 30代)
- ・ 家を購入したため。(女性 30代)
- ・ 治安が良い(女性 30代)
- ・ 図書館のサービスがより利用しやすい(女性 30代)
- ・ 療養中の為生活環境を変えたくない(女性 30代)
- ・ 実家に近い(40代)
- ・ テニスコートが利用しやすい、連盟の大会もありがたい。(男性 40代)
- ・ のんびり出来る町(男性 40代)
- ・ 育児環境がよい(男性 40代)
- ・ 家がある(男性 40代)
- ・ 実家があるから(男性 40代)
- ・ 持ち家(女性 40代)
- ・ 治安が良い(女性 40代)
- ・ 車移動を含めば充分便利(女性 40代)
- ・ 生まれ育った場所だから(女性 40代)
- ・ 長く住んでる場所なので(女性 40代)
- ・ 会社に近い(男性 50代)
- ・ 持家の自宅があるから。様々な不便は感じるが、ネットを使えば大きな問題はない。(男性 50代)
- ・ 他に住む所がみあたらない(男性 50代)
- ・ ゴミ処理が楽(女性 50代)
- ・ 一戸建を購入した為(女性 50代)
- ・ 自宅だから(女性 50代)
- ・ 車で買い物ができる(女性 50代)
- ・ 静か 都心に近い割に比較的空気が綺麗(女性 50代)
- ・ やっと、住宅ローン完済した。(男性 60代)
- ・ 住みなれた為(男性 60代)
- ・ 駅に近い。(女性 60代)
- ・ 今住んでいるから(女性 60代)
- ・ 市長の定住型の考えに共感(女性 60代)
- ・ 治安良好(女性 60代)
- ・ 人口が増加している(男性 70代)
- ・ 静けさがある(男性 70代)
- ・ 他に比べて緑が多い(男性 70代)
- ・ 持家が有るから(女性 70代)
- ・ 息子家族が近くに居住(女性 70代)
- ・ 引越に金が掛る(70代)
- ・ 永い間すみなれたこと(女性 80代)

〔属性別：性別〕

	自然環境が良い (緑や用水・農地など)	道路やまちなみなど 生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買い物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	まちに魅力やにぎわいがある	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=807)	77.0	45.8	40.3	6.6	14.9	46.0	19.0	25.9	7.6	6.9	5.3	0.5
女性 (n=425)	76.2	46.8	40.2	8.0	14.4	46.6	15.5	28.2	5.9	7.3	5.4	0.2
男性 (n=366)	78.1	45.9	41.0	5.2	15.3	45.4	22.7	23.8	9.8	6.3	5.2	0.8

性別でみると、男女ともに「自然環境が良い」が8割近くと高くなっています。

次いで、男女ともに「道路やまちなみなど生活環境が整っている」が続いていますが、女性は「買い物など生活が便利」も高い回答割合となっています。

なお、有意差があるとはいえませんが、男性では「医療・福祉が充実している」が女性よりも高く、女性では「地域の人間関係が良い」が男性よりも高くなっています。

〔属性別：年齢別〕

	自然環境が良い (緑や用水・農地など)	道路やまちなみなど 生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買い物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	まちに魅力やにぎわいがある	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=807)	77.0	45.8	40.3	6.6	14.9	46.0	19.0	25.9	7.6	6.9	5.3	0.5
16～29歳 (n=80)	67.5	50.0	48.8	8.8	18.8	36.3	16.3	20.0	6.3	6.3	3.8	0.0
30～39歳 (n=95)	73.7	46.3	40.0	4.2	18.9	40.0	14.7	28.4	12.6	16.8	3.2	0.0
40～49歳 (n=159)	77.4	45.9	52.2	8.8	22.0	37.1	15.1	25.8	6.3	6.9	3.1	0.0
50～59歳 (n=148)	79.7	45.9	50.0	8.8	10.8	43.2	14.9	25.7	6.8	6.1	2.0	0.0
60～69歳 (n=117)	74.4	37.6	35.0	6.8	6.0	49.6	16.2	17.9	8.5	6.8	4.3	0.9
70歳以上 (n=206)	81.1	49.0	23.8	3.4	14.1	59.2	29.6	32.0	6.8	3.4	11.7	1.5

年齢別でみると、すべての年齢層において「自然環境が良い」が高くなっていますが、16～29歳では他の年齢層に比べ多少低くなっています。

次いで高い回答割合として続いているのは、16歳～39歳では「道路やまちなみなど生活環境が整っている」、40歳～59歳では「通勤や通学に便利」、60歳以上では「買い物など生活が便利」となっています。

〔属性別：居住地域別〕

	自然環境が良い (緑や用水・農地など)	道路やまちなみなど 生活環境が整っている	通勤や通学に便利	働く場所がある	教育・文化環境が良い	買い物など生活が便利	医療・福祉が充実している	地域の人間関係が良い	まちに魅力やにぎわいがある	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=807)	77.0	45.8	40.3	6.6	14.9	46.0	19.0	25.9	7.6	6.9	5.3	0.5
矢野口 (n=163)	74.2	43.6	49.7	8.0	11.0	59.5	16.6	28.2	6.1	6.1	6.1	0.0
東長沼 (n=121)	67.8	31.4	44.6	6.6	13.2	36.4	20.7	29.8	6.6	6.6	6.6	1.7
大丸 (n=76)	80.3	35.5	47.4	10.5	11.8	38.2	26.3	22.4	6.6	7.9	6.6	1.3
百村 (n=47)	74.5	36.2	42.6	6.4	14.9	48.9	17.0	23.4	2.1	12.8	4.3	2.1
坂浜 (n=22)	86.4	18.2	18.2	9.1	27.3	31.8	18.2	50.0	9.1	4.5	9.1	0.0
平尾 (n=102)	73.5	30.4	42.2	7.8	8.8	43.1	13.7	24.5	3.9	9.8	6.9	0.0
押立 (n=33)	72.7	21.2	51.5	3.0	9.1	30.3	18.2	33.3	6.1	6.1	3.0	0.0
向陽台 (n=76)	85.5	59.2	22.4	3.9	18.4	44.7	26.3	22.4	5.3	3.9	6.6	0.0
長峰 (n=43)	93.0	65.1	20.9	7.0	11.6	23.3	11.6	27.9	7.0	0.0	4.7	0.0
若葉台 (n=123)	79.7	82.9	35.8	3.3	26.8	58.5	19.5	18.7	17.9	8.1	0.8	0.0

居住地域別でみると、ほとんどの地域で「自然環境が良い」への回答割合が最も高くなっており、特に大丸、坂浜、向陽台では8割以上、長峰では9割以上となっています。

次いで高い回答割合として続いているのは、矢野口、百村、平尾が「買い物など生活が便利」、東長沼、大丸、押立が「通勤や通学に便利」、向陽台、長峰が「道路やまちなみなど生活環境が整っている」となっています。なお、坂浜では「地域の人間関係が良い」が続いています。

若葉台では「道路やまちなみなど生活環境が整っている」への回答割合が最も高くなっており、「自然環境が良い」が次いで高くなっています。

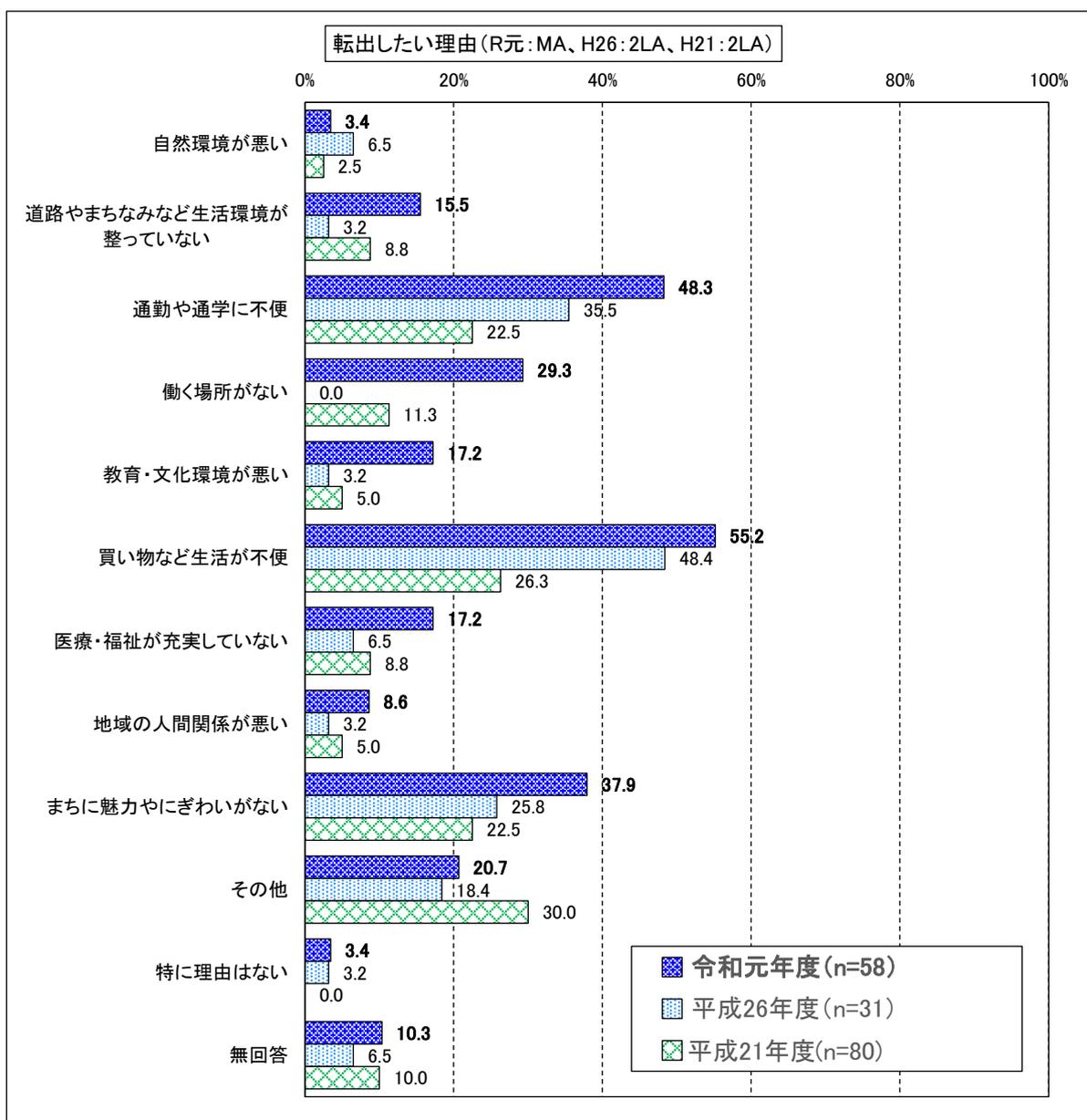
(2) -2 転出したい理由

〔全体〕

住み続けたくない理由は、「買い物など生活が不便」が55.2%と最も高く、次いで、「通勤や通学に不便」が48.3%、「まちに魅力やにぎわいがない」が37.9%と続いています。

〔比較〕

今回の回答条件（MA：回答選択数制限なし）と、前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の回答条件（LA：選択回答数制限）が異なるため、一概に比較はできませんが、回答傾向はおおむね同様の傾向となっています。



〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 会社の寮 来春卒業予定→都内に住む予定(男性 20代)
- ・ 結婚が決まった為。(女性 20代)
- ・ 家かマンションがほしい(女性 20代)
- ・ スーパーなど最低限は充実しているがファッションモールなどがなく街に活気もなく不便です。(女性 20代)
- ・ ベッドタウンと農地のイメージでもっとホームオフィス環境向きであればと思う。(男性 30代)
- ・ 実家に戻るため(女性 30代)
- ・ 結婚(男性 40代)
- ・ 近所に変質者がいて困っている(女性 40代)
- ・ 自治会やPTAが大変である。(女性 40代)
- ・ 金融機関、郵便局の未整備または未増築(男性 50代)
- ・ 行政(市役所)がひどいから(男性 60代)
- ・ 自然の公園がない(女性 60代)
- ・ 高台に家を建てたので 高齢になると平地に住みたい(女性 70代)
- ・ 交通の便が悪い(女性 80代)

〔属性別：性別〕

	自然環境が悪い	道路やまちなみなど生活環境が整っていない	通勤や通学に不便	働く場所がない	教育・文化環境が悪い	買い物など生活が不便	医療・福祉が充実していない	地域の人間関係が悪い	まちに魅力やにぎわいが無い	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=58)	3.4	15.5	48.3	29.3	17.2	55.2	17.2	8.6	37.9	20.7	3.4	10.3
女性 (n=30)	0.0	13.3	50.0	40.0	16.7	60.0	16.7	10.0	40.0	23.3	0.0	13.3
男性 (n=27)	7.4	18.5	44.4	18.5	18.5	48.1	14.8	7.4	33.3	18.5	7.4	7.4

住み続けたくない理由は、男女ともに「買い物など生活が不便」が最も高く、次いで、「通勤や通学に不便」が続いています。

〔属性別：年齢別〕

	自然環境が悪い	道路やまちなみなど生活環境が整っていない	通勤や通学に不便	働く場所がない	教育・文化環境が悪い	買い物など生活が不便	医療・福祉が充実していない	地域の人間関係が悪い	まちに魅力やにぎわいが無い	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=58)	3.4	15.5	48.3	29.3	17.2	55.2	17.2	8.6	37.9	20.7	3.4	10.3
16～29歳 (n=19)	0.0	21.1	68.4	26.3	10.5	52.6	0.0	10.5	26.3	15.8	5.3	5.3
30～39歳 (n=14)	7.1	0.0	42.9	28.6	28.6	57.1	21.4	0.0	42.9	14.3	7.1	14.3
40～49歳 (n=10)	0.0	30.0	50.0	50.0	30.0	60.0	10.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0
50～59歳 (n=10)	10.0	20.0	30.0	10.0	0.0	50.0	40.0	10.0	50.0	10.0	0.0	30.0
60～69歳 (n=3)	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
70歳以上 (n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

※60～69歳 (n=3)、70歳以上 (n=2) は回答者基数が少ないため、網掛はしていません。

回答者数が少なく参考データとしてみると、住み続けたくない理由は、16～29歳が「通勤や通学に不便」への回答割合が最も高くなっていますが、その他の年齢層では「買い物など生活が不便」への回答が高くなっています。

〔属性別：居住地域別〕

	自然環境が悪い	道路やまちなみなど生活環境が整っていない	通勤や通学に不便	働く場所がない	教育・文化環境が悪い	買い物など生活が不便	医療・福祉が充実していない	地域の人間関係が悪い	まちに魅力やにぎわいが無い	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=58)	3.4	15.5	48.3	29.3	17.2	55.2	17.2	8.6	37.9	20.7	3.4	10.3
矢野口 (n=9)	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2	22.2	33.3	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2
東長沼 (n=7)	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	57.1	14.3	14.3	42.9	0.0	0.0	42.9
大丸 (n=6)	0.0	33.3	66.7	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7
百村 (n=4)	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
坂浜 (n=5)	20.0	40.0	100.0	80.0	40.0	100.0	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0
平尾 (n=10)	0.0	0.0	60.0	30.0	10.0	80.0	20.0	20.0	50.0	0.0	10.0	0.0
押立 (n=3)	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
向陽台 (n=5)	0.0	20.0	60.0	80.0	20.0	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0
長峰 (n=3)	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
若葉台 (n=5)	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0

※属性別の回答者基数が少ないため、網掛はしていません。

※回答者数が少ないため参考データとします。

2 稲城市での暮らしやすさの満足度について

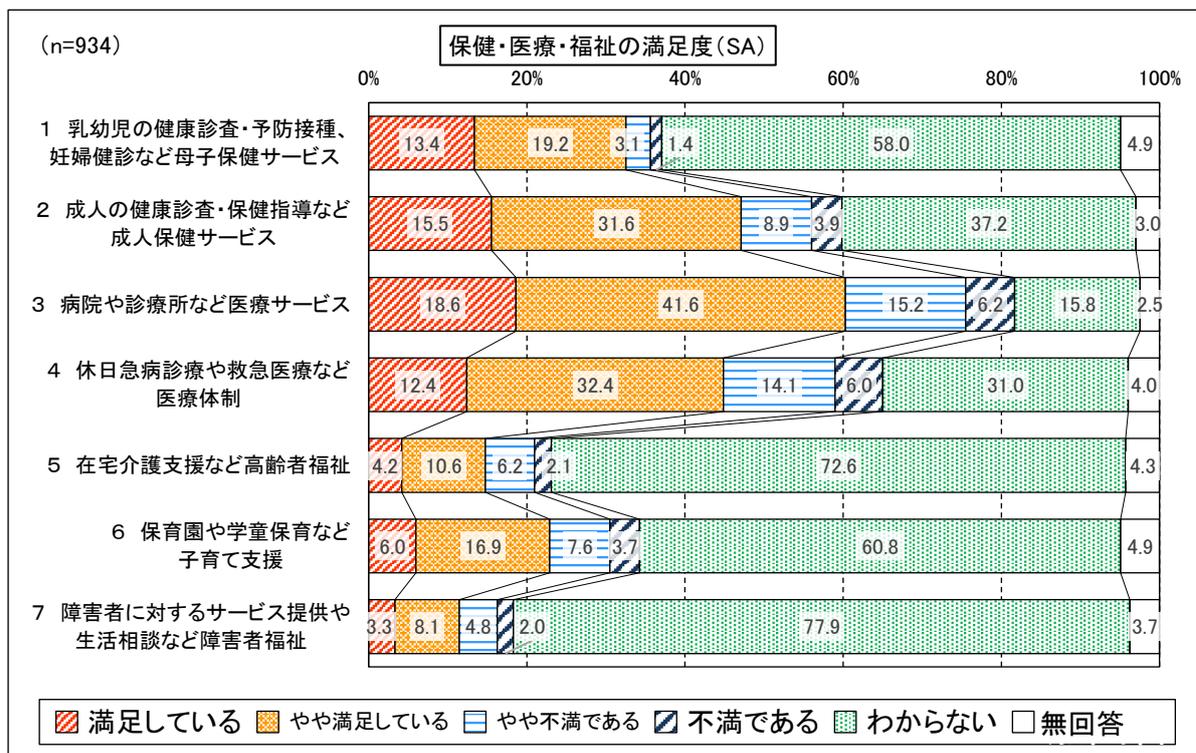
(1) 保健・医療・福祉の満足度

〔全体〕

満足度については、「病院や診療所など医療サービス」が18.6%と最も高く、次いで、「成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス」が15.5%、「乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス」が13.4%と続いています。

「満足している」と「やや満足している」の回答割合を合わせた“満足している”では、「病院や診療所など医療サービス」が60.2%と最も高く、次いで、「成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス」が47.1%、「休日急病診療や救急医療など医療体制」が44.8%と続いています。

また、“満足している”の回答割合が高い「病院や診療所など医療サービス」及び「休日急病診療や救急医療など医療体制」、「成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス」に対しては、“不満である”（「やや不満である」と「不満である」を合わせた回答割合）の回答割合も比較的高く、「わからない」の回答割合が少ない、関心の高い項目となっています。



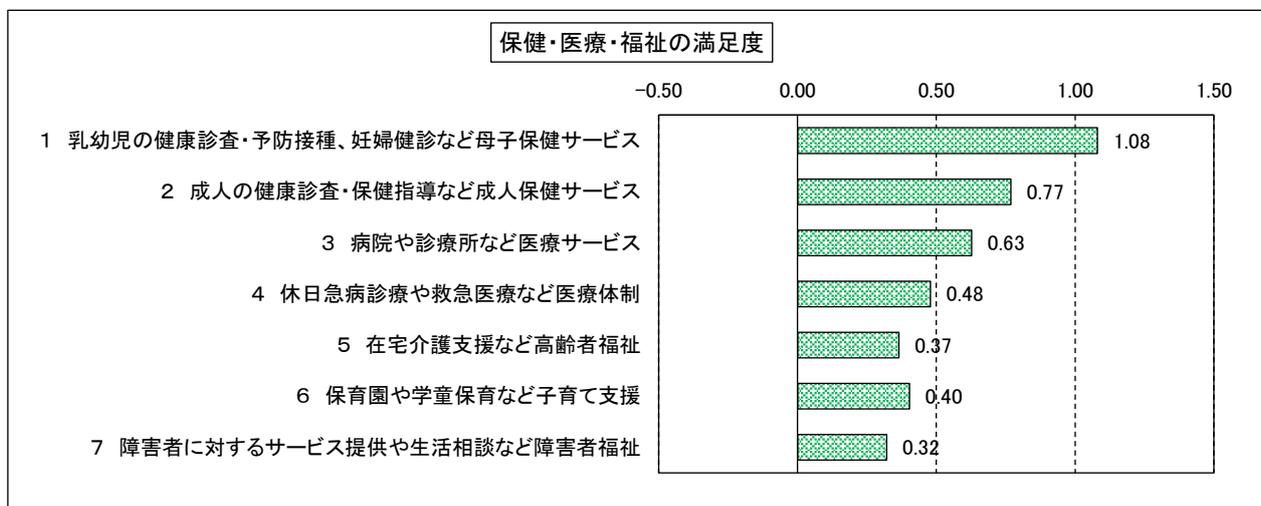
《加重平均値の算出方法》

「満足している」を+2点、「やや満足している」を+1点、「やや不満である」を-1点、「不満である」を-2点、「わからない」を0点として、それぞれの回答を点数に換算する。施策ごとに回答者の点数合計を算出し、その合計点を「無回答」を除いた人数で割り、得点を算出する。

※この方法で算出すると、それぞれの点数は+2点から-2点の間で表される。満足度が高いものは+、満足度が引くものは-に得点が分布される。

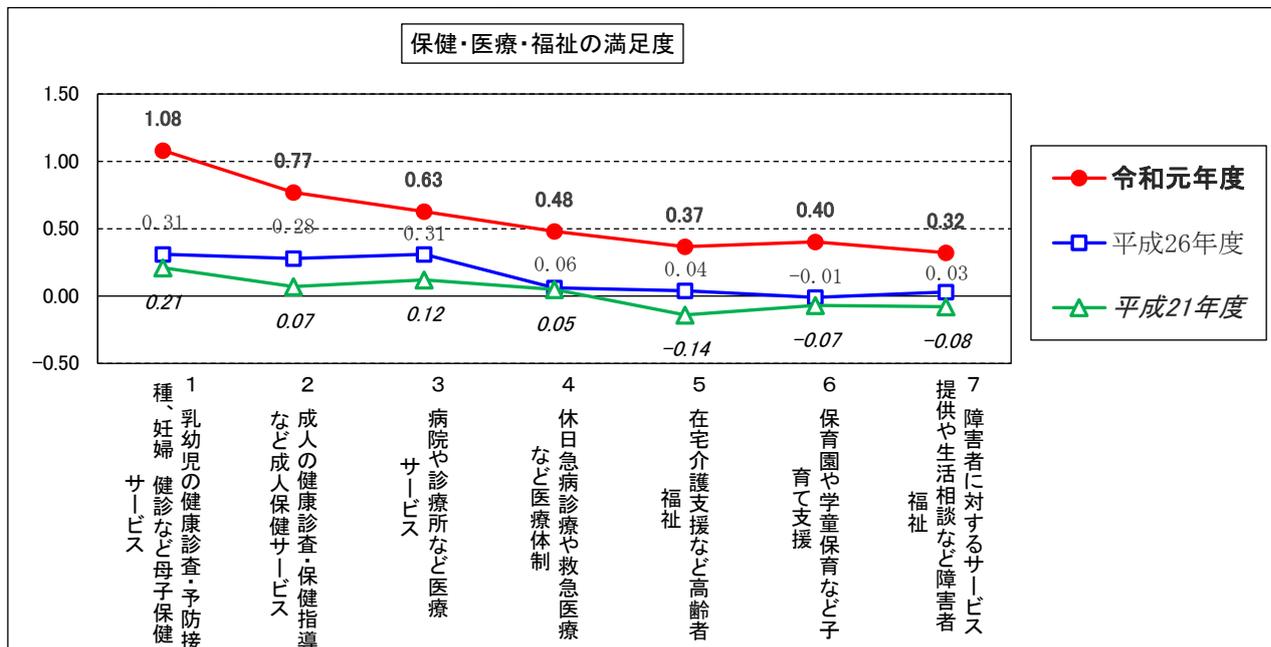
〔加重平均値〕

回答選択肢に重みをつけてから平均した加重平均値で回答結果を見ると、「乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス」が最も“満足している”に傾いており、「成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス」、「病院や診療所など医療サービス」と続いています。



〔加重平均値：経年変化〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の結果と加重平均値で比較すると、すべての項目で評価点が高くなっています。



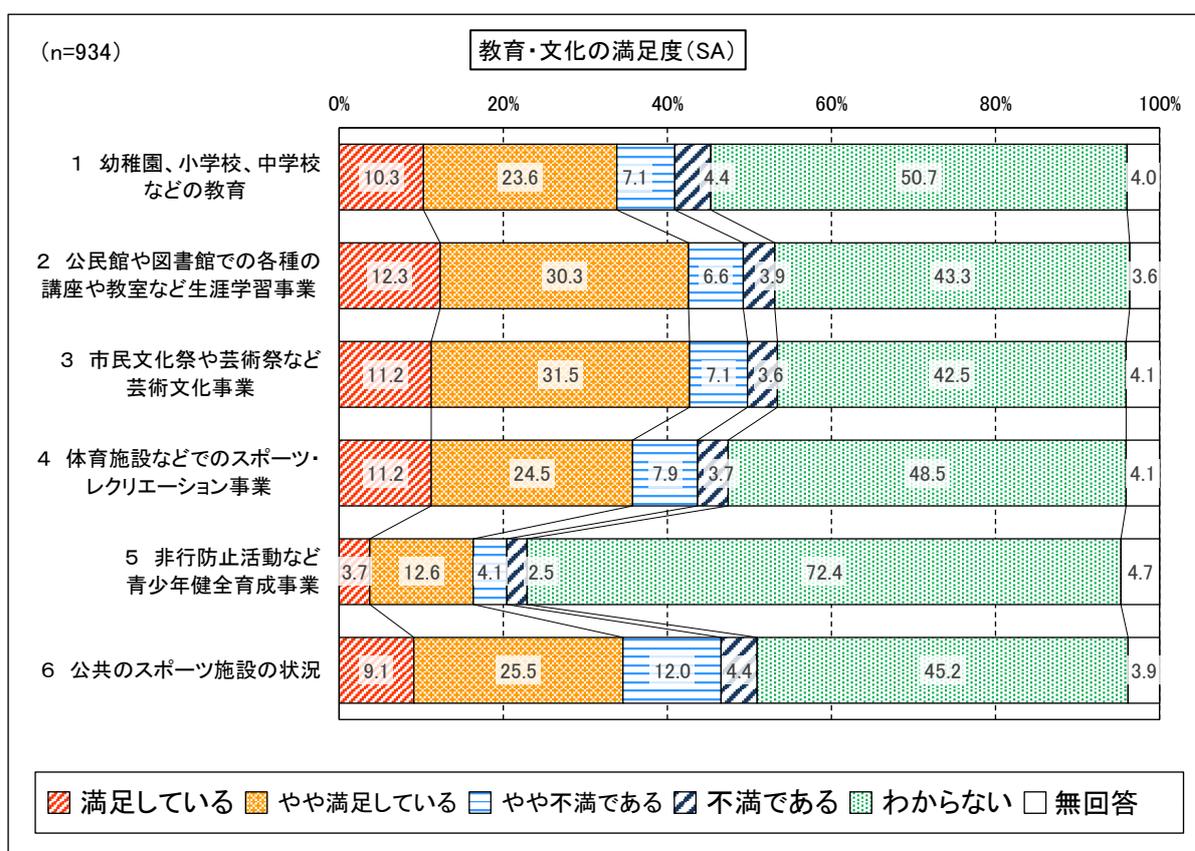
(2) 教育・文化の満足度

〔全体〕

満足度については、「非行防止活動など青少年健全育成事業」を除き、各項目はほぼ同じ回答割合となっています。

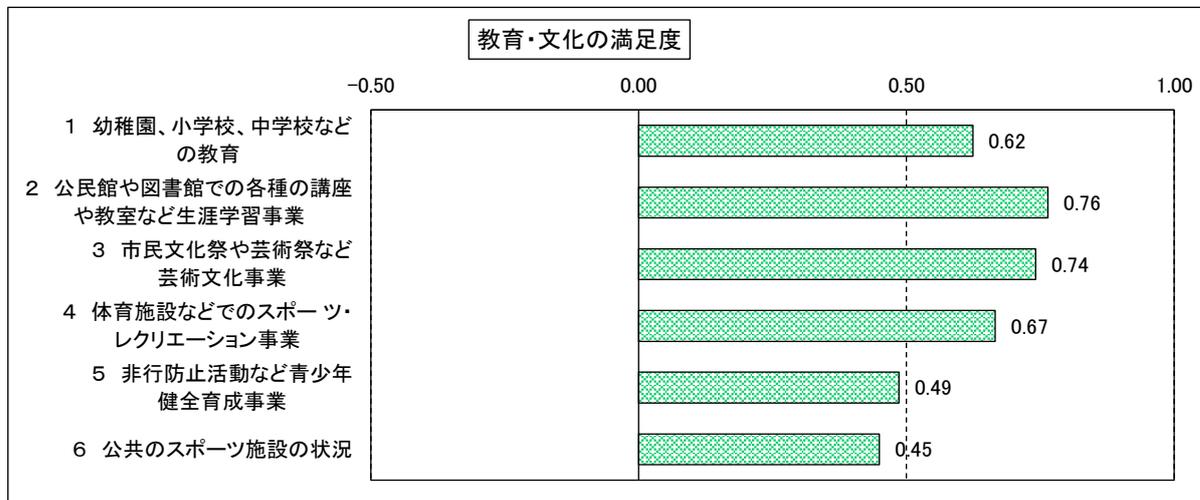
「満足している」と「やや満足している」の回答割合を合わせた“満足している”では、「市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業」が42.7%と最も高く、次いで、「公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業」が42.6%と続いています。ほぼ同じ回答結果となっています。

一方、“不満である”（「やや不満である」と「不満である」を合わせた回答割合）の回答割合では、「公共のスポーツ施設の状況」が他に比べ多少高い結果となっています。



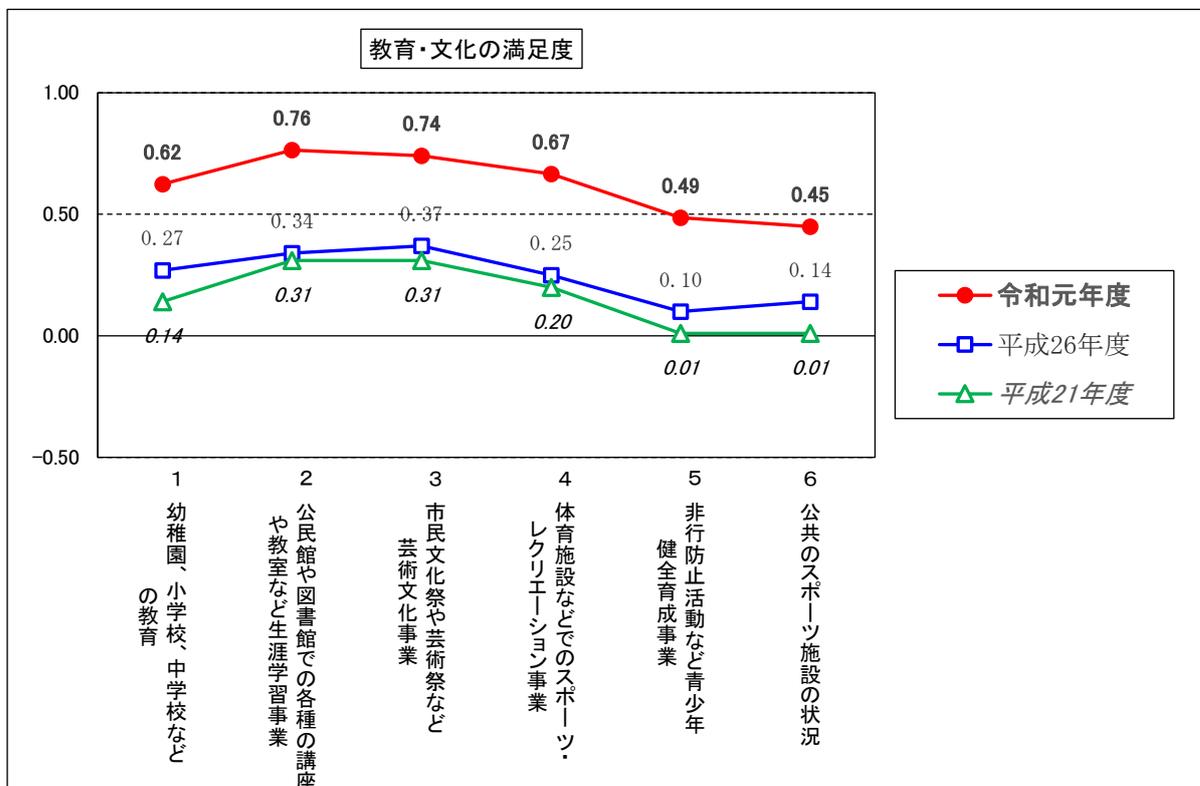
〔加重平均値〕

加重平均値で回答結果を見ると、「公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業」が最も“満足している”に傾いており、「市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業」、「体育施設などでのスポーツ・レクリエーション事業」と続いています。



〔加重平均値：経年変化〕

前回（平成 26 年度）及び前々回（平成 21 年度）の結果と加重平均値で比較すると、すべての項目で評価点が高くなっています。



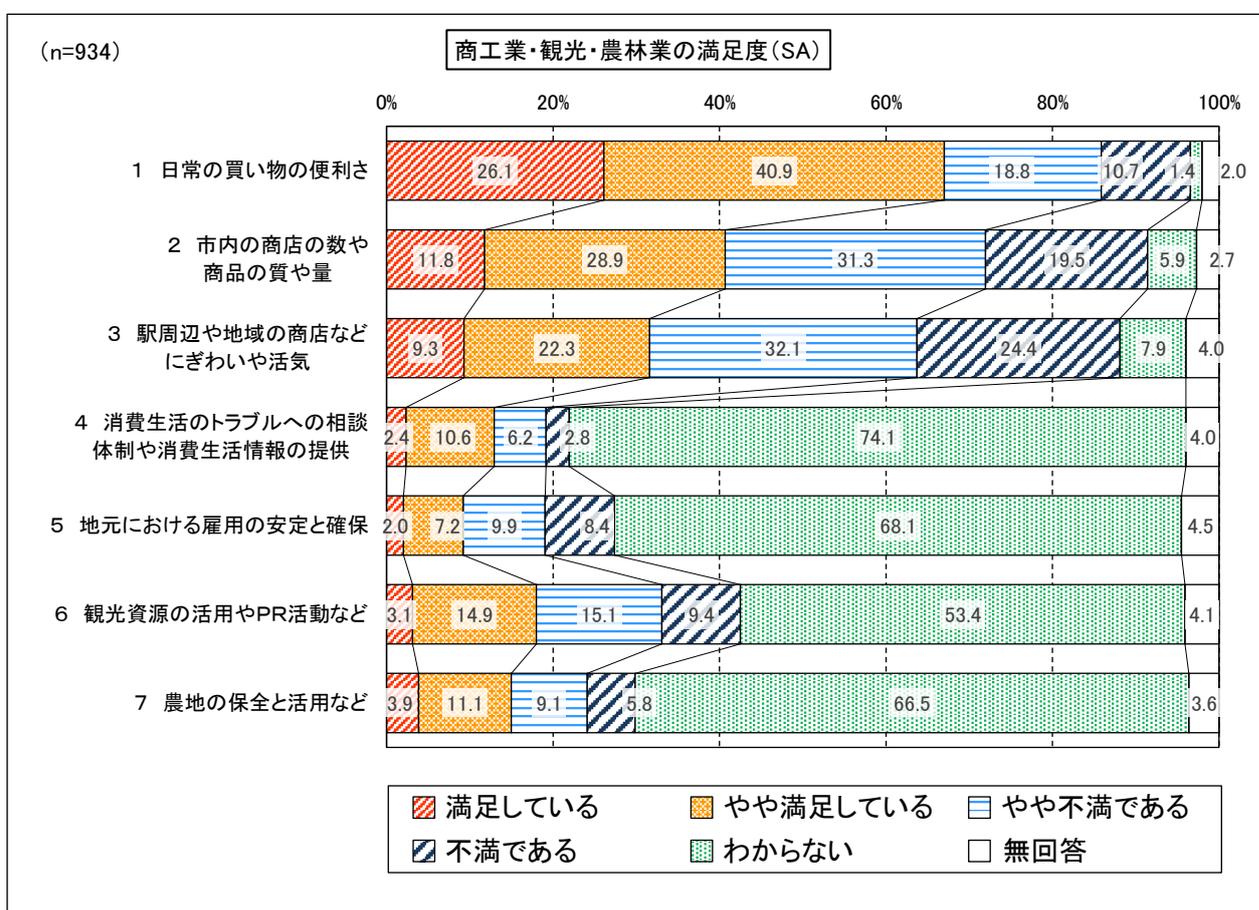
(3) 商工業・観光・農林業の満足度

[全体]

満足度については、「日常の買い物の便利さ」が26.1%と最も高く、次いで、「市内の商店の数や商品の質や量」が11.8%、「駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気」が9.3%と続いています。

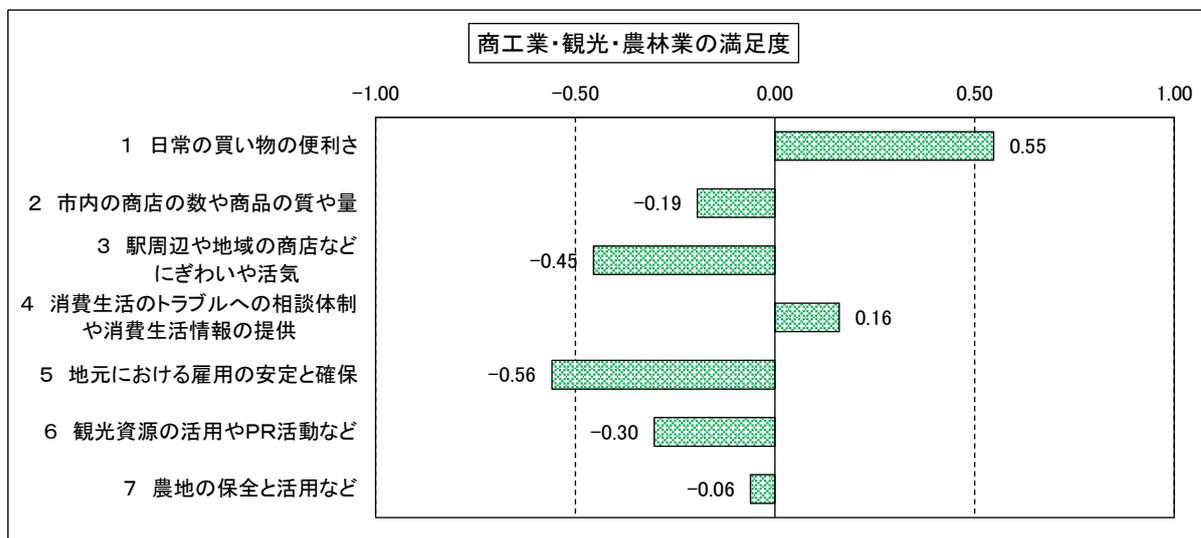
「満足している」と「やや満足している」の回答割合を合わせた“満足している”では、「日常の買い物の便利さ」が67.0%と最も高く、次いで、「市内の商店の数や商品の質や量」が40.7%、「駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気」が31.6%と続いています。

また、“満足している”の回答割合が高い「日常の買い物の便利さ」「市内の商店の数や商品の質や量」「駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気」に対しては、“不満である”（「やや不満である」と「不満である」を合わせた回答割合）の回答割合も高く、「わからない」の回答割合が少ない、関心の高い項目となっています。



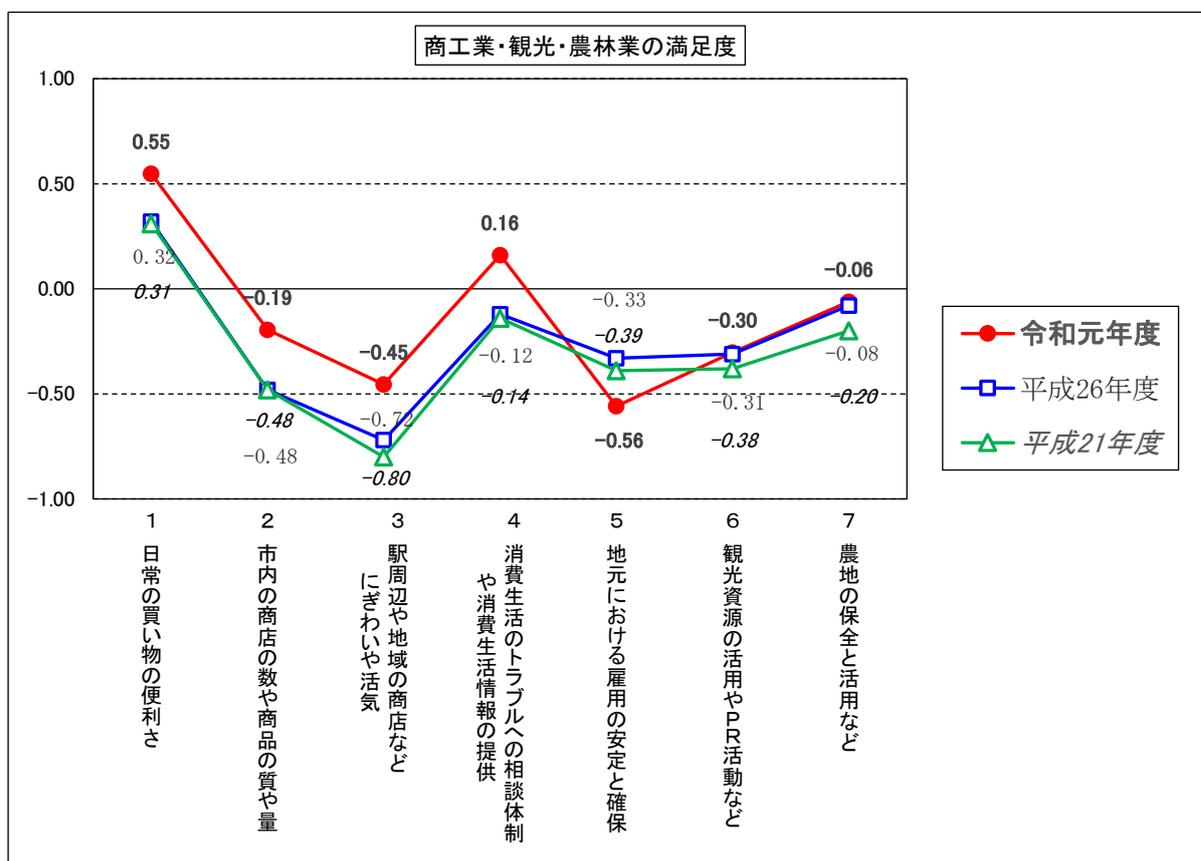
〔加重平均値〕

加重平均値で回答結果を見ると、「日常の買い物の便利さ」と「消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供」が“満足している”に傾いている一方で、その他の項目は“不満である”に傾く結果となっています。



〔加重平均値：経年変化〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の結果と加重平均値で比較すると、「地元における雇用の安定と確保」の評価点が下回り、「観光資源の活用やPR活動など」及び「農地の保全と活用など」の評価点はほぼ同じ結果となっています。



(4) 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度

〔全体〕

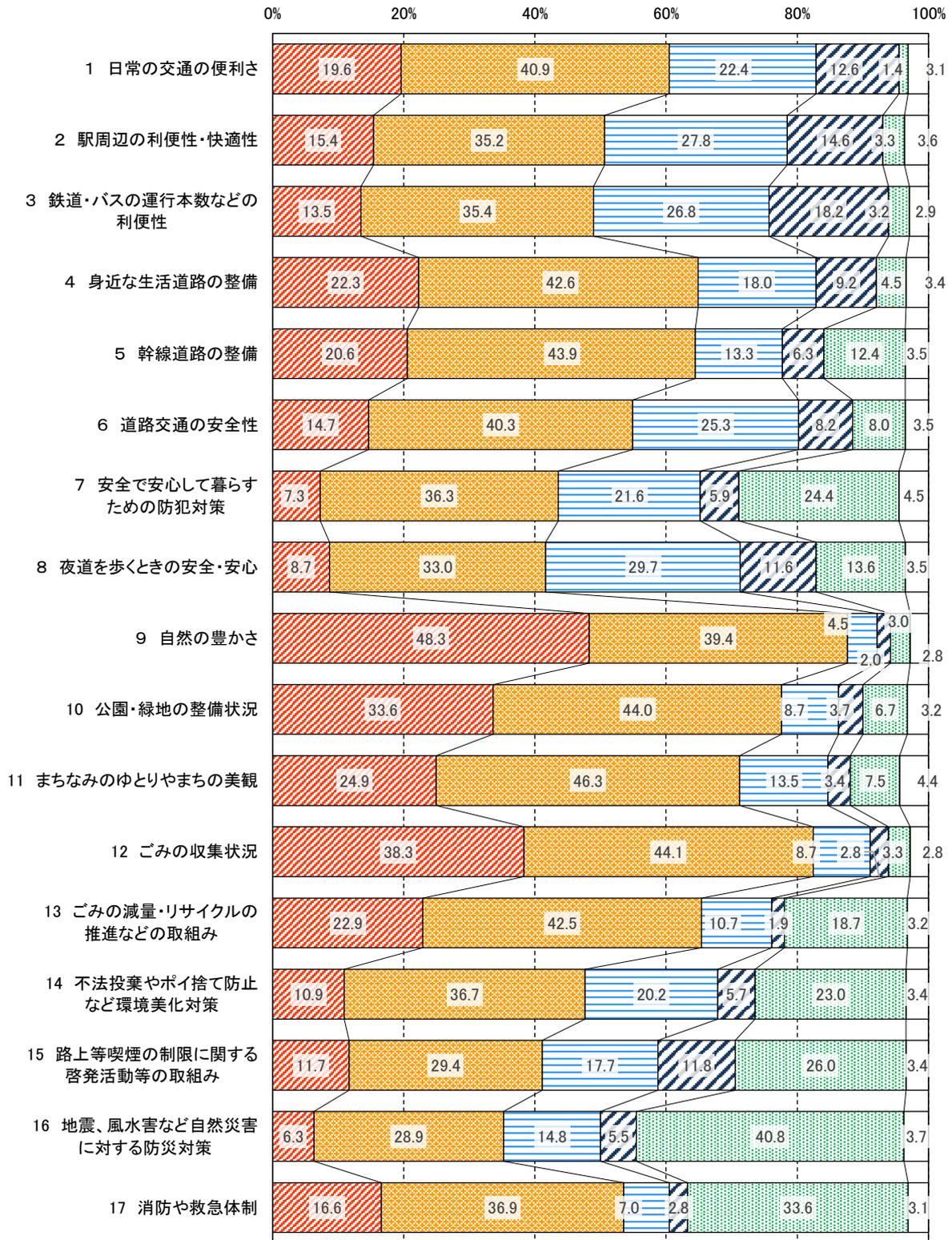
満足度については、「自然の豊かさ」が48.3%と最も高く、次いで、「ごみの収集状況」が38.3%、「公園・緑地の整備状況」が33.6%と続いています。

「満足している」と「やや満足している」の回答割合を合わせた“満足している”では、「自然の豊かさ」が87.7%と最も高く、次いで、「ごみの収集状況」が82.4%、「公園・緑地の整備状況」が77.6%と続いています。

一方、“不満である”（「やや不満である」と「不満である」を合わせた回答割合）では、「鉄道・バスの運行本数などの利便性」が45.0%と最も高く、「駅周辺の利便性・快適性」が42.4%、「夜道を歩くときの安全・安心」が41.3%と続いています。

(n=934)

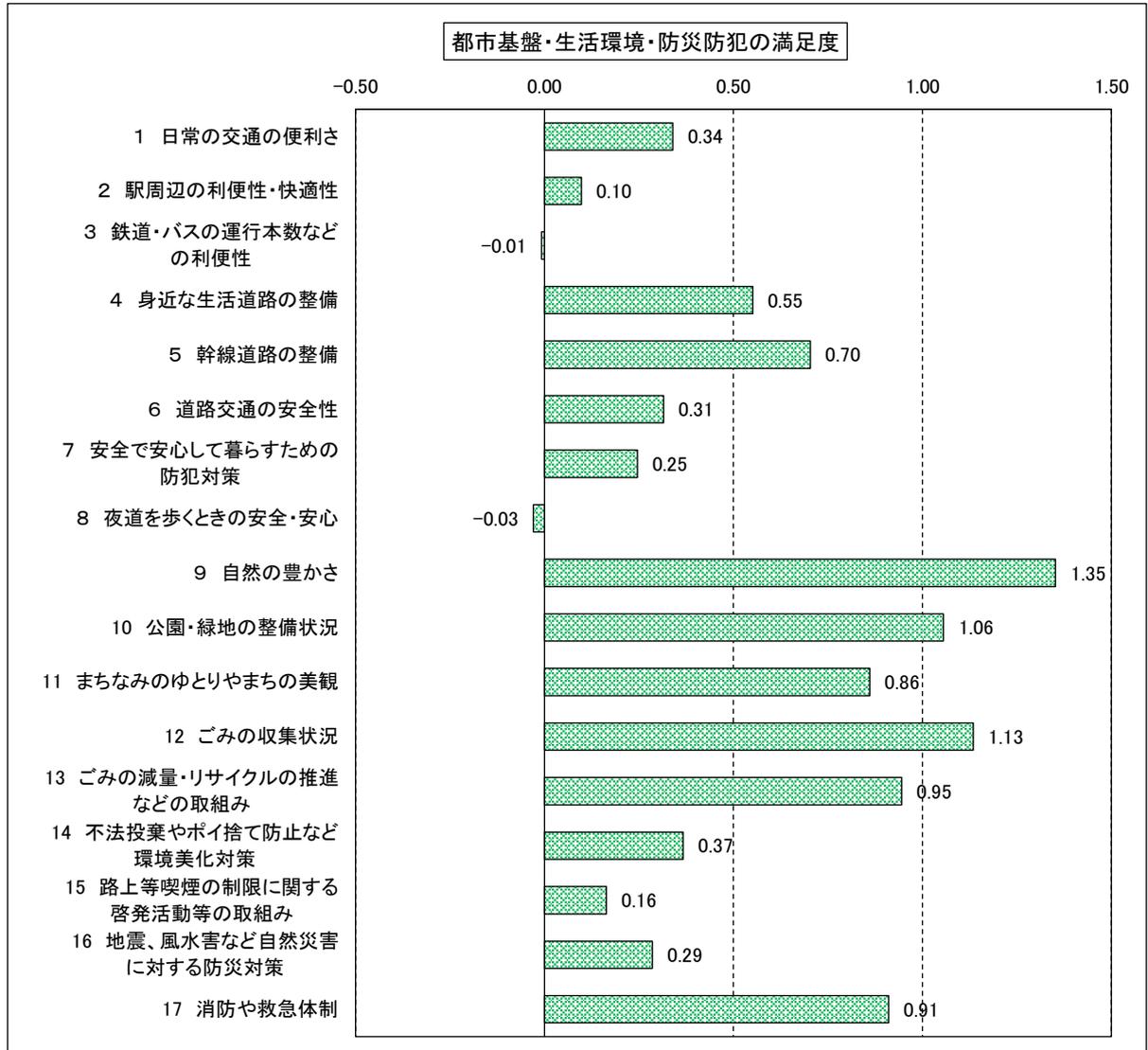
都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度(SA)



■ 満足している ■ やや満足している ■ やや不満である ■ 不満である ■ わからない □ 無回答

〔加重平均値〕

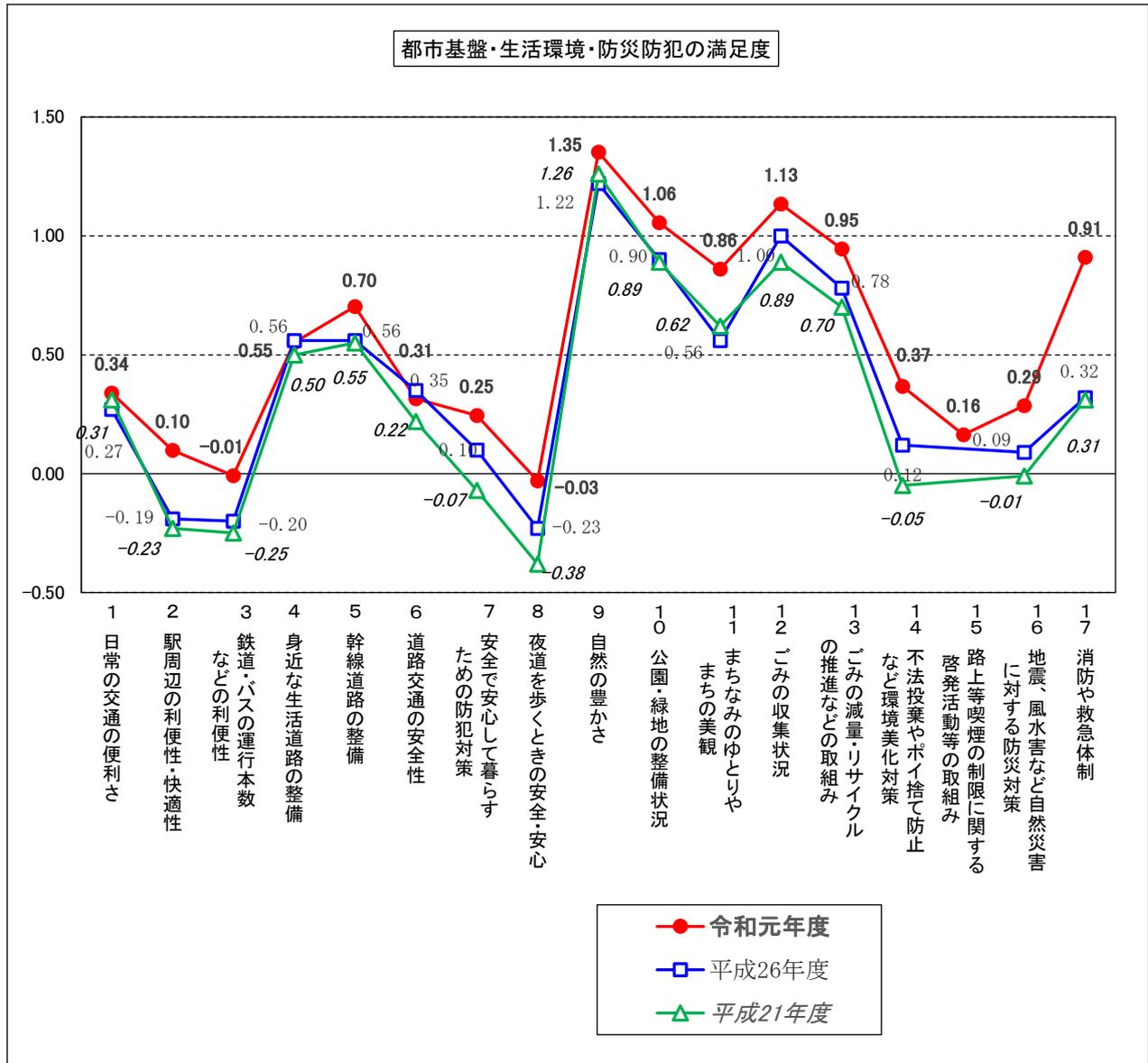
加重平均値で回答結果を見ると、「夜道を歩くときの安全・安心」と「鉄道・バスの運行本数などの利便性」が「不満である」に傾いていますが、その他の項目は「満足である」に傾いています。



〔加重平均値：経年変化〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の結果と加重平均値で比較すると、多くの項目で評価点が多少高くなっています。

なお、今回の調査で新たな項目として設定した「路上喫煙の制限に関する啓発活動等の取組み」は0.16点とプラスの評価点となっています。



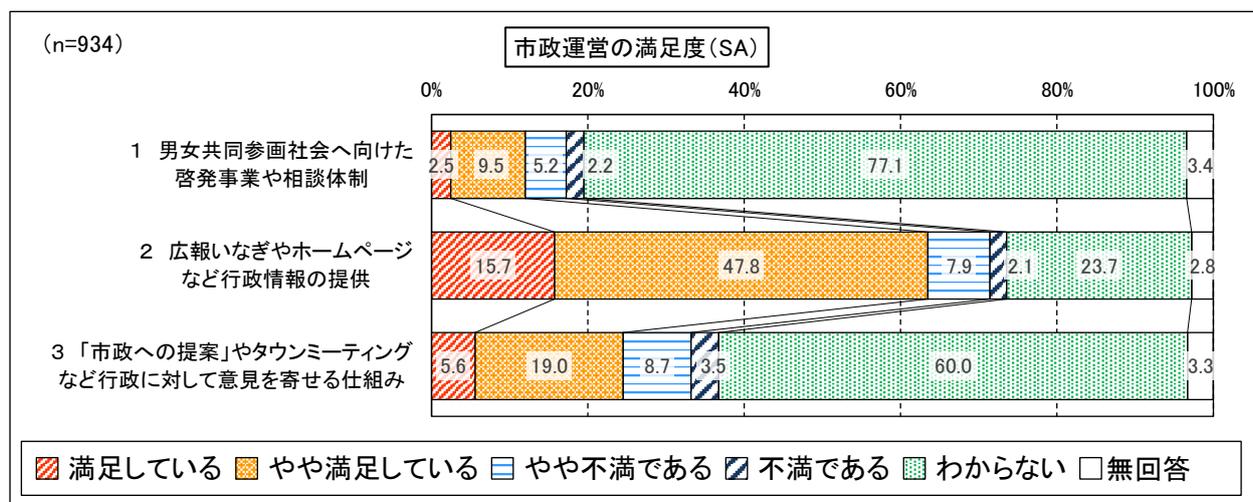
(5) 市政運営の満足度

〔全体〕

満足度については、「広報いなぎやホームページなど行政情報の提供」が15.7%と最も高くなっています。

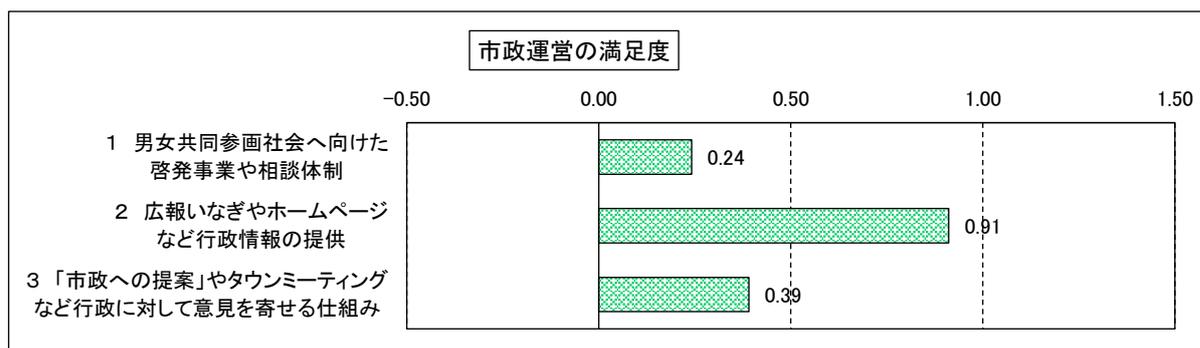
「満足している」と「やや満足している」の回答割合を合わせた“満足している”では、「広報いなぎやホームページなど行政情報の提供」が63.5%と他の項目に比べ非常に高くなっています。

その一方で、「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組みは“不満である”への回答割合が多少高い結果となっています。



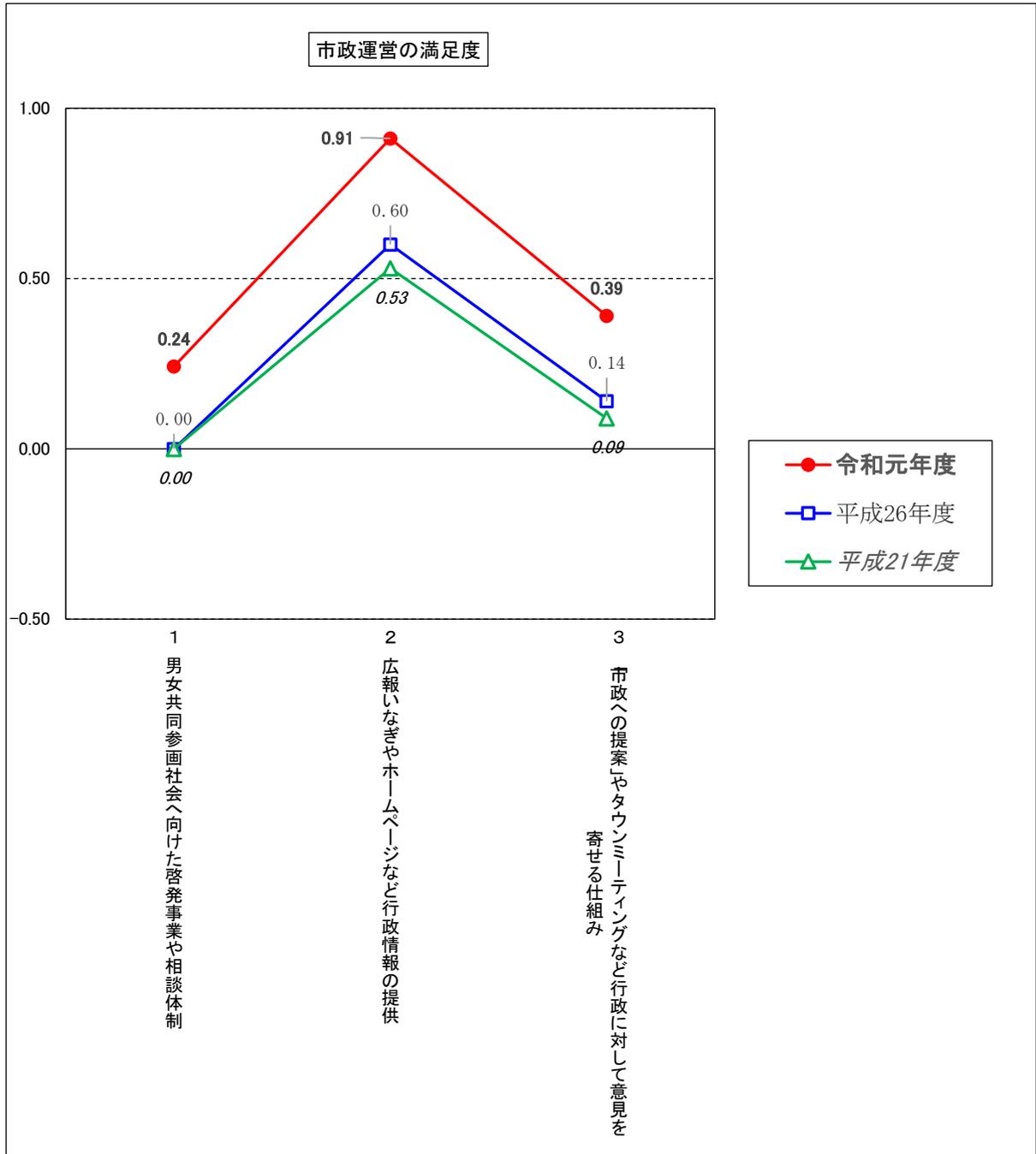
〔加重平均値〕

加重平均値で回答結果を見ると、すべての項目で“満足である”に傾いています。



〔加重平均値：経年変化〕

前回（平成 26 年度）及び前々回（平成 21 年度）の結果と加重平均値で比較すると、今回の評価点が高くなる結果となっています。



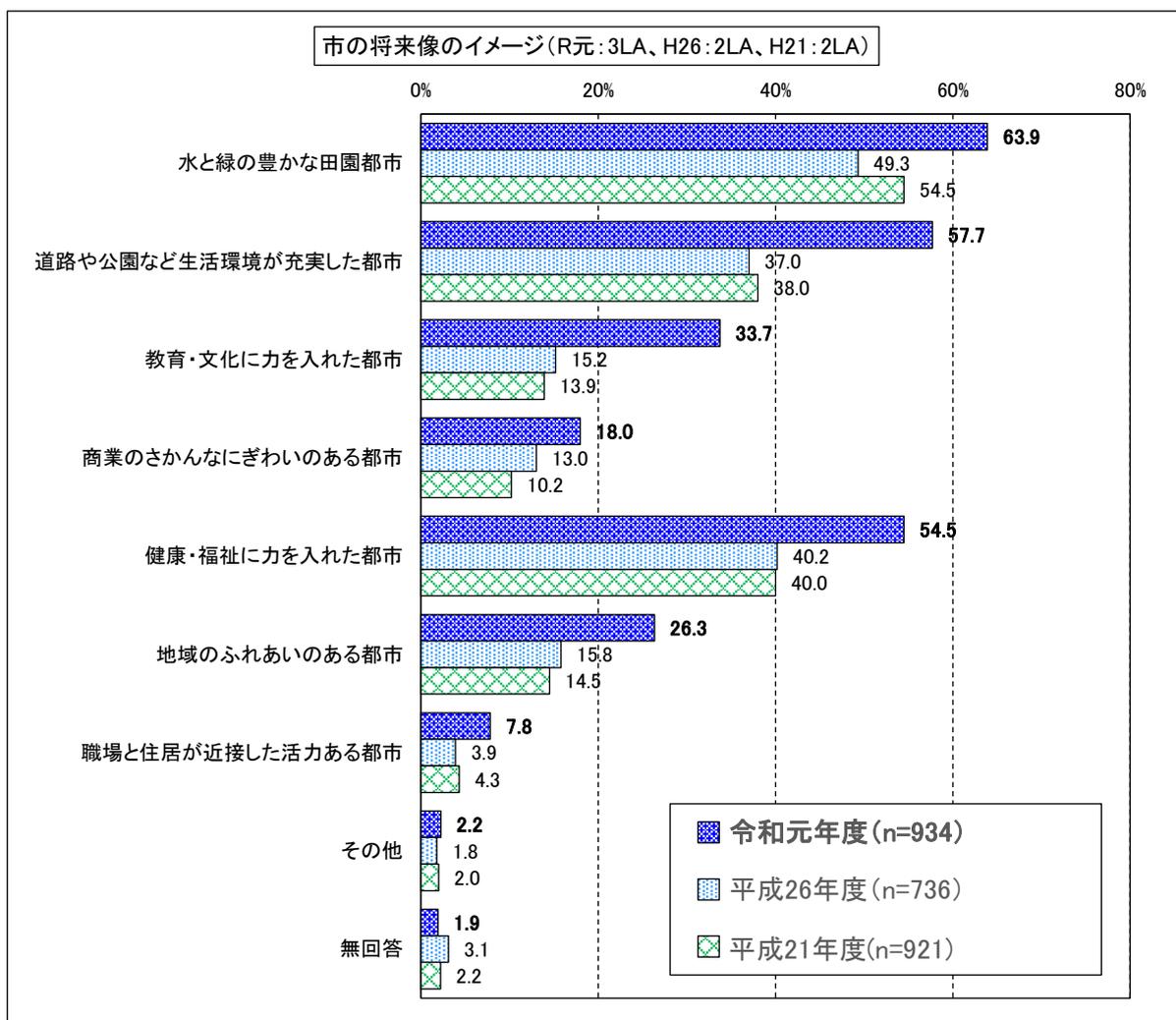
3 稲城市のまちづくりの方向について

(1) 市の将来像のイメージ

〔全体〕

市の将来像のイメージについては、「水と緑の豊かな田園都市」が 63.9%と最も高く、次いで、「道路や公園など生活環境が充実した都市」が 57.7%、「健康・福祉に力を入れた都市」が 54.5%と続いています。

この結果から、市の将来像のイメージとして、自然、生活環境、健康・福祉へのイメージが強く持たれていることがうかがえます。



〔比較〕

今回の回答条件（3LA：選択は3項目まで）と、前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の回答条件（2LA：選択は2項目まで）が異なるため、一概に比較はできませんが、回答傾向はおおむね同様の傾向となっています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 自然をのこして行こう(女性 20代)
- ・ 個人商店が多く・多様性がある都市(女性 20代)
- ・ 子供と高齢者が身近でふれあえる(女性 30代)
- ・ 低次元の人ゼロの市(男性 40代)
- ・ 不審者のいない町(女性 40代)
- ・ 教育と福祉に力を入れた都市(女性 40代)
- ・ 農業のさかんなにぎわいのある都市(男性 50代)
- ・ 高齢者の多い都市(女性 50代)
- ・ 治安の安心出来る安全な都市(女性 50代)
- ・ (地元世代) (新世代) 梨園、農家との共存(女性 50代)
- ・ 静かなベッドタウン(女性 50代)
- ・ 無税(男性 60代)
- ・ 市長の定住型のまちづくり等に心より共感(女性 60代)
- ・ 稲城市立病院の充実化医師の待遇を良くし、長く勤めていられるように！(女性 80代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「水と緑の豊かな田園都市」が最も高くなっていますが、男性の方が女性よりも 10.0 ポイント高くなっています。

次いで、男女ともに「道路や公園など生活環境が充実した都市」が続いていますが、回答結果に大きな違いはない結果となっています。

	水と緑の豊かな田園都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	教育・文化に力を入れた都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	健康・福祉に力を入れた都市	地域のふれあいのある都市	職場と住居が近接した活力ある都市	その他	無回答
全体 (n=934)	63.9	57.7	33.7	18.0	54.5	26.3	7.8	2.2	1.9
女性 (n=491)	59.5	57.2	33.6	17.3	55.8	28.3	7.3	2.6	2.0
男性 (n=423)	69.5	59.1	33.6	18.7	52.7	24.6	8.3	1.9	1.7

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、30～39歳と50～59歳では「水と緑の豊かな田園都市」への回答割合が最も高く、16～29歳と40～49歳では「道路や公園など生活環境が充実した都市」への回答割合が最も高くなっています。

また、60～69歳、70歳以上では「健康・福祉に力を入れた都市」への回答割合が最も高くなっています。

	水と緑の豊かな田園都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	教育・文化に力を入れた都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	健康・福祉に力を入れた都市	地域のふれあいのある都市	職場と住居が近接した活力ある都市	その他	無回答
全体 (n=934)	63.9	57.7	33.7	18.0	54.5	26.3	7.8	2.2	1.9
16～29歳 (n=108)	64.8	65.7	38.9	24.1	36.1	26.9	8.3	1.9	0.0
30～39歳 (n=120)	70.0	59.2	40.8	24.2	35.0	27.5	10.0	0.8	0.0
40～49歳 (n=176)	64.8	67.0	43.8	12.5	39.8	24.4	8.0	2.8	0.6
50～59歳 (n=172)	68.0	53.5	30.2	16.3	63.4	22.1	7.6	3.5	0.0
60～69歳 (n=134)	61.2	51.5	23.9	21.6	74.6	28.4	8.2	3.0	0.7
70歳以上 (n=222)	57.7	52.7	28.4	15.3	66.2	28.8	6.3	1.4	7.2

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、矢野口、東長沼、大丸、百村、坂浜、押立の6地区では「水と緑の豊かな田園都市」への回答割合が最も高くなっています。

平尾、長峰、若葉台の3地域では「道路や公園など生活環境が充実した都市」が最も高く、向陽台では「健康・福祉に力を入れた都市」への回答割合が最も高くなっています。

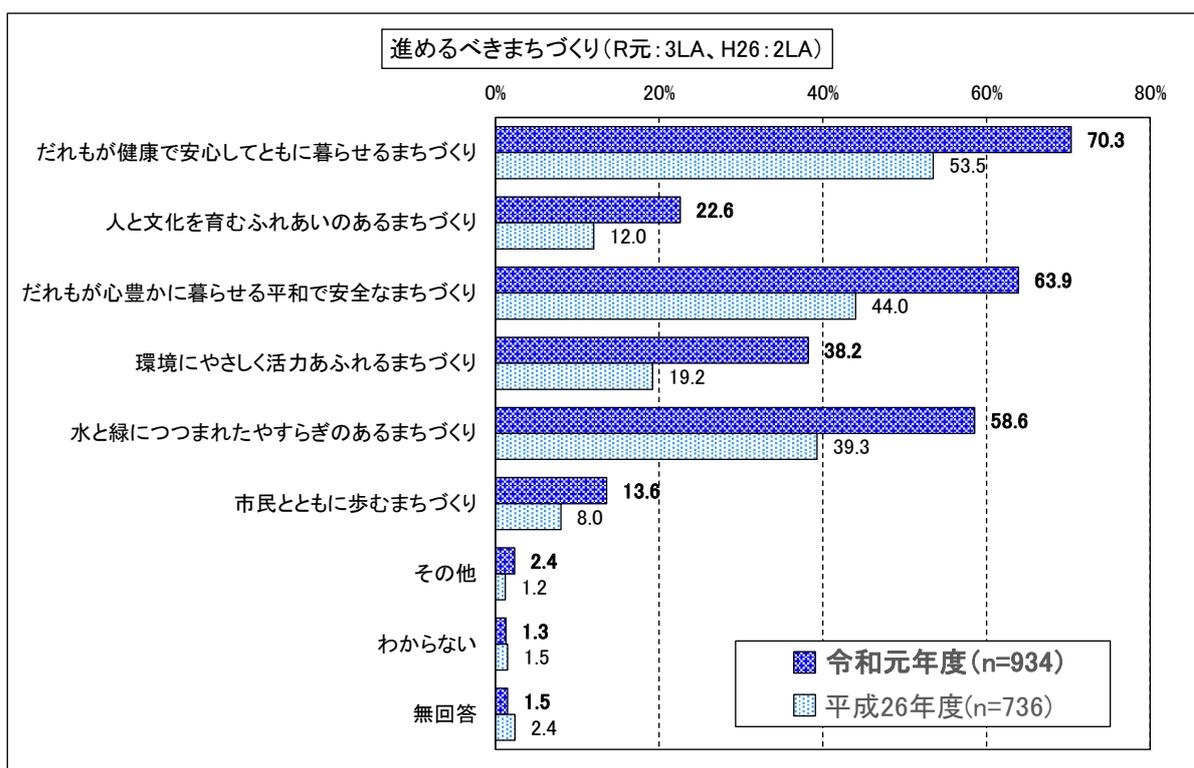
	水と緑の豊かな田園都市	道路や公園など生活環境が充実した都市	教育・文化に力を入れた都市	商業のさかんなにぎわいのある都市	健康・福祉に力を入れた都市	地域のふれあいのある都市	職場と住居が近接した活力ある都市	その他	無回答
全体 (n=934)	63.9	57.7	33.7	18.0	54.5	26.3	7.8	2.2	1.9
矢野口 (n=181)	63.5	54.7	31.5	19.3	61.3	28.7	8.8	2.8	2.8
東長沼 (n=145)	64.8	53.8	29.7	20.7	48.3	30.3	9.7	2.8	0.7
大丸 (n=90)	64.4	50.0	34.4	25.6	48.9	28.9	6.7	2.2	1.1
百村 (n=54)	63.0	40.7	31.5	20.4	57.4	20.4	9.3	1.9	3.7
坂浜 (n=28)	71.4	50.0	39.3	14.3	46.4	32.1	17.9	0.0	0.0
平尾 (n=119)	60.5	61.3	31.1	14.3	49.6	27.7	8.4	2.5	3.4
押立 (n=40)	67.5	42.5	30.0	20.0	50.0	30.0	12.5	2.5	2.5
向陽台 (n=88)	61.4	59.1	43.2	13.6	69.3	25.0	2.3	1.1	2.3
長峰 (n=51)	62.7	64.7	41.2	15.7	51.0	23.5	3.9	0.0	2.0
若葉台 (n=136)	65.4	77.2	35.3	14.0	53.7	18.4	5.1	2.9	0.7

(2) 進めるべきまちづくり

〔全体〕

進めるべきまちづくりについては、「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」が70.3%と最も高く、次いで、「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」が63.9%、「水と緑につつまれたやすらぎのあるまちづくり」が58.6%と続いています。

なお、前問「市の将来像のイメージ」では、「水と緑の豊かな田園都市」、「道路や公園など生活環境が充実した都市」、「健康・福祉に力を入れた都市」の順となっており、本設問と併せると、豊かな環境のイメージを求めつつ、健康で安全な生活環境づくりを求めていることがうかがえます。



〔比較〕

今回の回答条件（3LA：選択は3項目まで）と、前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の回答条件（2LA：選択は2項目まで）が異なるため、一概に比較はできませんが、回答傾向はおおむね同様の傾向となっています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 交通（特に京王電鉄への急行駅設置、坂浜新駅の誘致など(女性 20代)
- ・ 都心に近い商業施設をもっと増やして欲しいです。古びた店が多すぎる(女性 20代)
- ・ 福祉ばかりではなく、現役世代への配慮や事業主へのサービスなど、上記の職住近接ホームオフィスなどの政策に力をいれてほしい(男性 30代)
- ・ 都心や隣の市までいなくても稲城市で買い物や娯楽が充実しているまちづくり(男性 30代)
- ・ 大規模災害に耐えうる安心安全なまちづくり(男性 30代)
- ・ 自然豊かな環境の中で、人を育てる教育に力を入れたまちづくり(女性 30代)
- ・ 自転車ロードはじめ、スポーツを楽しめるまちづくり(女性 30代)
- ・ 水と緑を観光資源とした、にぎわいのあるまちづくり(女性 30代)
- ・ せっかくの緑を切りくずさないで開発される環境作り(女性 30代)
- ・ 教育に熱心な都市(男性 40代)
- ・ 弱者によりそう優しい稲城市(女性 40代)
- ・ 調布や多摩に負けない商業施設を作ってほしい(男性 50代)
- ・ 在宅仕事も増えることが予想され、住みやすい街というのが重宝される時代になるかと存じます。現在の稲城はその方向性に近いのですが、カラオケやゲームセンターなどのアミューズメント施設が全くと言っていいほどなく、買い物はネットで済ませられるのでともかく、その辺を満たすためには府中辺りに出ないといいけません。そういった娯楽施設が今の稲城に致命的に欠けている所と言えるでしょう。最低限のレストランと、買い物施設は充実してるかと思います。『遠出してでも行きたい美味しい名店』と呼ばれる所はありませんが…。(男性 50代)
- ・ 利便性のよい町作り(女性 50代)
- ・ 生活に便利なまちづくり(女性 50代)
- ・ 駅（南多摩・稲城長沼）尾根幹線沿いに商業施設が少ない(女性 50代)
- ・ 健康で安心してそれぞれ暮らせるまちづくり(女性 50代)
- ・ 稲城長沼駅付近の商業地開発が遅れている→駅付近に飲食店が欲しい→駅前に畑がある事などを改善する事(男性 60代)
- ・ 市長の定住型のまちづくり等に心より共感。(女性 60代)
- ・ 坂浜と向陽台の美観に大きな差がある（街灯など）(女性 70代)

〔属性別：性別〕

性別で見ると、男女ともに「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」への回答割合が最も高くなっています。

また、「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」では女性の方が男性よりも10ポイント近く高くなっている一方で、「水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり」では男性の方が女性よりも10ポイント以上高い結果となっています。

	だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり	人と文化を育むふれあいのあるまちづくり	だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり	環境にやさしく活力あふれるまちづくり	水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり	市民とともに歩むまちづくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	70.3	22.6	63.9	38.2	58.6	13.6	2.4	1.3	1.5
女性 (n=491)	71.3	21.6	68.6	37.3	53.2	14.7	2.6	0.6	1.6
男性 (n=423)	69.5	24.1	59.3	39.5	65.0	12.5	2.1	1.9	1.2

〔属性別：年齢別〕

年齢別で見ると、50歳以上のすべての年齢階層で「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」への回答割合が最も高くなっています。

また、16～39歳の比較的若い年齢階層では「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」への回答割合が最も高く、40～49歳では「水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり」への回答割合が最も高くなっており、50歳未満では安全とやすらぎのまちづくり、50歳以上では健康なまちづくりへの志向が高い結果となっています。

	だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり	人と文化を育むふれあいのあるまちづくり	だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり	環境にやさしく活力あふれるまちづくり	水と緑にまつまれたやすらぎのあるまちづくり	市民とともに歩むまちづくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	70.3	22.6	63.9	38.2	58.6	13.6	2.4	1.3	1.5
16～29歳 (n=108)	64.8	27.8	71.3	36.1	52.8	10.2	3.7	0.0	0.0
30～39歳 (n=120)	57.5	23.3	67.5	46.7	55.8	7.5	7.5	1.7	0.8
40～49歳 (n=176)	61.4	29.0	64.8	40.3	65.9	11.9	1.7	0.6	0.0
50～59歳 (n=172)	69.8	20.9	66.3	37.2	68.0	8.7	1.7	1.7	0.0
60～69歳 (n=134)	82.8	18.7	64.2	34.3	56.7	15.7	1.5	1.5	0.7
70歳以上 (n=222)	79.7	18.5	56.3	35.6	50.5	22.5	0.5	1.8	5.4

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、押立と若葉台を除き「だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり」への回答割合が最も高くなっています。

また、押立と若葉台では「だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり」への回答割合が最も高くなっています。

なお、大丸、百村、押立、長峰の4地域では、「水と緑につつまれたやすらぎのあるまちづくり」への回答割合が高い結果となっています。

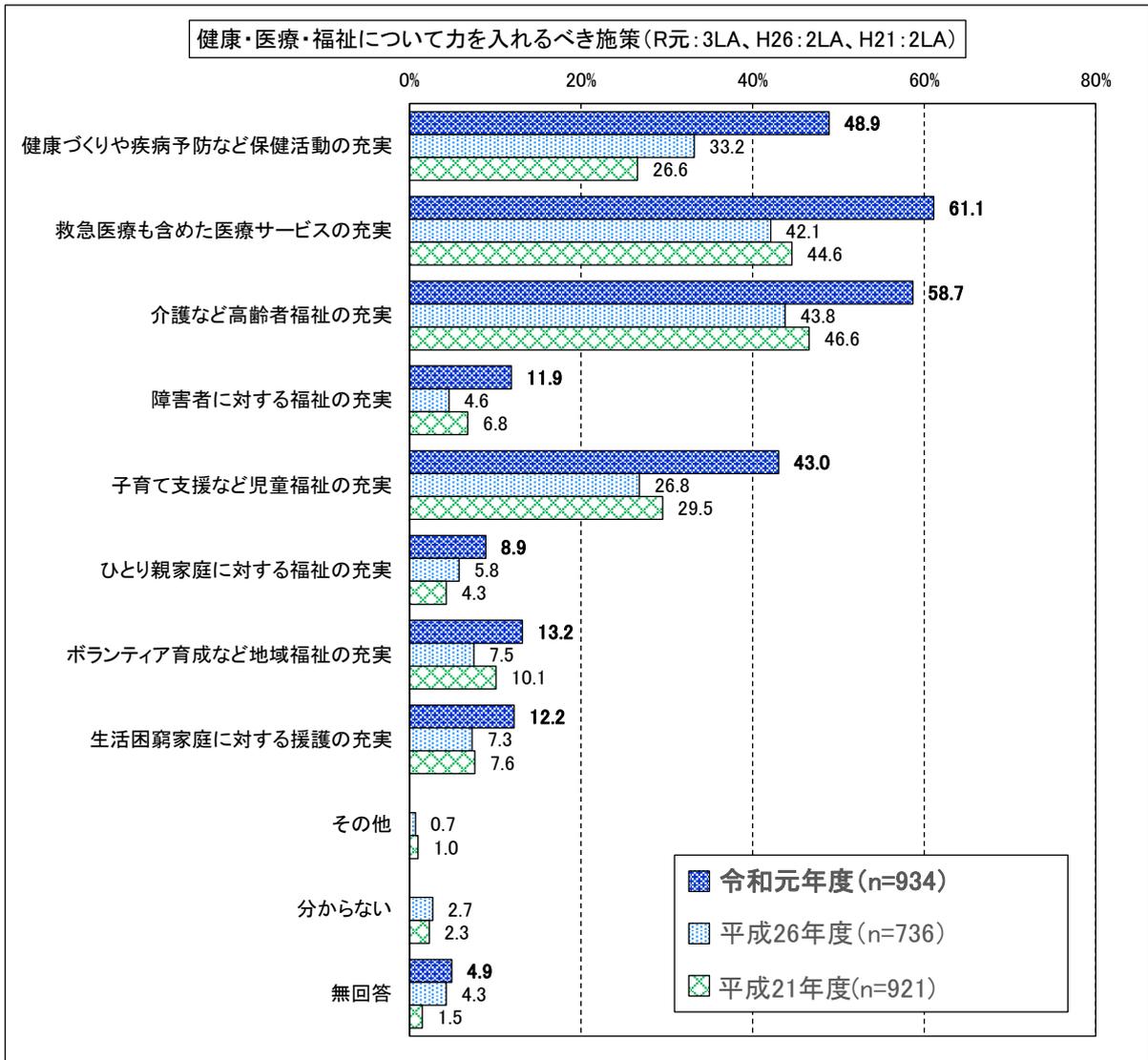
	だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり	人と文化を育むふれあいのあるまちづくり	だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり	環境にやさしく活力あふれるまちづくり	水と緑につつまれたやすらぎのあるまちづくり	市民とともに歩むまちづくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	70.3	22.6	63.9	38.2	58.6	13.6	2.4	1.3	1.5
矢野口 (n=181)	75.7	16.6	70.2	37.6	55.8	16.0	1.7	0.6	2.8
東長沼 (n=145)	65.5	25.5	61.4	40.0	60.7	10.3	1.4	0.7	0.0
大丸 (n=90)	75.6	15.6	58.9	40.0	62.2	14.4	2.2	1.1	0.0
百村 (n=54)	64.8	25.9	51.9	31.5	53.7	18.5	3.7	5.6	0.0
坂浜 (n=28)	71.4	28.6	67.9	25.0	57.1	14.3	0.0	3.6	3.6
平尾 (n=119)	68.1	26.9	62.2	31.9	60.5	16.8	0.8	2.5	2.5
押立 (n=40)	50.0	25.0	60.0	45.0	57.5	10.0	2.5	5.0	2.5
向陽台 (n=88)	77.3	28.4	62.5	40.9	59.1	12.5	3.4	0.0	2.3
長峰 (n=51)	80.4	19.6	54.9	47.1	58.8	9.8	3.9	0.0	2.0
若葉台 (n=136)	66.9	22.8	73.5	39.0	57.4	11.8	3.7	0.0	0.7

4 今後の施策等について

(1) 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策

〔全体〕

健康・医療・福祉の分野で力を入れるべき施策については、「救急医療も含めた医療サービスの充実」が61.1%と最も高く、次いで、「介護など高齢者福祉の充実」が58.7%、「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」が48.9%、「子育て支援など児童福祉の充実」が43.0%と続いています。



〔比較〕

今回の回答条件(3LA:選択は3項目まで)と、前回(平成26年度)及び前々回(平成21年度)の回答条件(2LA:選択は2項目まで)が異なるため、一概に比較はできませんが、今回「救急医療も含めた医療サービスの充実」が最も高くなったものの、上位回答項目の傾向は、おおむね前回、前々回と同様の傾向となっています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ ボランティアたまに性的になるのでよくない(女性 20代)
- ・ 福祉を推進し過ぎない(男性 40代)
- ・ 義務教育就学児医療費助成制度の所得制限をなくしてほしい。(女性 40代)
- ・ 高校生まで200円で病院にかかれること。(女性 40代)
- ・ 市立病院の大学病院化しない様に差額免除(女性 50代)
- ・ 福祉全般：(高齢者・児童・障害者・ひとり親・生活困窮者等全て) (女性 60代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、女性では「介護など高齢者福祉の充実」への回答割合が、男性では「救急医療も含めた医療サービスの充実」への回答割合が最も高くなっています。

なお、女性では「介護など高齢者福祉の充実」への回答割合が最も高くなっていますが、「救急医療も含めた医療サービスの充実」への回答割合と大きな差はない結果となっています。

	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	介護など高齢者福祉の充実	障害者に対する福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	生活困窮家庭に対する援護の充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	48.9	61.1	58.7	11.9	43.0	8.9	13.2	12.2	1.1	2.9	2.6
女性 (n=491)	46.8	59.5	60.5	13.0	43.8	9.8	13.2	12.2	1.2	2.2	2.2
男性 (n=423)	51.5	63.8	57.0	9.9	42.8	7.8	13.5	12.1	0.9	3.3	2.8

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、16～39歳では「子育て支援など児童福祉の充実」が最も高くなっており、子育て世代の意向が強く出た結果となっています。

40～49歳の働き盛りの年齢階層では、「救急医療も含めた医療サービスの充実」への回答割合が最も高くなっており、50歳以上では「介護など高齢者福祉の充実」への回答割合が最も高くなっています。

50歳未満では医療と子育てへの志向が強く、50歳以上では医療と高齢者福祉への志向が強い結果となっています。

	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	介護など高齢者福祉の充実	障害者に対する福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	生活困窮家庭に対する援護の充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	48.9	61.1	58.7	11.9	43.0	8.9	13.2	12.2	1.1	2.9	2.6
16～29歳 (n=108)	38.9	50.0	30.6	8.3	65.7	23.1	8.3	20.4	0.9	7.4	0.0
30～39歳 (n=120)	48.3	58.3	32.5	15.0	72.5	6.7	11.7	12.5	0.8	2.5	0.0
40～49歳 (n=176)	46.6	59.7	58.0	8.5	56.3	5.7	17.6	12.5	1.7	1.1	0.6
50～59歳 (n=172)	60.5	66.9	68.0	12.2	34.9	6.4	16.9	7.6	0.6	0.6	0.0
60～69歳 (n=134)	51.5	66.4	70.1	17.2	26.1	6.7	8.2	14.2	1.5	3.0	4.5
70歳以上 (n=222)	45.0	62.2	73.0	11.3	22.1	9.0	12.2	10.4	0.9	4.1	7.7

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、矢野口、東長沼、向陽台、長峰の4地域では「介護など高齢者福祉の充実」、坂浜では「子育て支援など児童福祉の充実」への回答割合が最も高くなっており、それ以外の矢野口を含む6地域では「救急医療も含めた医療サービスの充実」への回答割合が最も高くなっています。

なお、矢野口、百村、押立、向陽台、長峰の5地域では、「健康づくりや疾病予防など保健活動の充実」への回答割合が高い結果となっています。

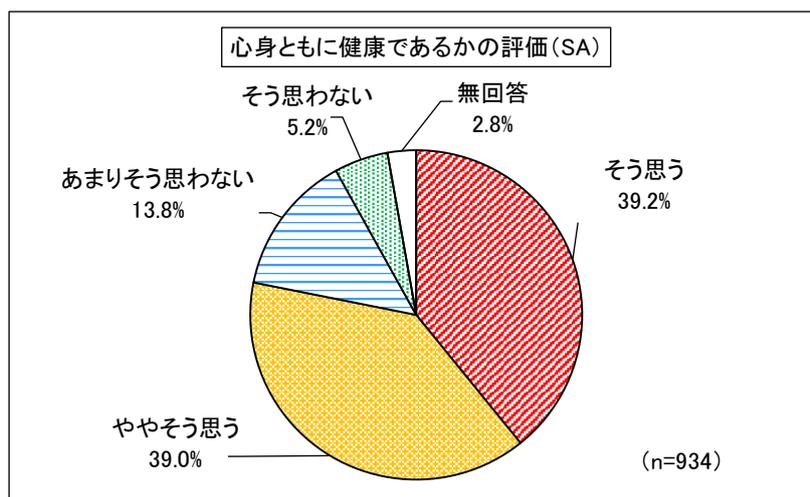
	健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	救急医療も含めた医療サービスの充実	介護など高齢者福祉の充実	障害者に対する福祉の充実	子育て支援など児童福祉の充実	ひとり親家庭に対する福祉の充実	ボランティア育成など地域福祉の充実	生活困窮家庭に対する援護の充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	48.9	61.1	58.7	11.9	43.0	8.9	13.2	12.2	1.1	2.9	2.6
矢野口 (n=181)	53.0	61.9	61.9	11.6	47.5	9.4	8.8	9.9	1.1	1.7	3.3
東長沼 (n=145)	44.1	62.1	64.8	9.0	42.8	10.3	15.9	13.1	0.0	2.8	0.7
大丸 (n=90)	42.2	58.9	52.2	15.6	37.8	11.1	13.3	12.2	0.0	6.7	4.4
百村 (n=54)	51.9	64.8	51.9	13.0	37.0	9.3	7.4	16.7	0.0	1.9	3.7
坂浜 (n=28)	46.4	50.0	39.3	21.4	57.1	3.6	28.6	14.3	0.0	7.1	0.0
平尾 (n=119)	42.9	64.7	57.1	11.8	42.9	10.1	16.8	14.3	0.0	4.2	2.5
押立 (n=40)	45.0	72.5	45.0	10.0	45.0	2.5	12.5	5.0	7.5	5.0	2.5
向陽台 (n=88)	54.5	52.3	65.9	11.4	36.4	8.0	10.2	14.8	2.3	2.3	4.5
長峰 (n=51)	54.9	45.1	64.7	13.7	51.0	3.9	13.7	9.8	0.0	2.0	2.0
若葉台 (n=136)	52.9	67.6	57.4	11.0	41.2	9.6	13.2	11.0	2.2	0.7	1.5

(1) -1 心身ともに健康であるかの評価

〔全体〕

自身の健康状態の評価については、「そう思う」は39.2%、「ややそう思う」が39.0%となっており、合わせて78.2%と8割近くの回答者が“健康であると思う”と評価しています。

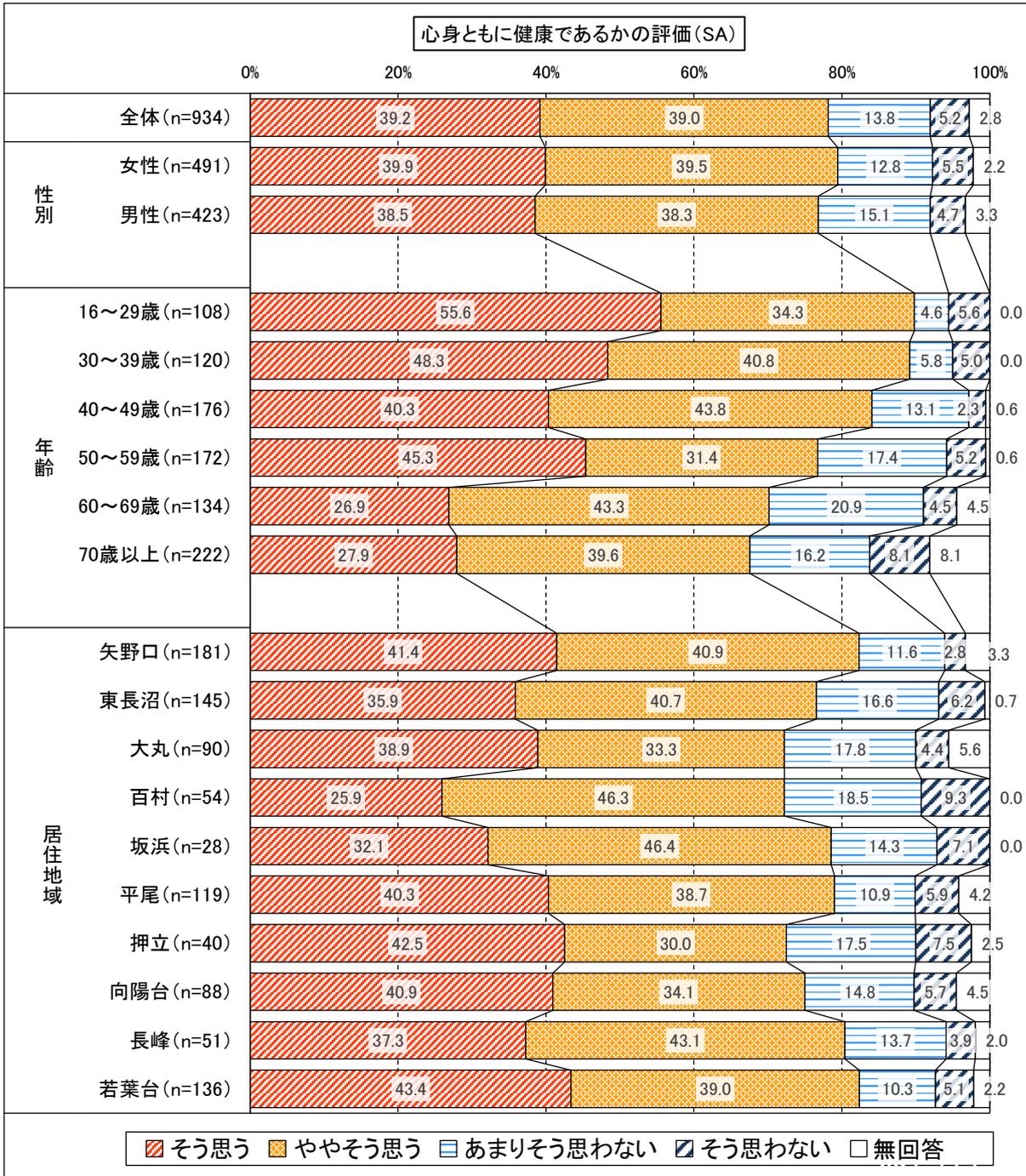
一方、「あまりそう思わない」が13.8%、「そう思わない」が5.2%となっており、合わせて19.0%と約2割の回答者が“健康であると思わない”と評価しています。



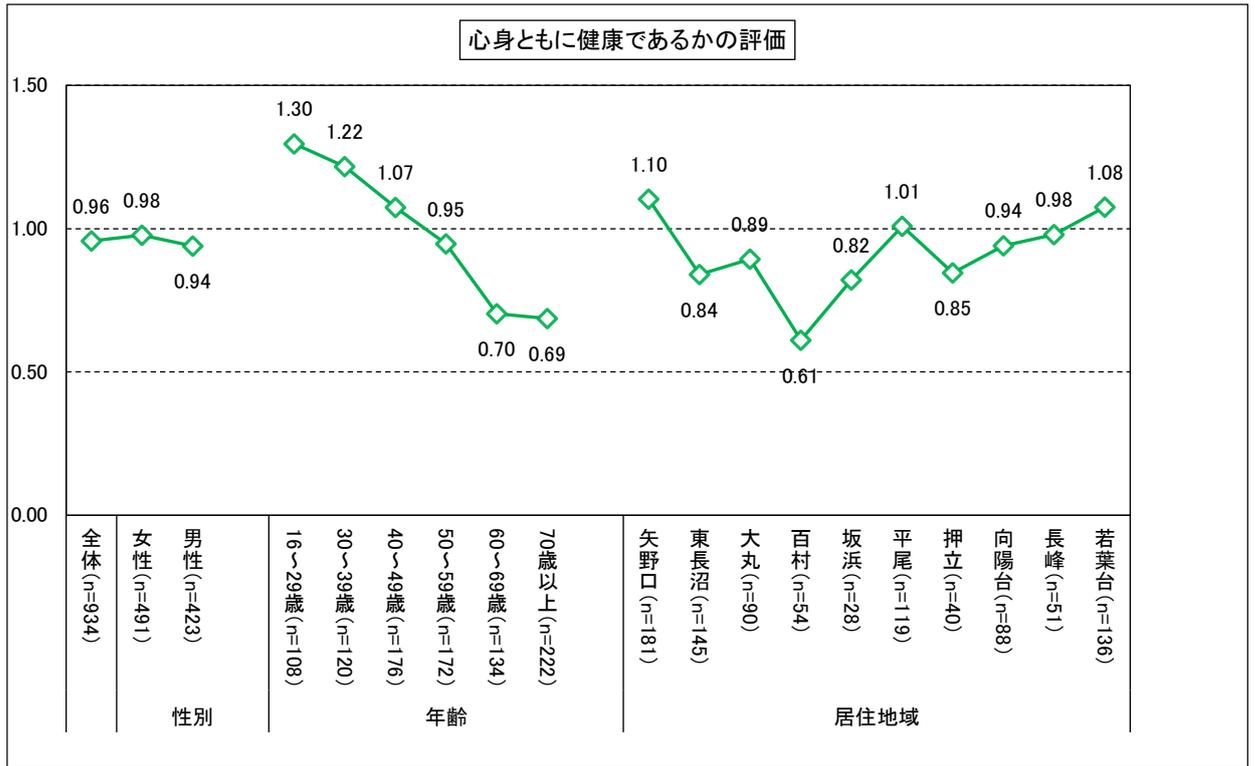
〔属性別〕

性別では回答結果に大きな差はみられませんが、年齢別では年齢が高くなるにつれて、自身の健康への評価が低下する傾向となっています。

居住地域別でみると、百村と押立で自身への健康の評価が低くなっており、加重平均値では百村の低い評価が顕著となっています。



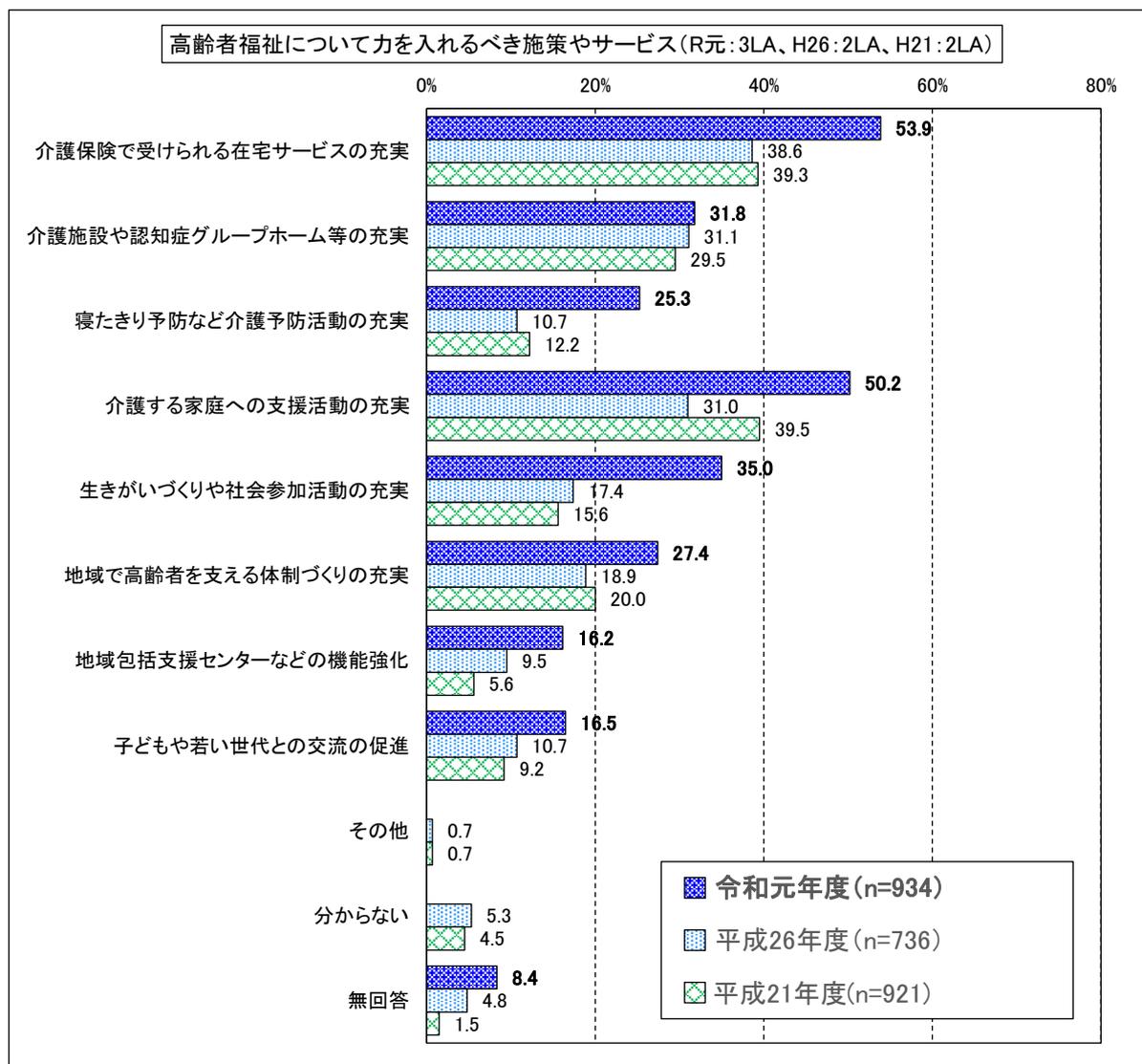
[属性別加重平均値]



(2) 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス

〔全体〕

高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービスについては、「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」が53.9%と最も高く、次いで、「介護する家庭への支援活動の充実」が50.2%、「生きがいがづくりや社会参加活動の充実」が35.0%と続いています。



※回答選択肢「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」は、平成21年度及び平成26年度調査においては「介護保険で受けられる在宅サービスの多様化」と設定されています。

※回答選択肢「介護施設や認知症グループホーム等の充実」は、平成21年度及び平成26年度調査においては「介護老人保健施設などの整備・充実」と設定されています。

〔比較〕

「介護する家庭への支援活動の充実」は、「介護施設や認知症グループホーム等の充実」よりも前回調査では回答割合が低かったものの、今回、回答割合が高くなる結果となっています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 力は入れなくてよい。(男性 10代)
- ・ 認知症カフェの店舗数拡大(男性 20代)
- ・ なんもいらん。年金しかいらん。(女性 20代)
- ・ 高齢者が経済活動に積極的に参加する地域づくり。(男性 30代)
- ・ 高齢者を現役世代に任せるだけでなく高齢者同士で助け合う仕組み作り(男性 30代)
- ・ 免許返納者に対する交通利便を上げる制度(女性 30代)
- ・ 介護保険料の減額(男性 40代)
- ・ 早急な対応(市の対応はおそいと思います)(女性 40代)
- ・ スウェーデンの様な老後福祉(女性 50代)
- ・ 子どもや若い世代との交流は嫌なのでせめて市で促進するのはやめてください。(女性 50代)
- ・ 働ける場所づくり(男性 60代)
- ・ 子育て支援(女性 60代)
- ・ 医療機関への通院する際の支援(女性 80代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」への回答割合が最も高くなっており、次いで「介護する家庭への支援活動の充実」が続いています。

	介護保険で受けられる在宅サービスの充実	介護施設や認知症グループホーム等の充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	介護する家庭への支援活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	地域包括支援センターなどの機能強化	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	53.9	31.8	25.3	50.2	35.0	27.4	16.2	16.5	1.6	6.0	2.7
女性 (n=491)	55.8	33.4	24.8	51.9	34.8	26.3	15.7	17.5	1.4	5.3	2.2
男性 (n=423)	51.1	30.0	25.8	48.0	35.9	28.8	17.0	15.8	1.9	6.6	3.1

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、60歳未満では「介護する家庭への支援活動の充実」への回答割合が最も高く、60歳以上では「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」への回答割合が最も高くなっています。

60歳未満では介護する年齢層の意向が、60歳以上では介護される年齢層の意向が現れている結果となっています。

	介護保険で受けられる在宅サービスの充実	介護施設や認知症グループホーム等の充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	介護する家庭への支援活動の充実	生きがいづくりや社会参加活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	地域包括支援センターなどの機能強化	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	53.9	31.8	25.3	50.2	35.0	27.4	16.2	16.5	1.6	6.0	2.7
16～29歳 (n=108)	39.8	25.0	25.0	50.0	38.9	23.1	12.0	20.4	3.7	10.2	0.9
30～39歳 (n=120)	42.5	28.3	24.2	52.5	36.7	19.2	9.2	24.2	2.5	14.2	0.0
40～49歳 (n=176)	56.8	32.4	19.3	58.5	40.9	28.4	13.6	23.9	1.1	3.4	0.6
50～59歳 (n=172)	51.2	39.5	26.2	53.5	41.9	26.7	16.9	14.5	0.6	5.2	0.0
60～69歳 (n=134)	58.2	34.3	32.1	46.3	35.8	29.1	14.9	11.9	2.2	3.0	4.5
70歳以上 (n=222)	64.0	28.8	26.1	42.3	21.6	32.0	24.3	9.0	0.9	4.1	7.7

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、浜坂、押立地域を除き、「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」への回答割合が最も高く、坂浜では「介護する家庭への支援活動の充実」への回答割合が、押立では「生きがいつくりや社会参加活動の充実」への回答割合が最も高くなっています。

全体的に「介護保険で受けられる在宅サービスの充実」への回答割合が高く、次いで「介護する家庭への支援活動の充実」への回答割合が続く傾向となっています。

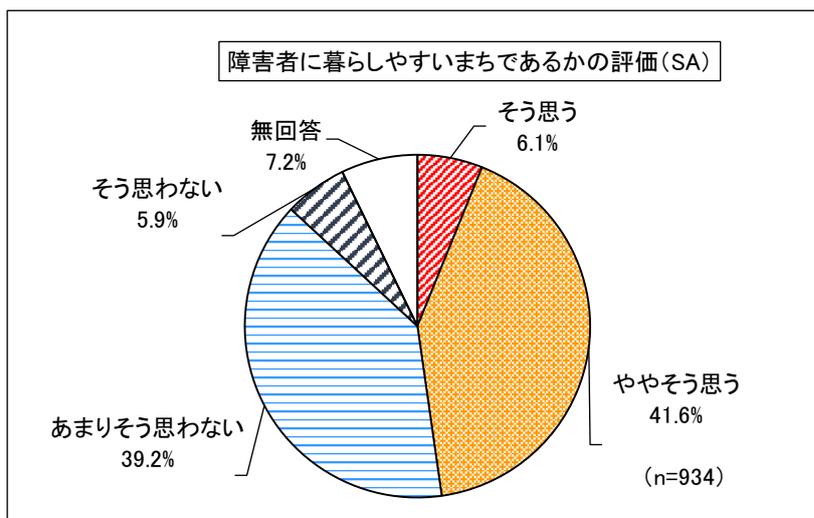
	介護保険で受けられる在宅サービスの充実	介護施設や認知症グループホーム等の充実	寝たきり予防など介護予防活動の充実	介護する家庭への支援活動の充実	生きがいつくりや社会参加活動の充実	地域で高齢者を支える体制づくりの充実	地域包括支援センターなどの機能強化	子どもや若い世代との交流の促進	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	53.9	31.8	25.3	50.2	35.0	27.4	16.2	16.5	1.6	6.0	2.7
矢野口 (n=181)	60.8	38.7	18.8	49.7	30.4	29.3	14.9	13.3	2.2	7.2	3.3
東長沼 (n=145)	55.9	31.7	24.1	55.2	33.8	27.6	17.9	18.6	0.0	3.4	0.7
大丸 (n=90)	54.4	37.8	24.4	48.9	35.6	23.3	11.1	11.1	2.2	7.8	4.4
百村 (n=54)	61.1	40.7	27.8	57.4	27.8	16.7	18.5	20.4	1.9	3.7	1.9
坂浜 (n=28)	39.3	28.6	39.3	50.0	39.3	25.0	28.6	14.3	0.0	10.7	0.0
平尾 (n=119)	51.3	23.5	28.6	50.4	31.1	26.1	19.3	16.8	0.8	8.4	2.5
押立 (n=40)	42.5	20.0	27.5	37.5	47.5	27.5	22.5	20.0	5.0	7.5	2.5
向陽台 (n=88)	50.0	36.4	30.7	47.7	35.2	38.6	13.6	18.2	1.1	1.1	4.5
長峰 (n=51)	54.9	31.4	27.5	45.1	29.4	29.4	9.8	21.6	2.0	5.9	3.9
若葉台 (n=136)	50.7	23.5	24.3	50.7	46.3	25.0	15.4	16.9	1.5	5.9	2.2

(2) -1 障害者に暮らしやすいまちであるかの評価

〔全体〕

障害者に暮らしやすいまちであるかの評価については、「そう思う」は 6.1%、「ややそう思う」が 41.6%となっており、合わせて 47.7%と半数近くの回答者が“障害者に暮らしやすいまちであると思う”と評価しています。

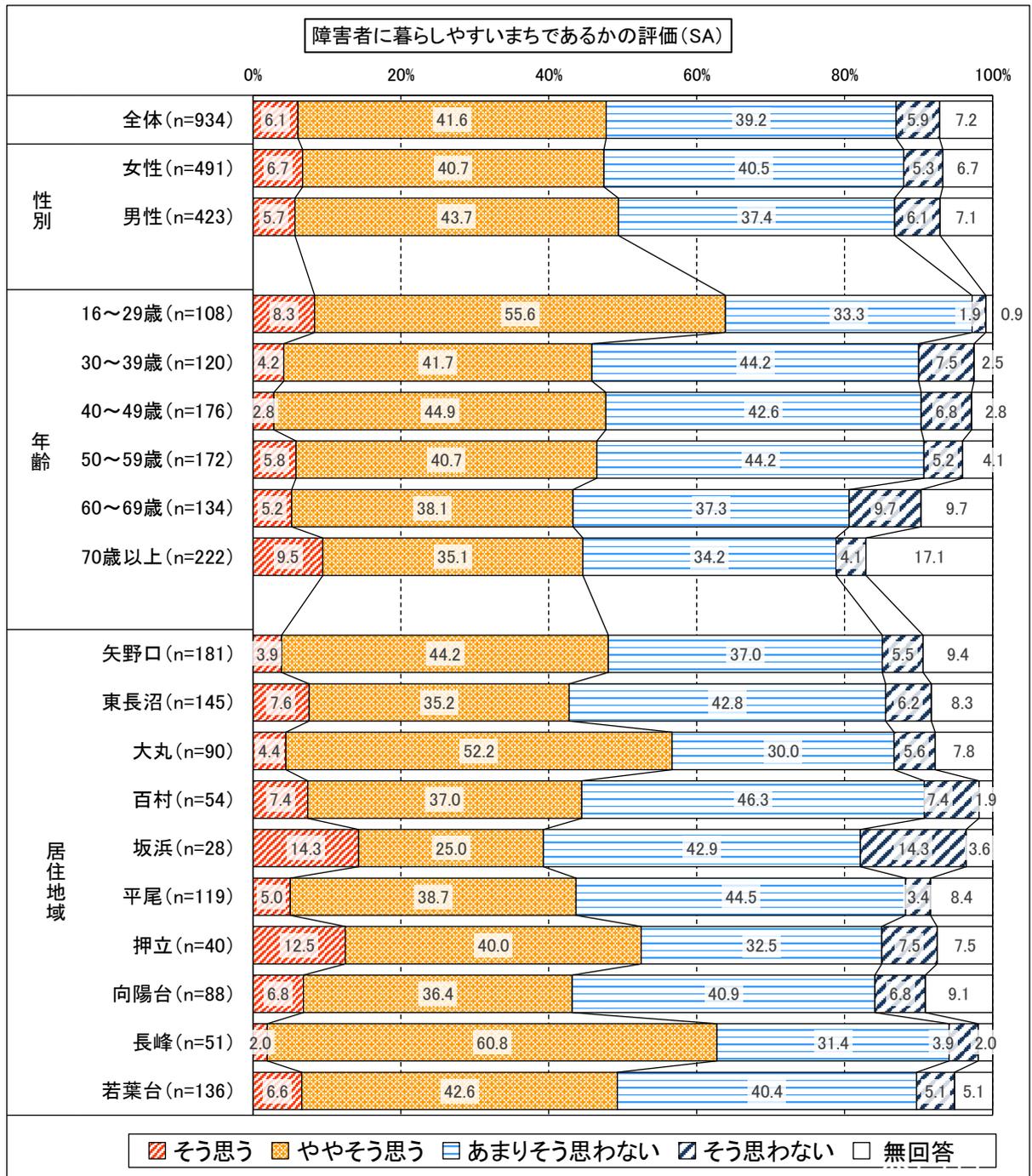
一方、「あまりそう思わない」が 39.2%、「そう思わない」が 5.9%となっており、合わせて 45.1%の回答者が“障害者に暮らしやすいまちであると思わない”と評価しており、回答割合は拮抗する結果となっています。



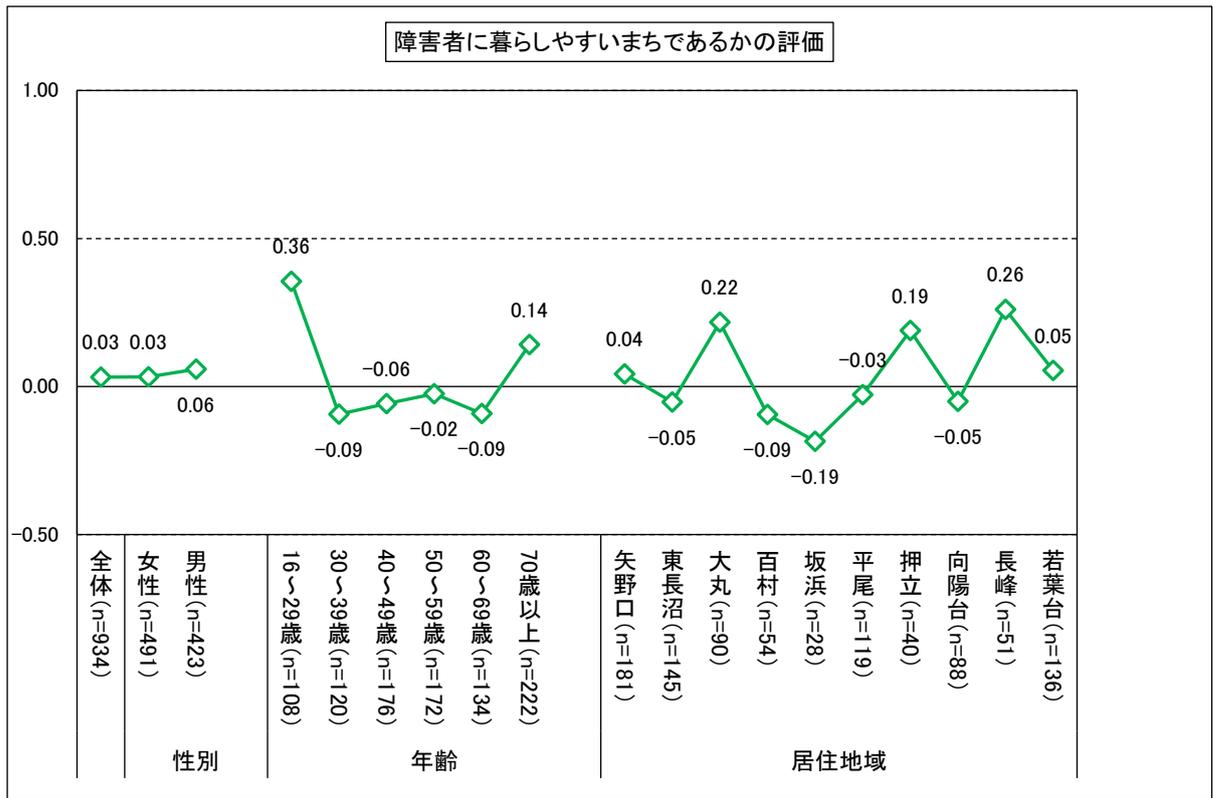
〔属性別〕

性別では回答結果に大きな差はみられませんが、年齢別では 16～29 歳での評価が比較的高い結果となっています。

居住地域別でみると、大丸、押立、長峰、若葉台での評価が比較的高い結果となっている一方、坂浜での評価が比較的低い結果となっており、加重平均値でもその傾向は明らかとなっています。



[属性別加重平均値]

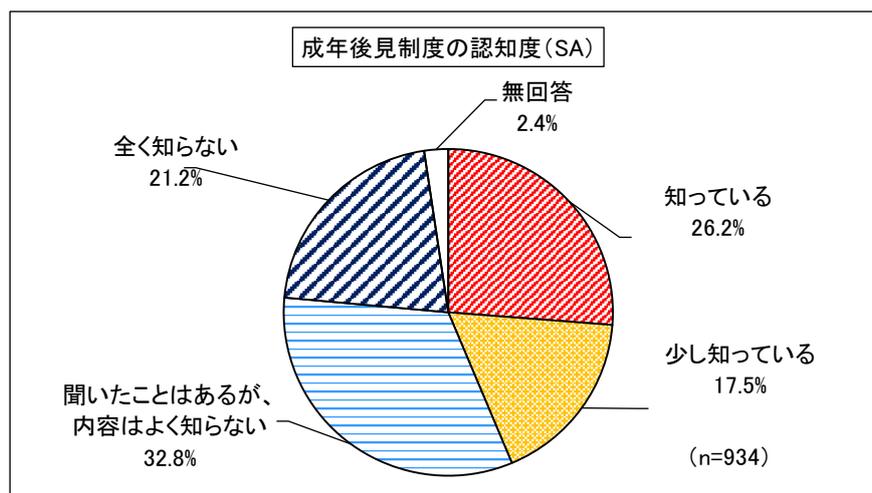


(2) -2 成年後見制度の認知度

〔全体〕

成年後見制度の認知度については、「知っている」は26.2%、「少し知っている」が17.5%となっており、合わせて43.7%と4割強の回答者が“知っている”と回答しています。

一方、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」が32.8%、「全く知らない」が21.2%となっており、合わせて54.0%と半数以上の回答者が“成年後見制度を知らない”と回答しています。

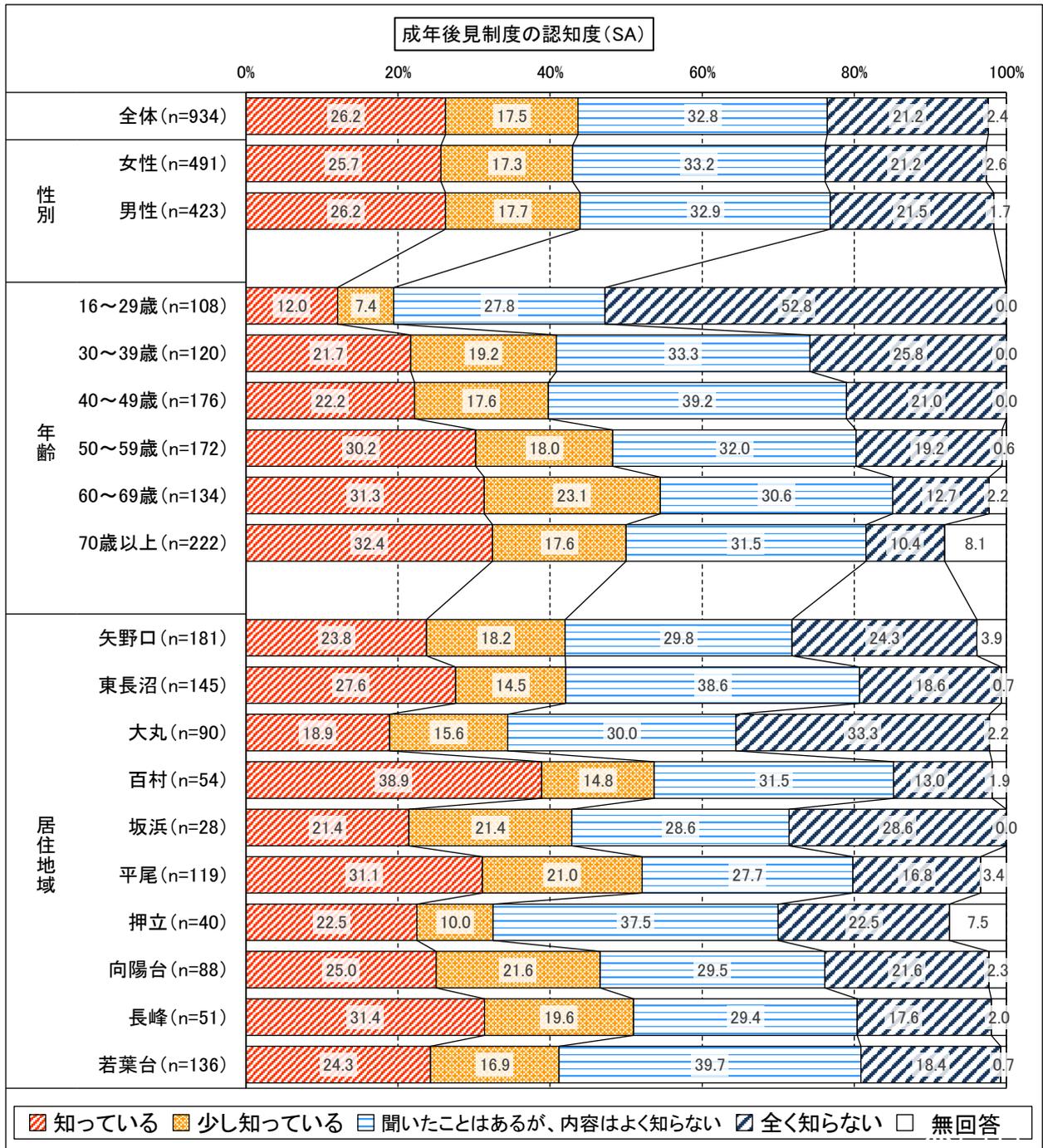


〔属性別〕

性別では回答結果に大きな差はみられませんが、年齢別では16～29歳での認知度が非常に低い結果となっています。

また、50歳以上では、認知度がおおむね半数を超える結果となっています。

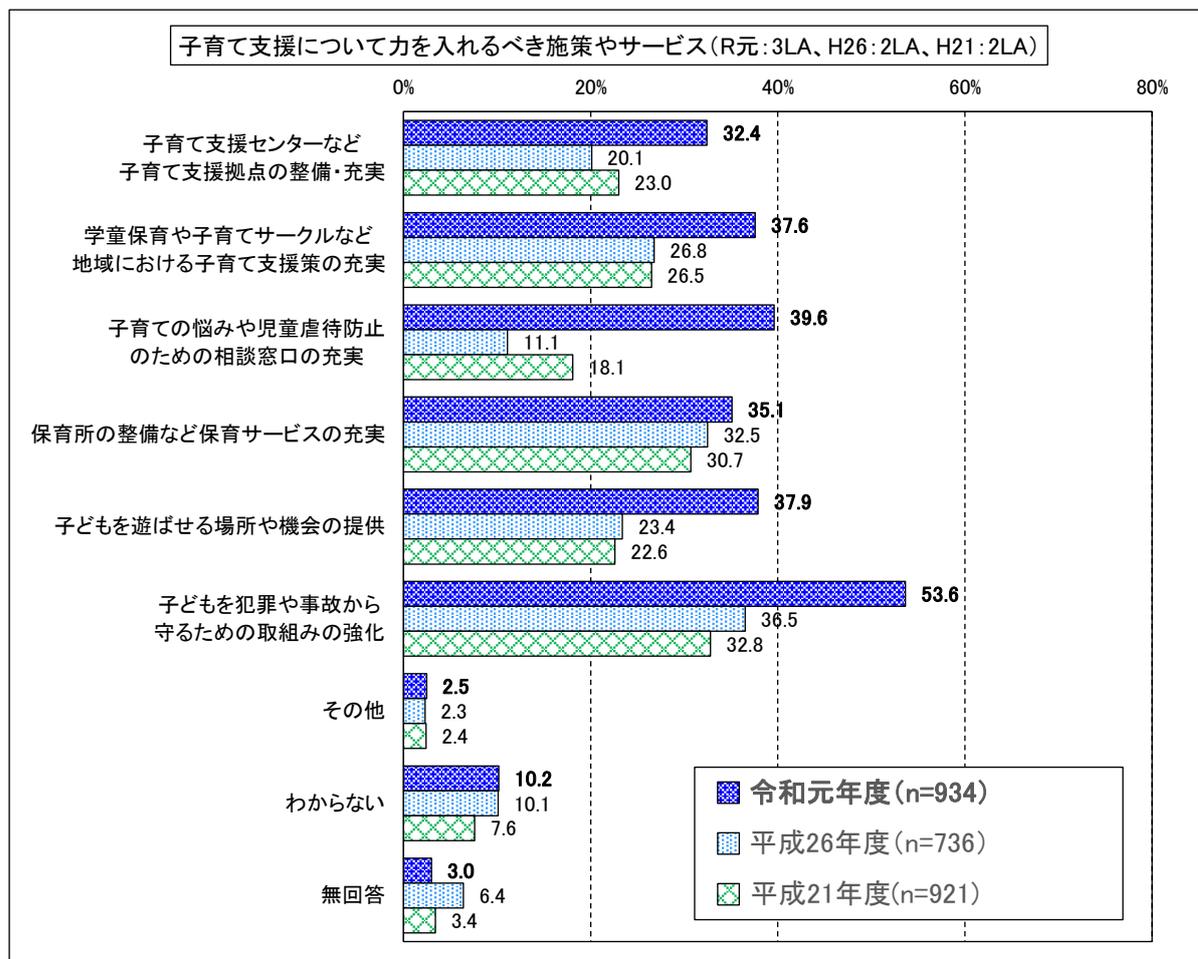
居住地域別でみると、大丸と押立の認知度が比較的低い一方、百村、平尾、長峰では認知度が比較的高い結果となっています。



(3) 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス

〔全体〕

子育て支援について力を入れるべき施策やサービスについては、「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」が53.6%と最も高く、次いで、「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」が39.6%、「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」が37.9%、「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」が37.6%と続いています。



〔比較〕

今回の回答条件（3LA：選択は3項目まで）と、前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の回答条件（2LA：選択は2項目まで）が異なるため一概に比較はできませんが、今回「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」への回答が多くなっていることがうかがえます。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 子育て支援を必要としない社会づくり(男性 30代)
- ・ 所得制限をもうけない子ども手当の支給(男性 30代)
- ・ 公民館での子ども向け事業、児童館の活性化(女性 30代)
- ・ 児童養護施設等への援助(女性 30代)
- ・ 公営の保育園や学童における質の向上を目指して民間の教育事業の誘致等の推奨(女性 30代)
- ・ 太鼓をたたける場所と機会を(男性 40代)
- ・ 中高生にも、充実した支援(女性 40代)
- ・ 平尾は外れているように思う広範囲での対応力を希望(女性 40代)
- ・ 子供手当や進学金の援助(女性 40代)
- ・ 所得制限なしで医療費を考えてほしい。同じケガ、病気をしたのに、治療費が異なるのはおかしくないですか？(女性 40代)
- ・ 職場体験をさせる。子供達の創造性、想像力を増させる。(男性 50代)
- ・ 南山に公園作って下さい。(女性 50代)
- ・ 保育所等整備以外の子育て支援の予算をそのまま子どもを産んだ家庭に渡す。(女性 50代)
- ・ 子育て支援員の活用。(女性 60代)
- ・ 老人も子供と交わって子供の助けになって親を支援してあげたいがチャンスがない(女性 70代)
- ・ お茶のみグループ。お母さんの支援は必要ですか？戦前のママさんより優遇されていると思いますネ(女性 80代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」への回答割合が最も高くなっており、次いで女性では、「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」への回答割合が高くなっていますが、男性では「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」と「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」への回答割合が高くなっています。

	子育て支援センターなど子育て支援拠点の整備・充実	学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実	保育所の整備など保育サービスの充実	子どもを遊ばせる場所や機会の提供	子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	32.4	37.6	39.6	35.1	37.9	53.6	2.5	10.2	3.0
女性 (n=491)	29.9	36.5	40.9	32.8	36.3	58.5	2.9	10.2	3.1
男性 (n=423)	35.9	40.0	37.8	38.1	40.0	48.7	2.1	10.2	2.4

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、すべての年齢階層で「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」への回答割合が最も高くなっています。

また、50歳未満では「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」への回答割合が高くなっており、50歳以上では「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」への回答割合が高くなっています。

	子育て支援センターなど子育て支援拠点の整備・充実	学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実	保育所の整備など保育サービスの充実	子どもを遊ばせる場所や機会の提供	子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	32.4	37.6	39.6	35.1	37.9	53.6	2.5	10.2	3.0
16～29歳 (n=108)	33.3	31.5	30.6	48.1	56.5	56.5	1.9	6.5	0.0
30～39歳 (n=120)	32.5	43.3	30.0	46.7	47.5	62.5	5.8	3.3	0.0
40～49歳 (n=176)	28.4	39.2	33.5	32.4	55.1	60.2	2.8	8.0	0.0
50～59歳 (n=172)	30.8	39.5	47.1	40.7	29.7	50.6	2.3	10.5	0.6
60～69歳 (n=134)	37.3	41.0	47.0	32.1	32.8	52.2	1.5	11.2	3.0
70歳以上 (n=222)	33.3	32.4	44.1	21.6	19.4	45.5	1.4	16.7	10.4

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、すべての地域で「子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化」への回答割合が最も高くなっています。

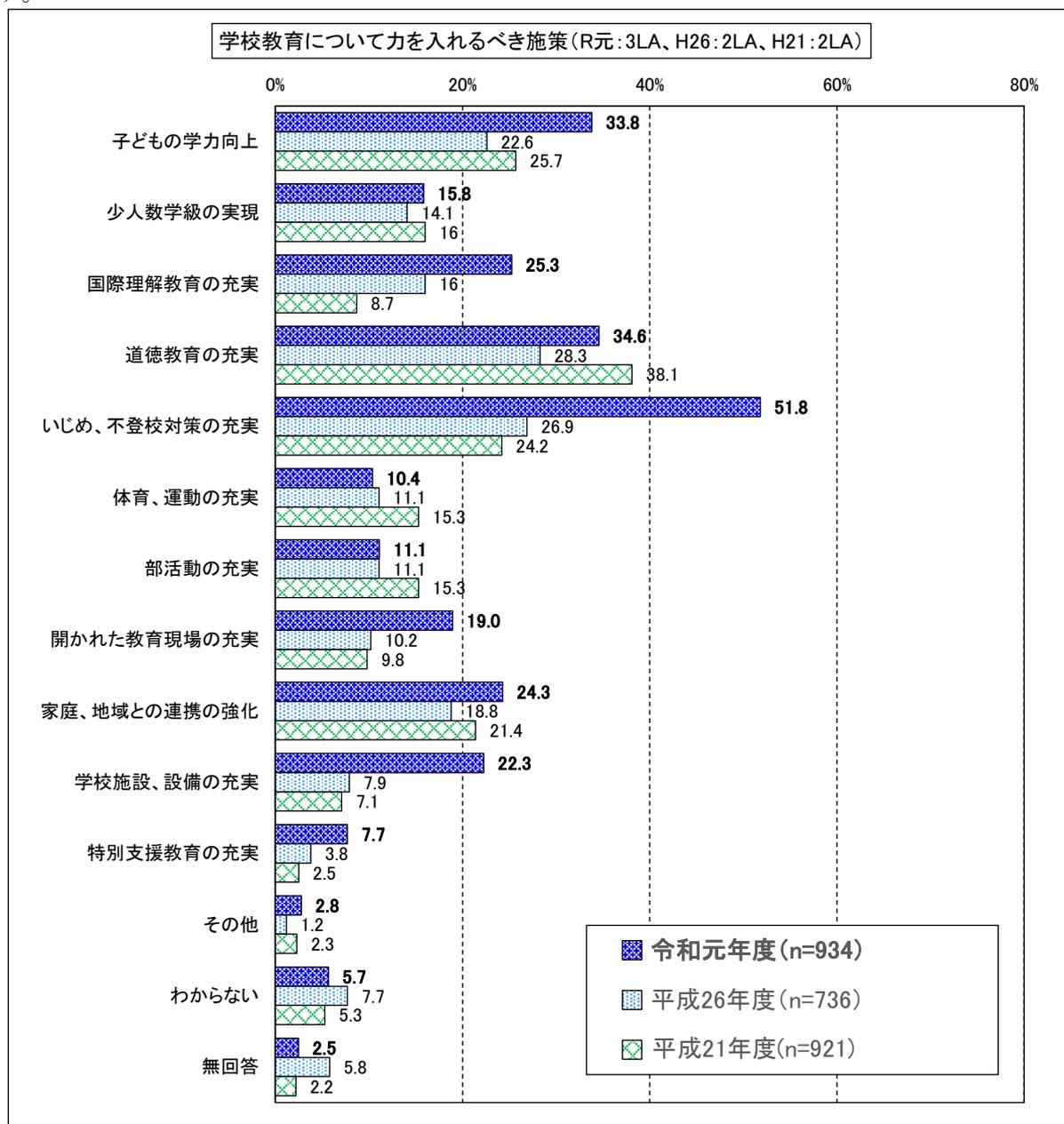
また、百村、坂浜、平尾、若葉台では「学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実」、大丸、向陽台、長峰では「子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実」、矢野口と押立では「子どもを遊ばせる場所や機会の提供」、東長沼と平尾では「保育所の整備など保育サービスの充実」への回答割合が高くなっており、地域での子育て支援を求めていることがうかがえます。

	子どもの犯罪や事故から守るための取組みの強化	子どもを遊ばせる場所や機会の提供	保育所の整備など保育サービスの充実	子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実	学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実	子育て支援センターなど子育て支援拠点の整備・充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	53.6	37.9	35.1	39.6	37.6	32.4	2.5	10.2	3.0
矢野口 (n=181)	56.9	47.0	35.4	44.8	34.3	35.4	1.7	8.3	4.4
東長沼 (n=145)	51.7	38.6	42.1	35.2	40.0	34.5	1.4	11.7	0.7
大丸 (n=90)	57.8	37.8	33.3	52.2	42.2	28.9	1.1	6.7	2.2
百村 (n=54)	44.4	37.0	31.5	37.0	40.7	31.5	0.0	11.1	5.6
坂浜 (n=28)	50.0	25.0	21.4	32.1	39.3	35.7	7.1	21.4	0.0
平尾 (n=119)	53.8	34.5	37.0	35.3	37.0	28.6	1.7	13.4	3.4
押立 (n=40)	57.5	50.0	37.5	30.0	32.5	20.0	12.5	0.0	10.0
向陽台 (n=88)	55.7	31.8	36.4	44.3	40.9	31.8	1.1	9.1	2.3
長峰 (n=51)	52.9	31.4	31.4	45.1	27.5	31.4	2.0	9.8	2.0
若葉台 (n=136)	50.0	33.1	30.9	33.8	39.0	36.8	3.7	11.8	2.2

(4) 学校教育について力を入れるべき施策

〔全体〕

学校教育について力を入れるべき施策については、「いじめ、不登校対策の充実」が51.8%と最も高く、次いで、「道徳教育の充実」が34.6%、「子どもの学力向上」が33.8%と続いています。



※回答選択肢「体育、運動の充実」及び「部活動の充実」は、平成21年度及び平成26年度調査においては「体育、運動、部活動の充実」と統合された選択肢として設定されています。

〔比較〕

今回の回答条件(3LA:選択は3項目まで)と、前回(平成26年度)及び前々回(平成21年度)の回答条件(2LA:選択は2項目まで)が異なるため一概に比較はできませんが、今回「いじめ、不登校対策の充実」への回答割合が高くなっていることがうかがえます。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 教師の質の向上(男性 10代)
- ・ 差別をしないまともな人のみ先生とする(男性 20代)
- ・ 子供の自転車マナーが悪い。危ないので学校で指導徹底してほしい。(男性 30代)
- ・ フィンランドやオランダの教育のように個人を大事にした教育の実現(女性 30代)
- ・ 校庭の芝生化(女性 30代)
- ・ 人生に役立つことを現在に則して教える(男性 40代)
- ・ I T活用の推進(男性 40代)
- ・ 教職員の負荷低減・質の向上(男性 40代)
- ・ 特別教室にもエアコンを入れてあげてください。(女性 40代)
- ・ 教員の質の向上(女性 40代)
- ・ 小学校の先生を各クラス2名体制にしてほしい(女性 40代)
- ・ I T、プログラミング等(無回答 40代)
- ・ 教員をふやし忙しさを軽減させる。(男性 50代)
- ・ 現在改善されているかも知れませんが、私が学生だった時が「ハズレ」だったのかも知れませんが、当時20年近く前どうにもクラス分け及びクラスの運営があまり上手く行っていませんでした。その結果、私の学年が色々問題多発でその後の人生に大きく悪影響があったと言わざるを得ません。教員のレベルの向上に力を入れるべきでしょう。(男性 50代)
- ・ ひとりひとりの個性を大切にする教育(女性 50代)
- ・ 地域による格差をなくす教育(女性 50代)
- ・ 生きるために必要な知識をつける。たとえば制度の受け方 知っている人だけが得する福祉のサービスなどを教える。(女性 50代)
- ・ 学校の機能だけでなく高齢者施設と共有のものを作ってほしい(女性 50代)
- ・ 教員の負担減少(女性 50代)
- ・ 教員数増(男性 60代)
- ・ 市役所つぶす(男性 60代)
- ・ 子供は私立に小・中・高と行かせたので・・・(女性 60代)
- ・ あいさつのできる子供に！近所の子供はあいさつできません(女性 60代)
- ・ 運動部の専門担当の先生を配置して欲しい。子供の持っている特技を伸ばせられず、開花させられないまま、卒業させている。学業も大事ですが、スポーツで頑張りたい児童もたくさんいます。(男性 70代)
- ・ 小学生の登下校の見守隊充実を願う(女性 70代)
- ・ 文化芸術面の展示施設充実(男性 80代)
- ・ 大声で話しながら通学止めて。様々なところでのボランティア賛成(女性 80代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「いじめ、不登校対策の充実」への回答割合が最も高くなっており、次いで、女性では「子どもの学力向上」への回答割合が、男性では「道德教育の充実」への回答割合が高くなっています。

	子どもの学力向上	少人数学級の実現	国際理解教育の充実	道德教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	体育、運動の充実	部活動の充実	開かれた教育現場の充実	家庭、地域との連携の強化	学校施設、設備の充実	特別支援教育の充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	33.8	15.8	25.3	34.6	51.8	10.4	11.1	19.0	24.3	22.3	7.7	2.8	5.7	2.5
女性 (n=491)	33.6	17.7	24.2	29.5	54.6	9.6	9.0	17.9	25.1	22.6	9.0	2.6	5.7	2.6
男性 (n=423)	34.8	13.7	27.0	40.2	48.5	11.8	13.9	20.6	23.6	22.5	6.4	2.8	5.4	1.7

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、16～29歳と40～49歳では「子どもの学力向上」への回答割合が最も高くなっていますが、30～39歳及び50歳以上では「いじめ、不登校対策の充実」への回答割合が最も高くなっています

なお、50歳以上では「道德教育の充実」への回答割合が高い結果となっています。

	子どもの学力向上	少人数学級の実現	国際理解教育の充実	道德教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	体育、運動の充実	部活動の充実	開かれた教育現場の充実	家庭、地域との連携の強化	学校施設、設備の充実	特別支援教育の充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	33.8	15.8	25.3	34.6	51.8	10.4	11.1	19.0	24.3	22.3	7.7	2.8	5.7	2.5
16～29歳 (n=108)	43.5	15.7	27.8	25.0	42.6	21.3	16.7	15.7	23.1	36.1	5.6	2.8	2.8	0.0
30～39歳 (n=120)	42.5	17.5	30.8	29.2	50.0	11.7	15.0	15.8	18.3	29.2	10.0	3.3	4.2	0.0
40～49歳 (n=176)	47.7	21.0	29.5	28.4	42.6	11.4	15.9	21.0	15.9	27.3	8.0	4.0	3.4	0.0
50～59歳 (n=172)	32.0	16.9	23.8	34.9	55.2	8.7	12.2	19.2	25.0	22.1	9.9	2.9	4.7	0.6
60～69歳 (n=134)	21.6	14.9	21.6	43.3	62.7	5.2	4.5	24.6	26.9	14.9	9.0	2.2	5.2	3.7
70歳以上 (n=222)	22.1	10.8	21.2	41.4	55.4	8.1	5.9	17.1	32.4	11.7	5.0	1.8	10.8	7.7

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、すべての地域で「いじめ、不登校対策の充実」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、大丸、百村、坂浜、向陽台、長峰では「道徳教育の充実」が、矢野口、東長沼、平尾、押立では「子どもの学力向上」への割合が最も高くなっています。

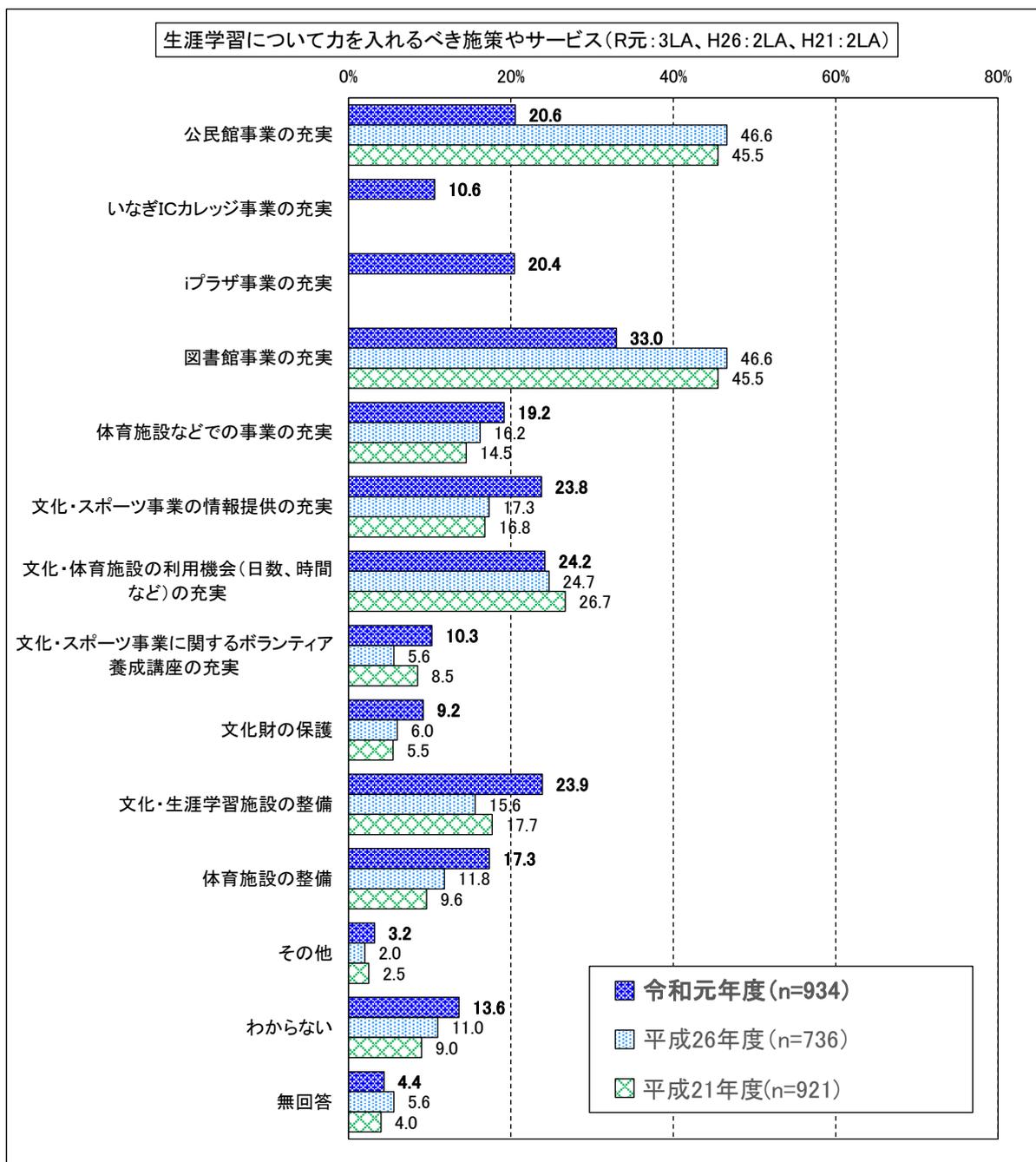
なお、若葉台では、「子どもの学力向上」、「国際理解教育の充実」、及び「道徳教育の充実」への回答割合が同じ結果となっています。

	子どもの学力向上	少人数学級の実現	国際理解教育の充実	道徳教育の充実	いじめ、不登校対策の充実	体育、運動の充実	部活動の充実	開かれた教育現場の充実	家庭、地域との連携の強化	学校施設、設備の充実	特別支援教育の充実	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	33.8	15.8	25.3	34.6	51.8	10.4	11.1	19.0	24.3	22.3	7.7	2.8	5.7	2.5
矢野口 (n=181)	39.8	14.9	23.8	32.0	54.7	12.2	11.6	19.9	20.4	24.9	9.9	2.2	4.4	3.9
東長沼 (n=145)	34.5	18.6	22.8	33.8	49.7	15.2	10.3	21.4	26.2	17.9	6.9	2.8	6.9	1.4
大丸 (n=90)	31.1	15.6	21.1	51.1	58.9	6.7	15.6	17.8	26.7	22.2	6.7	1.1	3.3	2.2
百村 (n=54)	33.3	11.1	22.2	38.9	51.9	7.4	18.5	13.0	22.2	22.2	9.3	3.7	3.7	3.7
坂浜 (n=28)	28.6	14.3	14.3	32.1	57.1	14.3	7.1	10.7	21.4	17.9	17.9	3.6	7.1	0.0
平尾 (n=119)	35.3	18.5	25.2	32.8	44.5	5.0	9.2	21.8	28.6	23.5	6.7	1.7	7.6	2.5
押立 (n=40)	40.0	10.0	17.5	30.0	42.5	17.5	17.5	15.0	17.5	27.5	7.5	2.5	7.5	5.0
向陽台 (n=88)	27.3	17.0	35.2	33.0	55.7	8.0	5.7	20.5	22.7	26.1	8.0	4.5	4.5	2.3
長峰 (n=51)	29.4	17.6	29.4	33.3	49.0	11.8	3.9	15.7	25.5	17.6	5.9	0.0	9.8	2.0
若葉台 (n=136)	30.9	14.7	30.9	30.9	52.2	9.6	12.5	19.1	25.7	20.6	5.1	4.4	5.1	1.5

(5) 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス

〔全体〕

生涯学習について力を入れるべき施策やサービスについては、「図書館事業の充実」が33.0%と最も高く、次いで、「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」が24.2%、「文化・生涯学習施設の整備」が23.9%、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」が23.8%と続いています。



※回答選択肢「公民館事業の充実」及び「図書館事業の充実」は、平成21年度及び平成26年度調査においては「公民館、図書館などでの事業の充実」と統合された選択肢として設定されています。

※「いなぎICカレッジ事業の充実」及び「iプラザ事業の充実」は、本調査で新たに設定された選択肢です。

〔比較〕

今回調査では、平成 21 年度及び平成 26 年度調査において「公民館、図書館などでの事業の充実」と統合された選択肢を、「公民館事業の充実」及び「図書館事業の充実」に分けて回答することになったため、上位の回答項目への回答割合に大きな差が出ない結果となっていると思われます。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 近隣の市より参加費用が高いため安くして参加しやすくしてほしい(女性 20 代)
- ・ 多摩川サイクリングコースをよく自転車で利用するが、路面管理やマナー指導があるといい。せつかくいい環境なのだから。特にスケートボードやBBQ利用者のマナーが悪い。(男性 30 代)
- ・ オーエンス健康プラザ、(水) もやってほしいです!! (男性 30 代)
- ・ 体育施設の予約方法を完全にシステム化すべき。雨天時の振り替え方法や体育館での直接支払いなど、非効率的である。(男性 30 代)
- ・ サイクリングロードの整備(男性 30 代)
- ・ 文化・体育施設での講座の充実(女性 30 代)
- ・ 平尾エリアにスポーツ施設を(女性 30 代)
- ・ 体育施設の利用ルールが不明瞭・使用時の使用料の支払いが不便(男性 40 代)
- ・ 健康プラザ市民割引(男性 40 代)
- ・ 駐車場無料化(男性 40 代)
- ・ 公民館、i プラザの当日空施設利用の受け(女性 40 代)
- ・ 野外アスレチックや自由に球技ができる施設の整備や、そのための既存の児童館・公園の再整備(女性 40 代)
- ・ 市民無料Wi-Fi(無回答 40 代)
- ・ 市施設利用した事が無い(男性 50 代)
- ・ スキーツアーやスポーツ大会などの企画を増やす。(男性 50 代)
- ・ 企業内で見学できる会社をリサーチし、紹介して子供達の可能性を拓ける。(男性 50 代)
- ・ 市民がになれる生涯学習のしくみを作る(女性 50 代)
- ・ いなぎICカレッジ利用者の駐車場利用料の割引(講座が1時間ある為、年会費を払っている)(女性 50 代)
- ・ 稲城市在住と市外者の利用料負担を分けた施設利用としてほしい、市民優遇すべきです。(女性 50 代)
- ・ それより福祉や子育て支援に予算回して下さい。(女性 50 代)
- ・ 体育課もひどい(男性 60 代)
- ・ 活動の内訳がよく解りませんでした。(男性 60 代)
- ・ ずっと働いていた人は、参加しづらい(女性 60 代)
- ・ 参加したいが、なかなか思い通りのものがない(女性 70 代)
- ・ 公園等にシニアの健康UPにつながる用具の施設がほしい。(女性 70 代)
- ・ 高齢者体育施設(予防)の増強と参画増加の工夫(男性 80 代)
- ・ 現在のスポーツ傾倒の施設より文化芸術面の施設(ex 展示施設etc) 充実を図って欲しい(男性 80 代)
- ・ 各学校の施設や各体育館を活用させて欲しい(女性 80 代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「図書館事業の充実」への回答割合が最も高くなっていますが、それに次いで女性では「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」への回答割合が、男性では「文化・生涯学習施設の整備」への回答割合が多くなっています。

なお、男性では「文化・生涯学習施設の整備」への回答割合が高い結果となっていますが、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」及び「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」への回答割合もほぼ同程度となっており、施設整備、情報提供、利用機会の充実等、各取組みへの期待が広がっている結果となっています。

	公民館事業の充実	いなぎICカレッジ事業の充実	iプラザ事業の充実	図書館事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	文化・スポーツ事業に関するポラ ンティア養成講座の充実	文化財の保護	文化・生涯学習施設の整備	体育施設の整備	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	20.6	10.6	20.4	33.0	19.2	23.8	24.2	10.3	9.2	23.9	17.3	3.2	13.6	4.4
女性 (n=491)	20.6	10.6	21.8	31.2	19.1	22.4	24.2	11.4	6.9	22.2	14.9	2.6	15.1	4.3
男性 (n=423)	20.6	10.4	19.6	35.5	19.4	25.3	24.6	8.5	12.1	25.8	20.8	3.8	11.6	4.0

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、16～29歳、40～59歳では「図書館事業の充実」への回答割合が最も高くなっていますが、30～39歳では「体育施設などでの事業の充実」と「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」への回答割合が、60歳以上では「文化・生涯学習施設の整備」への回答割合が最も高くなっています。

60歳未満ではソフト面での充実を、60歳以上ではハード面での充実を期待する傾向にあることがうかがえます。

	公民館事業の充実	いなぎICカレッジ事業の充実	iプラザ事業の充実	図書館事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	文化・スポーツ事業に関するポラ ンティア養成講座の充実	文化財の保護	文化・生涯学習施設の整備	体育施設の整備	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	20.6	10.6	20.4	33.0	19.2	23.8	24.2	10.3	9.2	23.9	17.3	3.2	13.6	4.4
16～29歳 (n=108)	14.8	8.3	20.4	47.2	24.1	20.4	27.8	7.4	14.8	10.2	25.0	0.9	9.3	0.0
30～39歳 (n=120)	18.3	2.5	18.3	30.8	31.7	24.2	31.7	6.7	10.0	15.8	27.5	4.2	15.0	0.8
40～49歳 (n=176)	19.9	14.2	21.0	38.6	18.8	20.5	29.0	12.5	9.1	22.7	17.6	4.0	13.6	1.1
50～59歳 (n=172)	20.9	12.8	23.3	31.4	16.3	30.2	20.9	11.6	11.6	27.3	17.4	5.2	11.6	1.2
60～69歳 (n=134)	26.1	13.4	19.4	29.1	16.4	19.4	25.4	9.0	7.5	31.3	14.9	2.2	14.9	4.5
70歳以上 (n=222)	21.6	9.5	19.8	26.1	14.0	25.2	16.7	11.3	5.4	28.8	9.0	2.3	15.8	13.5

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、東長沼と百村では「公民館事業の充実」への回答割合が最も高くなっており、若葉台では地域にある施設「iプラザ事業の充実」への回答割合が最も高くなっています。

これらの地域以外の7地域では「図書館事業の充実」への回答割合が最も高くなっています。坂浜では、同率で「文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実」への回答割合も高くなっています。

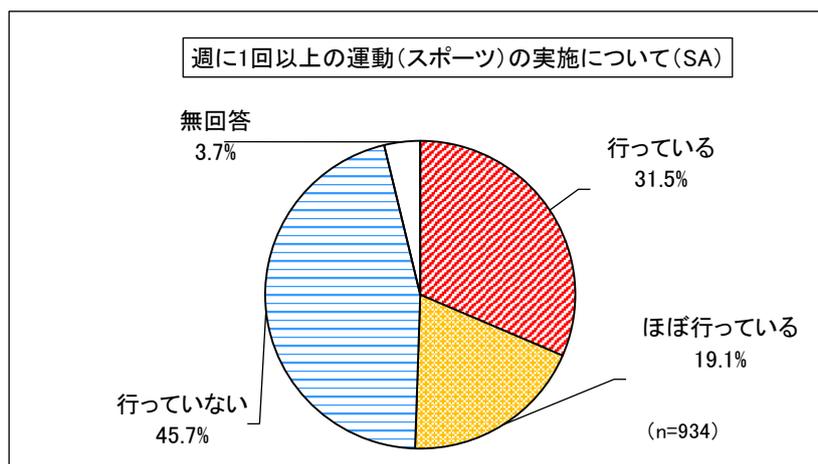
	公民館事業の充実	いなぎICカレッジ事業の充実	iプラザ事業の充実	図書館事業の充実	体育施設などでの事業の充実	文化・スポーツ事業の情報提供の充実	文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	文化・スポーツ事業に関するポラ ンティア養成講座の充実	文化財の保護	文化・生涯学習施設の整備	体育施設の整備	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	20.6	10.6	20.4	33.0	19.2	23.8	24.2	10.3	9.2	23.9	17.3	3.2	13.6	4.4
矢野口 (n=181)	23.2	9.9	11.6	33.7	23.2	20.4	25.4	9.4	8.3	21.0	19.3	2.2	13.8	7.2
東長沼 (n=145)	27.6	6.2	13.1	26.2	16.6	26.9	23.4	10.3	9.7	24.1	18.6	2.8	17.9	2.8
大丸 (n=90)	26.7	12.2	13.3	32.2	20.0	22.2	22.2	13.3	10.0	22.2	16.7	1.1	16.7	4.4
百村 (n=54)	31.5	13.0	11.1	25.9	11.1	29.6	22.2	9.3	7.4	24.1	14.8	5.6	14.8	5.6
坂浜 (n=28)	7.1	14.3	21.4	28.6	14.3	14.3	28.6	10.7	17.9	14.3	17.9	14.3	10.7	3.6
平尾 (n=119)	16.8	10.9	16.8	34.5	16.0	24.4	20.2	12.6	8.4	30.3	17.6	3.4	16.8	4.2
押立 (n=40)	27.5	15.0	17.5	35.0	25.0	25.0	22.5	10.0	17.5	15.0	7.5	2.5	10.0	12.5
向陽台 (n=88)	20.5	13.6	8.0	45.5	20.5	18.2	29.5	6.8	8.0	27.3	15.9	3.4	12.5	3.4
長峰 (n=51)	11.8	15.7	27.5	43.1	29.4	29.4	17.6	9.8	9.8	23.5	17.6	0.0	9.8	2.0
若葉台 (n=136)	8.8	8.1	58.1	30.1	16.2	25.0	27.9	9.6	6.6	25.7	18.4	3.7	7.4	1.5

(5) -1 週に1回以上の運動(スポーツ)の実施について

〔全体〕

週に1回以上の運動(スポーツ)の実施については、「行っている」は31.5%、「ほぼ行っている」が19.1%となっており、合わせて50.6%と半数の回答者が“行っている”と回答しています。

一方、回答者の半数近く(45.7%)が「行っていない」と回答しています。

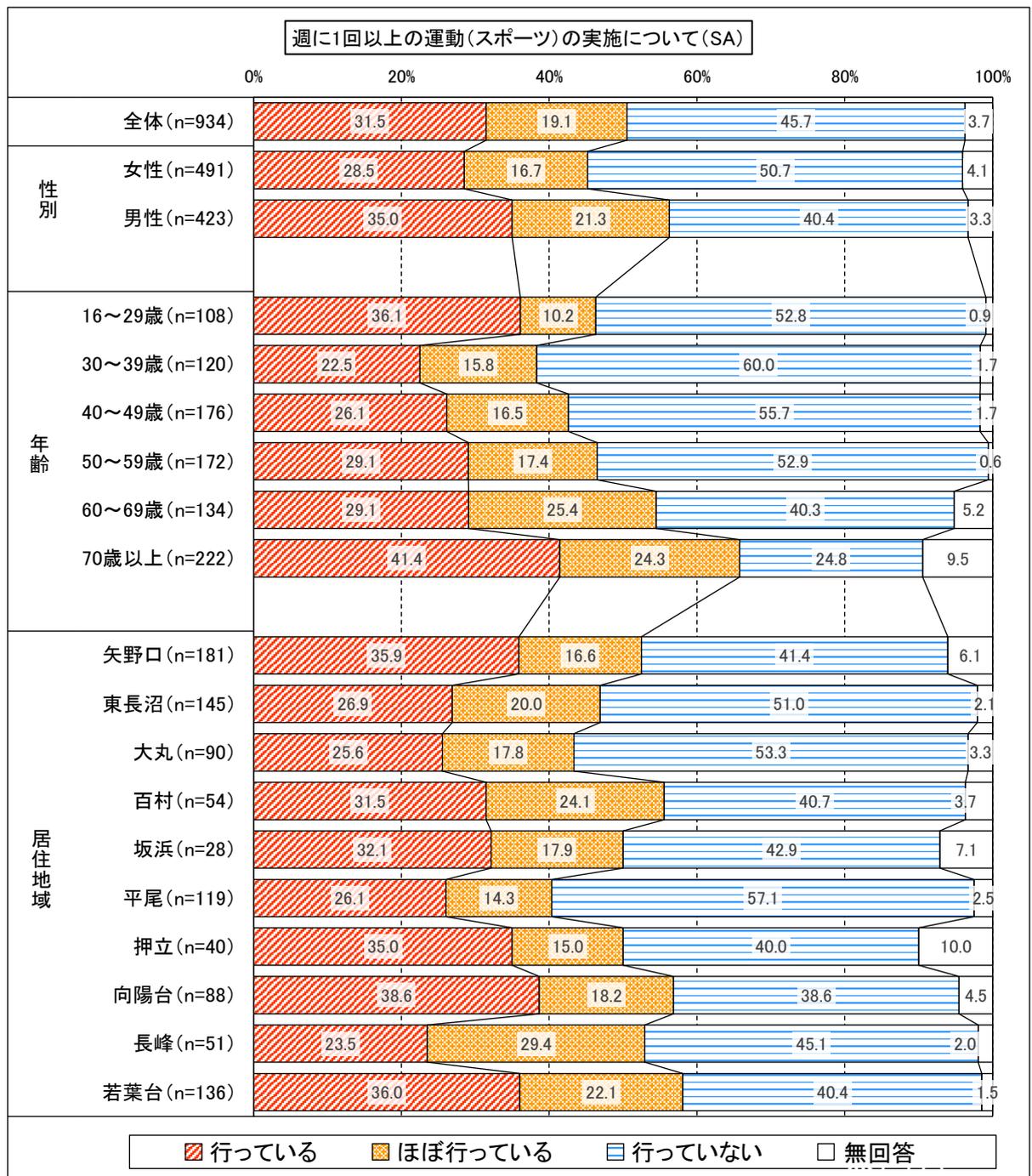


〔属性別〕

性別で見ると、女性よりも男性の方が運動を多く行っている結果となっています。

年齢別では、30～39歳が最も運動を行っておらず、30歳以上では年齢階層が上がるにつれ運動を行う割合が多くなっています。

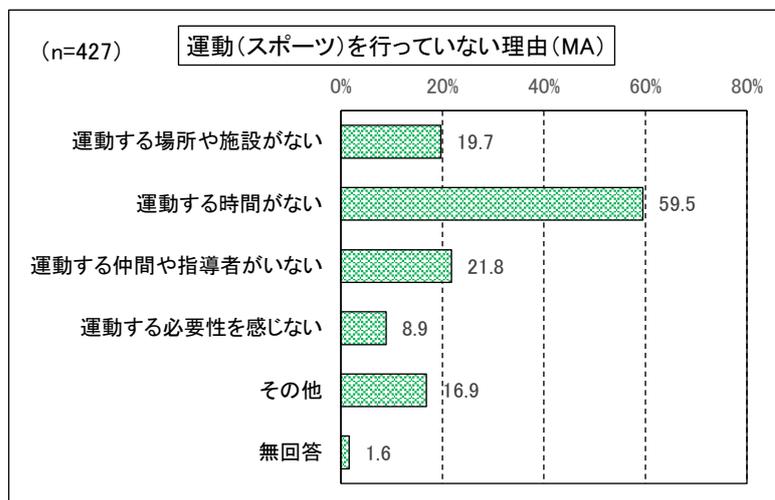
地域別では、大丸、平尾で、運動を行っていない回答割合が高くなっていますが、矢野口、百村、向陽台、長峰、若葉台では運動を行っている回答割合が比較的高くなっています。



(5) -2 運動（スポーツ）を行っていない理由

〔全体〕

運動（スポーツ）を行っていない理由については、「運動する時間がない」が59.5%と回答者の約6割を占めており、「運動する仲間や指導者がいない」が21.8%、「運動する場所や施設がない」が19.7%と、ともに回答者の2割程度となっています。



〔属性別：性別〕

性別で見ると、男女ともに「運動する時間がない」への回答割合が最も高くなっており、次いで「運動する仲間や指導者がいない」となっています。

	運動する場所や施設がない	運動する時間がない	運動する仲間や指導者がいない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全体 (n=427)	19.7	59.5	21.8	8.9	16.9	1.6
女性 (n=249)	20.5	60.2	22.9	6.8	18.9	1.6
男性 (n=171)	18.1	57.9	20.5	11.7	14.0	1.8

〔属性別：年齢別〕

年齢別で見ると、70歳以上を除く、すべての年齢階層で「運動する時間がない」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、「運動する場所や施設がない」と「運動する仲間や指導者がいない」への回答が分かれる傾向となっています。

	運動する場所や施設がない	運動する時間がない	運動する仲間や指導者がいない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全体 (n=427)	19.7	59.5	21.8	8.9	16.9	1.6
16～29歳 (n=57)	28.1	75.4	12.3	7.0	8.8	1.8
30～39歳 (n=72)	20.8	70.8	25.0	5.6	12.5	1.4
40～49歳 (n=98)	22.4	67.3	27.6	9.2	8.2	1.0
50～59歳 (n=91)	12.1	65.9	16.5	8.8	17.6	2.2
60～69歳 (n=54)	25.9	38.9	25.9	9.3	24.1	0.0
70歳以上 (n=55)	10.9	23.6	21.8	14.5	38.2	3.6

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、すべての地域で「運動する時間がない」への回答割合が最も高くなっています。

矢野口と東長沼では「運動する場所や施設がない」への回答割合が比較的高く、坂浜、向陽台では「運動する仲間や指導者がいない」への回答割合が比較的高くなっています。

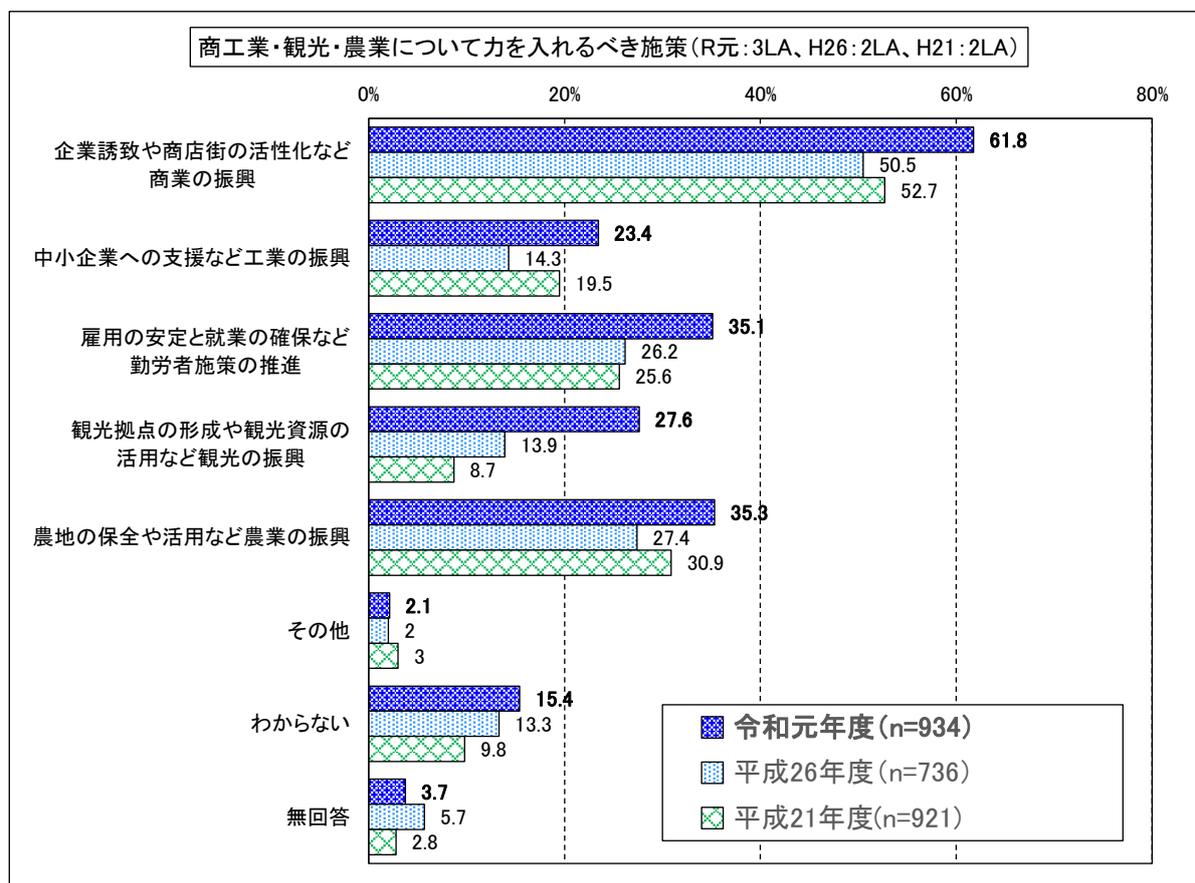
また、平尾と若葉台では「運動する場所や施設がない」と「運動する仲間や指導者がいない」への回答割合が同じ結果となっています。

	運動する場所や施設がない	運動する時間がない	運動する仲間や指導者がいない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全体 (n=427)	19.7	59.5	21.8	8.9	16.9	1.6
矢野口 (n=75)	25.3	69.3	20.0	10.7	13.3	1.3
東長沼 (n=74)	24.3	51.4	20.3	9.5	17.6	1.4
大丸 (n=48)	8.3	58.3	20.8	8.3	12.5	2.1
百村 (n=22)	9.1	68.2	13.6	13.6	22.7	0.0
坂浜 (n=12)	8.3	50.0	33.3	0.0	25.0	8.3
平尾 (n=168)	23.5	55.9	23.5	5.9	20.6	4.4
押立 (n=16)	18.8	68.8	12.5	18.8	12.5	0.0
向陽台 (n=34)	23.5	64.7	32.4	5.9	14.7	0.0
長峰 (n=23)	4.3	52.2	21.7	8.7	26.1	0.0
若葉台 (n=55)	21.8	58.2	21.8	9.1	14.5	0.0

(6) 商工業・観光・農業について力を入れるべき施策

〔全体〕

商工業・観光・農業について力を入れるべきことについては、「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」が61.8%と最も高く、次いで、「農地の保全や活用など農業の振興」が35.3%、「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」が35.1%と続いています。



〔比較〕

今回の回答条件(3LA:選択は3項目まで)と、前回(平成26年度)及び前々回(平成21年度)の回答条件(2LA:選択は2項目まで)が異なるため一概に比較はできませんが、上位項目については同様の傾向となっています。

また、今回の結果では、「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」への回答割合の増加が目立っています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 駅前に都市銀行がないのでとても不便(女性 10代)
- ・ ベンチャー企業や新ビジネスへの誘致・支援(できれば左記企業の経営者と子供の意見交換ができる場を教育プログラムに入れて欲しい)(女性 20代)
- ・ 稲城駅周辺の商業施設の充実(女性 30代)
- ・ 守り続ける価値の仕事をしている人が廃業しなくて済むような支援(男性 40代)
- ・ 飲食店が少ない(男性 40代)
- ・ 障害者の雇用安定化。就業訓練の充実化。有機野菜農地の推進(女性 40代)
- ・ オシャレ、話題になっている店の誘致。スタバ以外にもカフェ、スイーツ専門店が欲しい。(女性 40代)
- ・ 駅周辺商業施設や商店街の活性化。商業区域として一体的な街並みを整備オープンスペースの充実(買い物・休憩しやすい場)(女性 40代)
- ・ おもしろい場所を提供してほしい。たとえば、楽器の練習場所(男性 50代)
- ・ 社会参加をうながす。現在、求職中の方々へどんなスキルを持っているか情報交換する場所を与える。(男性 50代)
- ・ あれもこれもというのは無理と思うので、梨なら梨で、大々的にアピールして売っていったらどうですか？知る人ぞ知る・・・みたいなのではなく。(女性 50代)
- ・ 市内事業者の意識改革(女性 50代)
- ・ 農業体験の促進(女性 50代)
- ・ 役所がダメ(男性 60代)
- ・ 節度ある住宅地開発許可と指導(自然が大手ハウスメーカーにより破壊されている)(女性 60代)
- ・ 梨畑だけで、あまり農地がないように思う。(男性 70代)
- ・ 田畑が住宅にかわっていくのが速くて残念。市税が増えていいでしょうが残念です。(女性 70代)
- ・ 住宅地(高台)の中にある貸農園:視察して、回りの住民の声を聞いて、畑から出る乾草やビニール等、ゴミ場を設置(畑内)希望。(女性 70代)
- ・ 中・高生徒の農商業各施設のボランティアや訓練参加を(女性 80代)
- ・ 観光化は望まない(女性 80代)
- ・ 商業施設の充実(80代)

〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、女性では「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」への回答割合が、男性では「農地の保全や活用など農業の振興」への回答割合が高くなっています。

なお、「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」への回答割合では、女性よりも男性の回答割合が高くなっています。

	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	中小企業への支援など工業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	農地の保全や活用など農業の振興	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	61.8	23.4	35.1	27.6	35.3	2.1	15.4	3.7
女性 (n=491)	62.9	20.0	33.4	25.9	30.3	2.6	17.1	4.3
男性 (n=423)	61.0	27.4	37.1	29.6	41.6	1.4	13.5	2.6

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、すべての年齢において「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」への回答割合が最も高くなっています。

また、50歳未満では「観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興」や「農地の保全や活用など農業の振興」への回答割合が比較的高い結果となっている一方、50歳以上では「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」への回答割合が比較的高い結果となっています。

	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	中小企業への支援など工業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	農地の保全や活用など農業の振興	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	61.8	23.4	35.1	27.6	35.3	2.1	15.4	3.7
16～29歳 (n=108)	56.5	20.4	28.7	32.4	28.7	1.9	20.4	0.9
30～39歳 (n=120)	71.7	21.7	30.8	31.7	38.3	0.8	10.8	0.8
40～49歳 (n=176)	67.0	23.3	35.2	25.0	39.2	2.3	9.1	2.3
50～59歳 (n=172)	66.9	26.7	40.7	31.4	37.2	2.9	13.4	0.6
60～69歳 (n=134)	62.7	25.4	43.3	20.9	37.3	1.5	16.4	3.0
70歳以上 (n=222)	50.5	22.1	31.1	26.6	31.1	2.7	21.6	10.8

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、すべての地域において「企業誘致や商店街の活性化など商業の振興」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、矢野口、大丸、百村、平尾の4地域では「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」への回答割合が高く、東長沼、向陽台、長峰、若葉台の4地域では「農地の保全や活用など農業の振興」への回答割合が高くなっています。

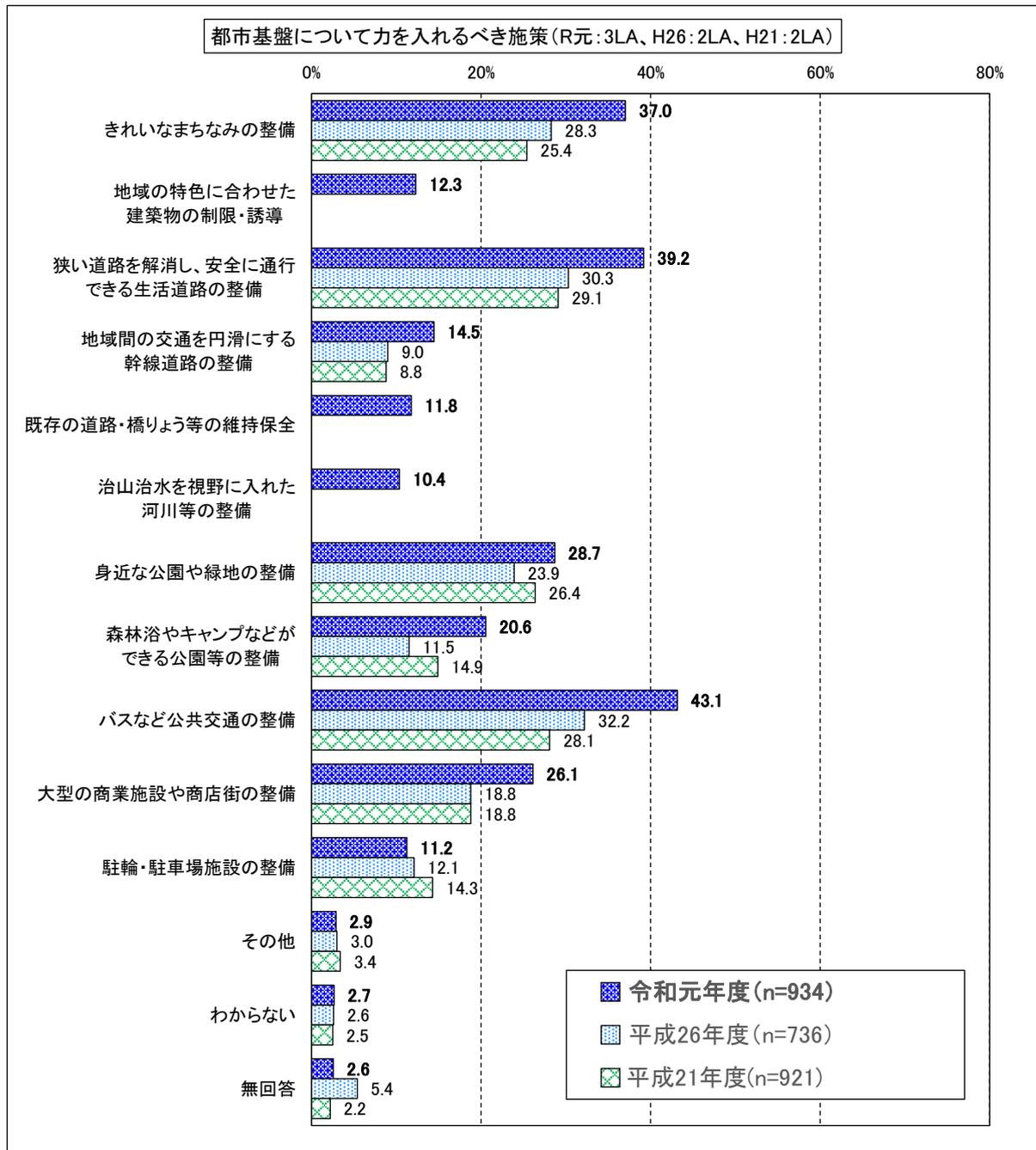
坂浜、押立では「雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進」と「農地の保全や活用など農業の振興」の回答割合がともに高くなっています。

	企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	中小企業への支援など工業の振興	雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興	農地の保全や活用など農業の振興	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	61.8	23.4	35.1	27.6	35.3	2.1	15.4	3.7
矢野口 (n=181)	60.8	22.7	37.0	31.5	27.1	1.7	18.8	6.6
東長沼 (n=145)	67.6	26.2	25.5	26.2	40.7	2.1	17.2	2.8
大丸 (n=90)	66.7	30.0	47.8	28.9	28.9	1.1	14.4	0.0
百村 (n=54)	68.5	25.9	38.9	29.6	33.3	5.6	7.4	5.6
坂浜 (n=28)	42.9	28.6	39.3	14.3	39.3	7.1	17.9	3.6
平尾 (n=119)	58.8	21.8	42.0	25.2	41.2	0.8	13.4	3.4
押立 (n=40)	67.5	22.5	37.5	27.5	37.5	5.0	10.0	10.0
向陽台 (n=88)	67.0	21.6	30.7	30.7	42.0	2.3	14.8	0.0
長峰 (n=51)	52.9	27.5	31.4	27.5	39.2	0.0	15.7	2.0
若葉台 (n=136)	55.1	15.4	29.4	25.7	33.1	2.2	16.2	4.4

(7) 都市基盤について力を入れるべき施策

[全体]

都市基盤について力を入れるべきことについては、「バスなど公共交通の整備」が43.1%と最も高くなっており、次いで、「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」が39.2%、「きれいなまちなみの整備」が37.0%と続いています。



※回答選択肢「バスなど公共交通の整備」は、平成21年度及び平成26年度調査においては「コミュニティバスなど公共交通の整備」と設定されています。

〔比較〕

今回の回答条件（3LA：選択は3項目まで）と、前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の回答条件（2LA：選択は2項目まで）が異なるため一概に比較はできませんが、上位項目については同様の傾向となっています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 市役所前の慢性的渋滞の解消（=尾根幹線の四車線化と鶴川街道の拡幅。（男性 10代）
- ・ 坂浜新駅の新設（女性 20代）
- ・ リムジンバスが運行してはいましたが、少なすぎる。矢野口地区は、調布か稲城駅の利用になるので、中途半端に不便すぎる。矢野口でも停車・乗車できるようにして海外へのアクセス、海外からのアクセスをスムーズにしてほしい（女性 20代）
- ・ 手つかずの緑や農地を残す（女性 20代）
- ・ サイクリングロードの整備（男性 30代）
- ・ 自転車レーンの整備（女性 30代）
- ・ 歩道のデコボコの修復（タイルの歩道でベビーカーのタイヤがとられる）（女性 30代）
- ・ 雨が降ると歩道に水が溜まる若葉台公園周辺（女性 30代）
- ・ 三沢川沿いの道路を整備し、稲城を周遊できる散歩道やサイクリングロードをつくる。（女性 30代）
- ・ 子供服や雑貨を扱う店舗がなく不便を感じます（女性 30代）
- ・ 夜の街灯の暗い道を明るい街灯に変えてほしい。（男性 40代）
- ・ 防犯・治安 設備サービスの整備（男性 40代）
- ・ 美味しい飲食店の充実をお願いしたいです！！（女性 40代）
- ・ 歩行者空間が充実し、歩き+少しの公共交通で、誰もが円滑な移動が可能なバリアフリーの充実した都市基盤（どこへも歩いていける暮らしやすいまちなみ整備）（女性 40代）
- ・ 若葉台に商業施設が多くなり、車が多くて道路を横断できない。信号がないため。一時停止で車が止まらないため。（女性 40代）
- ・ 無駄な税金は使わない方がよい（無回答 40代）
- ・ これ以上の区画整理などの開発はやめてほしい（回答しない 50代）
- ・ だれでも公園等を掃除できるように道具を置いてほしい。（男性 50代）
- ・ 坂浜新駅をぜひ作ってください（男性 50代）
- ・ 市保有空き地の有効活用。空き地の公示（保有理由、保有目的、将来用途、現在状況等の説明）、利用案の公募、市民利用可否、利用方法制定。（男性 50代）
- ・ 現在、使用していない用水路の暗きょ化（蚊の発生やゴミの投捨てなど不衛生である）（女性 50代）
- ・ （生活環境）若葉台地区は田畑も多く自然が残っておりますが春先や秋など近隣の田畑で野焼きをしており風の強い地域のため煙に迷惑している。（女性 50代）
- ・ 森や緑を守る（女性 50代）
- ・ 仕事をしない役人がいる（男性 60代）
- ・ 小売商店の活性化（男性 60代）
- ・ 地域農業・山林をまもる為山間部の道路整備（男性 70代）

〔属性別：性別〕

性別でみると、女性は「バスなど公共交通の整備」への回答割合が最も高くなっていますが、男性は「きれいなまちなみの整備」への回答割合が高くなっています。

それに次いで、女性は「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」への回答割合が、男性は「バスなど公共交通の整備」への回答割合が最も高くなっており、女性は交通の整備を、男性はまちなみの整備を期待する結果となっています。

	きれいなまちなみの整備	地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	既存の道路・橋りょう等の維持保全	治山治水を視野に入れた河川等の整備	身近な公園や緑地の整備	森林浴やキャンプなどができる公園等の整備	バスなど公共交通の整備	大型の商業施設や商店街の整備	駐輪・駐車場施設の整備	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	37.0	12.3	39.2	14.5	11.8	10.4	28.7	20.6	43.1	26.1	11.2	2.9	2.7	2.6
女性 (n=491)	31.8	11.8	41.5	12.8	11.4	9.2	25.1	16.9	47.7	29.1	14.3	2.9	1.8	3.7
男性 (n=423)	43.0	13.0	36.6	16.3	12.5	11.8	33.1	24.6	37.6	22.0	8.0	2.6	3.8	1.4

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、30～49歳を除く各年齢階層において、「バスなど公共交通の整備」への回答割合が最も高くなっています。

また、30～39歳では「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」、40～49歳では「きれいなまちなみの整備」への回答割合が最も高くなっています。

	きれいなまちなみの整備	地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	既存の道路・橋りょう等の維持保全	治山治水を視野に入れた河川等の整備	身近な公園や緑地の整備	森林浴やキャンプなどができる公園等の整備	バスなど公共交通の整備	大型の商業施設や商店街の整備	駐輪・駐車場施設の整備	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	37.0	12.3	39.2	14.5	11.8	10.4	28.7	20.6	43.1	26.1	11.2	2.9	2.7	2.6
16～29歳 (n=108)	33.3	12.0	38.9	15.7	6.5	11.1	25.9	22.2	41.7	31.5	16.7	2.8	0.9	0.0
30～39歳 (n=120)	31.7	9.2	45.8	15.8	8.3	7.5	35.8	27.5	37.5	36.7	10.8	4.2	2.5	0.0
40～49歳 (n=176)	43.2	16.5	42.0	13.6	13.6	6.3	36.4	22.2	42.0	29.5	10.8	4.0	0.6	1.1
50～59歳 (n=172)	40.7	11.6	39.0	12.8	16.3	10.5	23.8	17.4	46.5	26.7	14.0	5.2	1.2	0.6
60～69歳 (n=134)	39.6	14.2	40.3	11.2	10.4	10.4	30.6	20.9	47.8	23.9	7.5	1.5	3.0	3.0
70歳以上 (n=222)	32.0	10.4	33.3	16.7	11.7	14.9	23.0	17.1	41.9	16.2	9.5	0.5	6.3	7.7

〔属性別：居住地域別〕

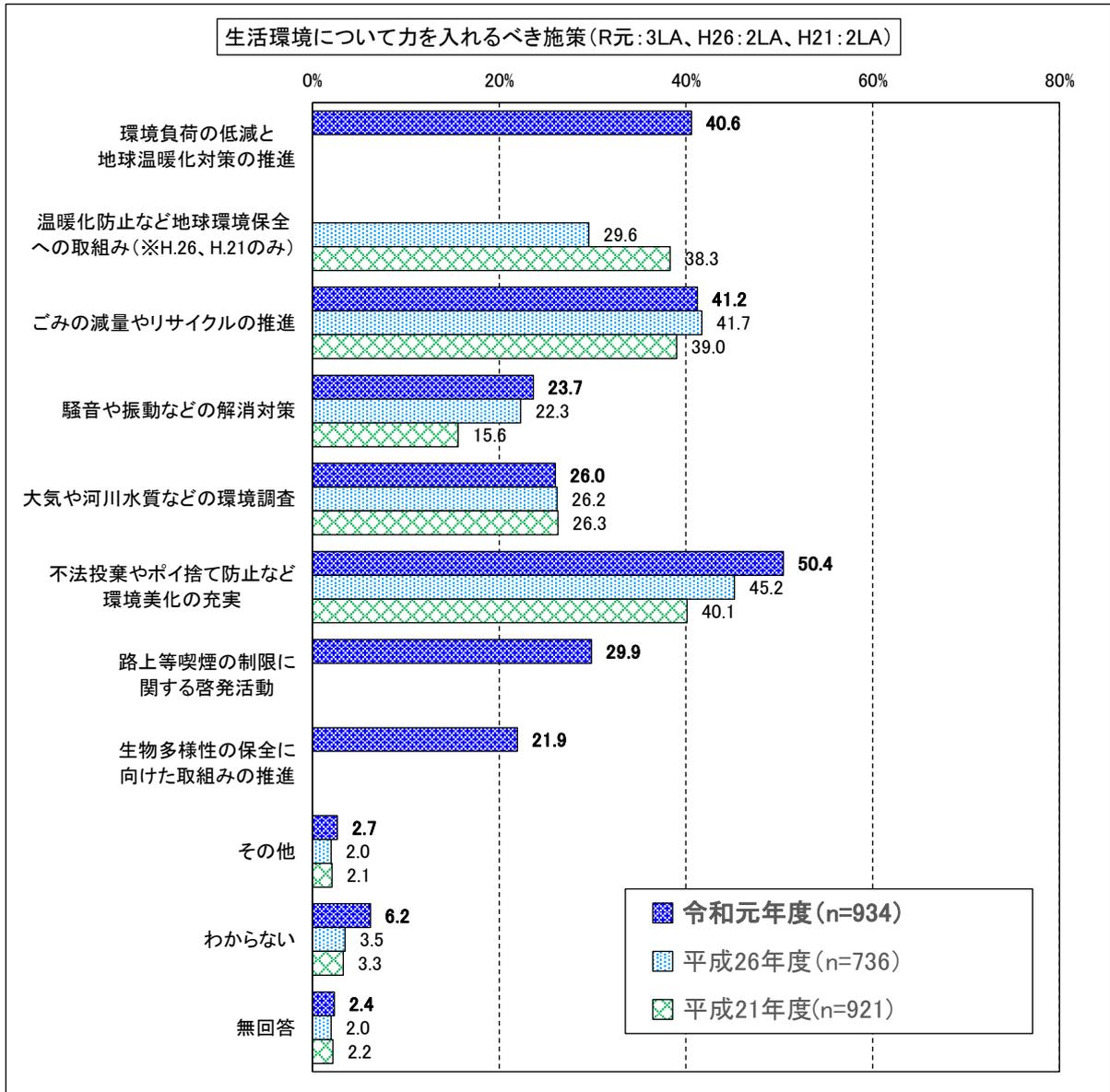
居住地域別でみると、多くの地域で「狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備」と「バスなど公共交通の整備」への回答割合が高くなっていますが、押立では「身近な公園や緑地の整備」への回答割合が、若葉台では「きれいなまちなみの整備」への回答割合が最も高く、大丸と向陽台でも高い結果となっています。

	きれいなまちなみの整備	地域の特徴に合わせた建築物の制限・誘導	狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備	既存の道路・橋りょう等の維持保全	治山治水を視野に入れた河川等の整備	身近な公園や緑地の整備	森林浴やキャンプなどができる公園等の整備	バスなど公共交通の整備	大型の商業施設や商店街の整備	駐輪・駐車場施設の整備	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	37.0	12.3	39.2	14.5	11.8	10.4	28.7	20.6	43.1	26.1	11.2	2.9	2.7	2.6
矢野口 (n=181)	34.8	5.5	50.8	13.3	9.9	11.0	26.0	27.6	35.4	26.0	7.7	3.3	2.2	5.0
東長沼 (n=145)	31.7	10.3	36.6	18.6	9.7	11.0	26.9	18.6	40.7	25.5	17.9	2.8	4.8	1.4
大丸 (n=90)	43.3	6.7	43.3	11.1	7.8	20.0	26.7	21.1	35.6	35.6	13.3	0.0	2.2	0.0
百村 (n=54)	29.6	11.1	38.9	7.4	22.2	9.3	29.6	22.2	35.2	25.9	11.1	5.6	1.9	7.4
坂浜 (n=28)	28.6	7.1	60.7	14.3	17.9	10.7	14.3	21.4	57.1	14.3	21.4	3.6	0.0	0.0
平尾 (n=119)	31.1	10.9	43.7	18.5	10.9	6.7	34.5	19.3	58.0	22.7	14.3	3.4	1.7	1.7
押立 (n=40)	27.5	5.0	32.5	12.5	20.0	20.0	40.0	17.5	30.0	30.0	10.0	0.0	5.0	7.5
向陽台 (n=88)	48.9	18.2	30.7	10.2	8.0	3.4	34.1	15.9	48.9	31.8	10.2	3.4	6.8	0.0
長峰 (n=51)	29.4	31.4	19.6	9.8	21.6	7.8	19.6	23.5	62.7	25.5	5.9	3.9	0.0	2.0
若葉台 (n=136)	49.3	20.6	30.1	17.6	11.0	8.1	30.1	16.2	41.2	22.1	5.9	2.9	0.7	2.2

(8) 生活環境について力を入れるべき施策

〔全体〕

生活環境について力を入れるべきことについては、「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」が50.4%と最も高く、次いで、「ごみの減量やリサイクルの推進」が41.2%、「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」が40.6%と続いています。



※回答選択肢「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」は、平成21年度及び平成26年度調査において設定された「温暖化防止など地球環境保全への取組み」と類似した選択肢ですが、新たな選択肢として設定しています。

〔比較〕

今回の回答条件(3LA:選択は3項目まで)と、前回(平成26年度)及び前々回(平成21年度)の回答条件(2LA:選択は2項目まで)が異なるため一概に比較はできませんが、上位項目については同様の傾向となっています。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 米軍基地の騒音(男性 10代)
- ・ 交通の便の充実(女性 10代)
- ・ 空き家を減らす(女性 20代)
- ・ 不法駐車対策(男性 30代)
- ・ 子供や高齢者が安全な歩道の確保。(男性 30代)
- ・ 野焼きの禁止。坂浜地区での野焼きの煙が長峰地区まできて非常に迷惑である。市役所に問い合わせても「具体的な住所がわからないと対応できない」といった対応で、改善させるつもりがない。(男性 30代)
- ・ プラスチックごみの回収を始めてほしい(女性 30代)
- ・ プラスチックは燃やして電気にした方がよい。一定の喫煙所は必要(男性 40代)
- ・ 粗大ゴミを持ち込みできる施設があるとよい(女性 40代)
- ・ ランド通り、三中通りの騒音対策(女性 40代)
- ・ ごみの収集、回収の回数を増やす、大型ゴミの回収(無回答 40代)
- ・ 喫煙所の整備。(男性 50代)
- ・ 学校や企業が地域の清掃活動に参加してほしい。(男性 50代)
- ・ リサイクル品や不燃品などを土、日に持ち込める施設をつくって欲しい。他地域では常設されている(男性 50代)
- ・ 調布飛行場からの離発着における騒音対策。例として東京都へ稲城市上空通過への迷惑料の請求及び対策費への充当。
被害者支援制度の申請方法詳細確認。これら諸問題における稲城市での取組みの推進。・路上喫煙禁止化にて、喫煙禁止場所の拡張及び明確化、罰則規定。さらにタバコ投げ捨て、ゴミ不法投棄、ペット糞尿、野良／鳥獣エサ配給、を不法投棄、軽犯罪、不法進入、都市公園条例として罰則規定及び徹底公示。さらにこれらの犯罪行為告発による褒章制度制定。(男性 50代)
- ・ 野焼き等の生活環境に関する啓発活動(女性 50代)
- ・ 住宅地としての動き易さ(女性 50代)
- ・ 実情を無視している(男性 60代)
- ・ ペット飼育のマナー向上対策の推進(男性 70代)
- ・ 緑を残してほしい(男性 70代)
- ・ 夜間、バイクの騒音(男性 70代)
- ・ 貸農園、営利事業ならそれなりに、回りに迷惑少なく環境整備必要(女性 70代)
- ・ 高齢の為移動はタクシーのみ市の交通網で(女性 80代)

〔属性別：性別〕

性別で見ると、男女ともに「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、女性では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」への回答割合が、男性では「ごみの減量やリサイクルの推進」への回答割合が高くなっています。

なお、「ごみの減量やリサイクルの推進」では、男性よりも女性の方が高い回答割合となっています。

また、「路上喫煙の制限に関する啓発活動」及び「生物多様性の保全に向けた取組みの推進」では女性に比べ男性の回答割合が高い結果となっています。

	環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	ごみの減量やリサイクルの推進	騒音や振動などの解消対策	大気や河川水質などの環境調査	不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	路上喫煙の制限に関する啓発活動	生物多様性の保全に向けた取組みの推進	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	40.6	41.2	23.7	26.0	50.4	29.9	21.9	2.7	6.2	2.4
女性 (n=491)	44.6	42.8	23.2	24.0	47.7	27.7	19.8	2.0	6.1	3.3
男性 (n=423)	36.4	40.2	24.1	27.9	54.4	32.4	24.3	3.3	6.1	1.4

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、50～59歳で「ごみの減量やリサイクルの推進」への回答割合が高くなって一方、それ以外のすべての年齢階層で「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」への回答割合が最も高くなっています。

また、30～39歳と60歳以上では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」、16～29歳では「路上喫煙の制限に関する啓発活動」への回答割合が高くなっています。

	環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	ごみの減量やリサイクルの推進	騒音や振動などの解消対策	大気や河川水質などの環境調査	不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	路上喫煙の制限に関する啓発活動	生物多様性の保全に向けた取り組みの推進	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	40.6	41.2	23.7	26.0	50.4	29.9	21.9	2.7	6.2	2.4
16～29歳 (n=108)	30.6	30.6	31.5	26.9	44.4	35.2	26.9	4.6	7.4	0.0
30～39歳 (n=120)	37.5	28.3	27.5	26.7	44.2	34.2	34.2	2.5	5.8	0.0
40～49歳 (n=176)	35.8	42.6	26.7	23.9	50.6	36.4	25.0	2.8	4.5	1.1
50～59歳 (n=172)	46.5	52.9	22.1	29.1	51.2	20.9	23.3	3.5	4.1	1.2
60～69歳 (n=134)	44.8	42.5	21.6	28.4	56.0	34.3	15.7	0.7	6.0	3.0
70歳以上 (n=222)	43.7	42.3	17.6	23.4	52.3	24.3	13.5	2.3	9.0	6.3

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、坂浜と長峰を除き「不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実」への回答割合が最も高くなっています。

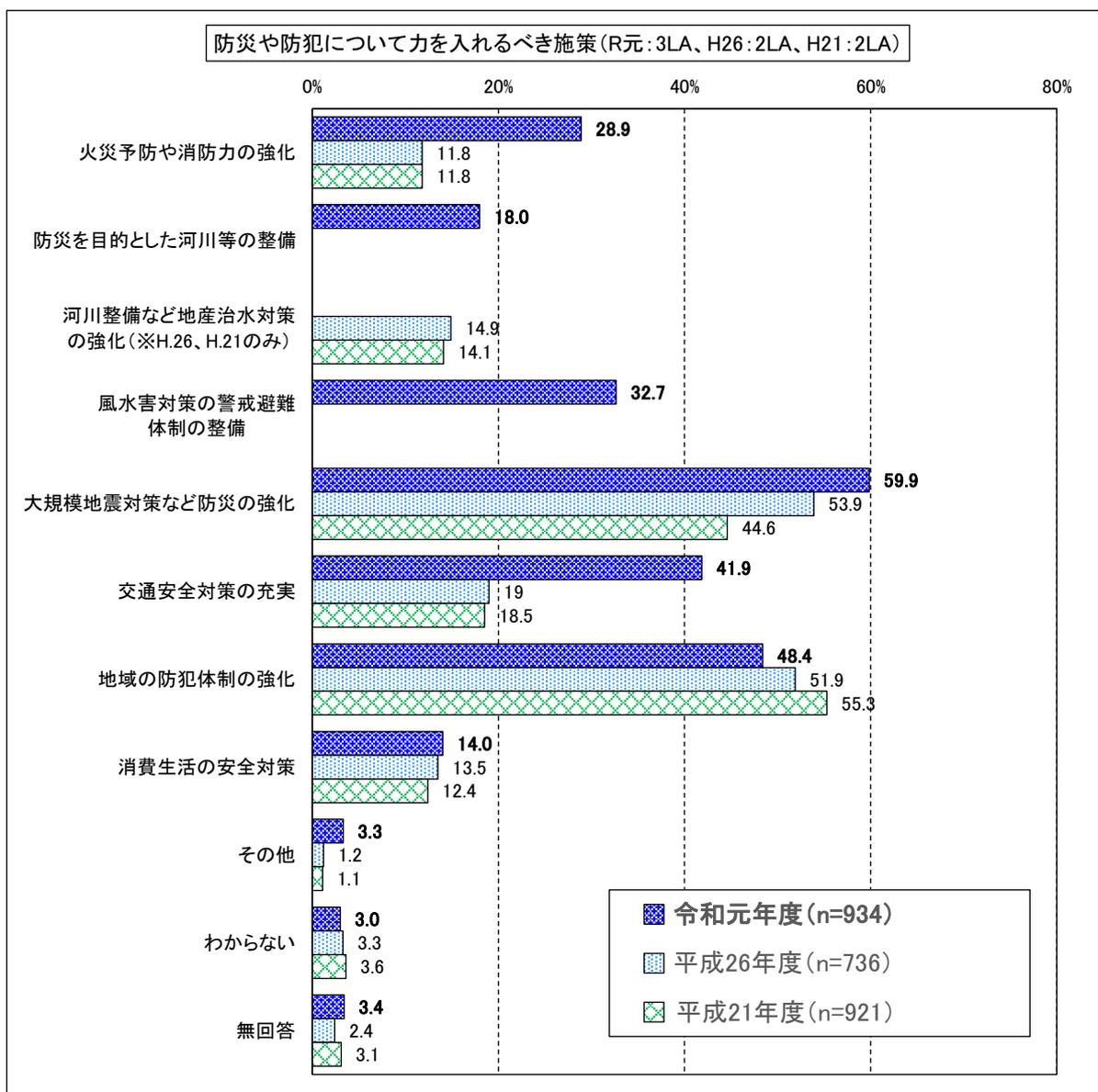
坂浜では「ごみの減量やリサイクルの推進」への回答割合が、長峰では「環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進」への回答割合が最も高くなっています。

	環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	ごみの減量やリサイクルの推進	騒音や振動などの解消対策	大気や河川水質などの環境調査	不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	路上等喫煙の制限に関する啓発活動	生物多様性の保全に向けた取り組みの推進	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	40.6	41.2	23.7	26.0	50.4	29.9	21.9	2.7	6.2	2.4
矢野口 (n=181)	35.9	40.3	26.5	32.0	52.5	28.2	21.0	2.2	7.2	5.0
東長沼 (n=145)	39.3	37.2	27.6	26.9	53.1	32.4	17.9	2.1	9.0	0.0
大丸 (n=90)	35.6	42.2	25.6	28.9	53.3	32.2	17.8	0.0	8.9	0.0
百村 (n=54)	37.0	29.6	24.1	16.7	55.6	33.3	14.8	7.4	5.6	3.7
坂浜 (n=28)	32.1	50.0	21.4	28.6	39.3	25.0	32.1	3.6	7.1	3.6
平尾 (n=119)	42.0	41.2	20.2	26.1	46.2	32.8	21.0	2.5	6.7	2.5
押立 (n=40)	40.0	42.5	17.5	20.0	52.5	30.0	25.0	2.5	2.5	7.5
向陽台 (n=88)	46.6	47.7	18.2	28.4	50.0	28.4	25.0	1.1	6.8	0.0
長峰 (n=51)	51.0	45.1	19.6	25.5	43.1	29.4	27.5	2.0	5.9	2.0
若葉台 (n=136)	46.3	43.4	24.3	19.1	48.5	25.7	27.2	4.4	0.7	2.2

(9) 防災や防犯について力を入れるべき施策

〔全体〕

防災や防犯について力を入れるべきことについては、「大規模地震対策など防災の強化」が59.9%と最も高く、次いで、「地域の防犯体制の強化」が48.4%、「交通安全対策の充実」が41.9%と続いています。



〔比較〕

今回の回答条件 (3LA: 選択は3項目まで) と、前回 (平成26年度) 及び前々回 (平成21年度) の回答条件 (2LA: 選択は2項目まで) が異なるため一概に比較はできませんが、上位項目については同様の傾向となっています。

ただし、今回新たに設定された選択肢については、「風水害対策の警戒避難体制の整備」が32.7%、「防災を目的とした河川等の整備」が18.0%となっており、水害対策への関心も一定数あることがうかがえます。

〔その他欄自由記載内容〕

- ・ 駅前に交番がないので不便(女性 10代)
- ・ 未成年のバイク音や、自転車の駐輪場でのスケボがうるさい。見回りをして欲しい。(男性 30代)
- ・ 警察署の設置(男性 30代)
- ・ 防災無線が反響して全く聞きとれない(男性 30代)
- ・ 消防業務を東京消防庁に移管すべき。大規模災害時だけでなく常時の救急体制が特に不安である。(男性 30代)
- ・ 避難所の整備や備蓄の充実(女性 30代)
- ・ 防災ではなく、災害時の実際に行うべきことの事前教唆(男性 40代)
- ・ 山に住宅を建て過ぎない(男性 40代)
- ・ 防犯カメラの設置、活用(男性 40代)
- ・ 高齢ドライバーの免許返納推進の取り組み(女性 40代)
- ・ 地域の子供達を取り巻く環境の見守り・相談体制・防犯体制・災害時の一時避難の場の充実(女性 40代)
- ・ 単独消防体制の見直し(女性 40代)
- ・ 現状のレベルで良い(無回答 40代)
- ・ 自転車の走行ルール(歩道上の危険な運転)(男性 50代)
- ・ 学校に災害時の物資を置くべき(男性 50代)
- ・ 交番の数、増やしてほしい(男性 50代)
- ・ 高齢者の方へ、コミュニケーションする機会を増やす、市内で孤独死をなくす。(男性 50代)
- ・ 区画整理後の地権者道路の交通規制。路面標識認可にて横断歩道、制限速度、一方通行の表記及び道路交通法適用。事故被害者に対する過失割合低下対策及び未然防止。地権外者が加害者になる抑止力とする。また区画整理地における国交省への早期届出で GPS カーナビ地図データ更新、地権者道路の不要な外来者往来(迷子)を減らす。悪質運転防止については、各幹線道路におけるオービス設置にて危険運転致死傷罪への摘発推進。(男性 50代)
- ・ 町を明るくしてほしい、電燈が少なく暗い(女性 50代)
- ・ 防災無線、放送の対策、全く聞きとれません(女性 50代)
- ・ 交番が設置されていない駅の防犯対策(女性 50代)
- ・ 市役所職員は市内に住んで、積極的に地域の防災や防犯活動に参加すべき。他の一般住民に任せきりにしないでほしい。(女性 50代)
- ・ 市民防災意識の高揚(女性 60代)
- ・ どれも(女性 60代)
- ・ ダメ(男性 60代)
- ・ 盗難防止対策(設置カメラの充実等)(男性 70代)
- ・ 読売カントリークラブ近辺の安全対策(女性 70代)
- ・ 防災アナウンスが全く聞き取れない。何か言っているが声が拡散していて内容がわからない。(女性 70代)
- ・ テスト的に防災アナウンスがあってもザワザワ音が多く、話している声が雑音混じり。鮮明に聞きたい。(女性 70代)
- ・ 若い力を気持ち良く希望します、戦前の方が町民はしっかりしていた(女性 80代)

〔属性別：性別〕

性別で見ると、男女ともに「大規模地震対策など防災の強化」への回答割合が最も高く、次いで「地域の防犯体制の強化」への回答割合が高くなっています。

	火災予防や消防力の強化	防災を目的とした河川等の整備	風水害対策の警戒避難体制の整備	大規模地震対策など防災の強化	交通安全対策の充実	地域の防犯体制の強化	消費生活の安全対策	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	28.9	18.0	32.7	59.9	41.9	48.4	14.0	3.3	3.0	3.4
女性 (n=491)	21.0	20.0	33.2	61.9	39.5	49.9	13.4	3.3	3.3	3.7
男性 (n=423)	38.1	15.4	31.7	57.2	44.7	47.3	15.1	3.3	2.8	3.3

〔属性別：年齢別〕

年齢別で見ると、すべての年齢階層で「大規模地震対策など防災の強化」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、50歳未満では「交通安全対策の充実」への回答割合が、50歳以上では「地域の防犯体制の強化」への回答割合が高くなっています。

また、50歳以上は50歳未満と比較して「風水害対策の警戒避難体制の整備」への回答割合が高い結果となっています。

	火災予防や消防力の強化	防災を目的とした河川等の整備	風水害対策の警戒避難体制の整備	大規模地震対策など防災の強化	交通安全対策の充実	地域の防犯体制の強化	消費生活の安全対策	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	28.9	18.0	32.7	59.9	41.9	48.4	14.0	3.3	3.0	3.4
16～29歳 (n=108)	24.1	23.1	30.6	63.0	46.3	40.7	13.9	1.9	2.8	1.9
30～39歳 (n=120)	23.3	17.5	25.0	65.0	57.5	48.3	15.0	3.3	2.5	0.0
40～49歳 (n=176)	26.1	17.6	25.0	60.2	52.8	48.3	12.5	4.5	1.7	2.3
50～59歳 (n=172)	26.2	16.3	33.7	59.3	36.6	55.2	16.3	5.2	3.5	0.0
60～69歳 (n=134)	28.4	20.1	44.0	61.2	29.9	49.3	11.2	3.0	4.5	4.5
70歳以上 (n=222)	38.3	16.2	36.0	55.0	34.2	46.8	14.9	1.8	3.2	9.0

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、坂浜を除き「大規模地震対策など防災の強化」への回答割合が最も高くなっており、坂浜は「交通安全対策の充実」への回答割合が最も高くなっています。押立では「地域の防犯体制の強化」への回答割合も同率となっています。

また、矢野口、東長沼、大丸、押立では、他の地域と比較して「風水害対策の警戒避難体制の整備」への回答割合が比較的高い結果となっています。

	火災予防や消防力の強化	防災を目的とした河川等の整備	風水害対策の警戒避難体制の整備	大規模地震対策など防災の強化	交通安全対策の充実	地域の防犯体制の強化	消費生活の安全対策	その他	わからない	無回答
全体 (n=934)	28.9	18.0	32.7	59.9	41.9	48.4	14.0	3.3	3.0	3.4
矢野口 (n=181)	28.2	23.2	34.8	53.0	47.5	43.6	16.6	4.4	2.8	4.4
東長沼 (n=145)	26.2	29.0	42.8	57.2	36.6	44.8	17.2	2.8	2.8	2.1
大丸 (n=90)	30.0	21.1	33.3	58.9	33.3	51.1	17.8	0.0	3.3	4.4
百村 (n=54)	31.5	14.8	24.1	63.0	38.9	57.4	9.3	1.9	0.0	7.4
坂浜 (n=28)	32.1	21.4	14.3	57.1	64.3	39.3	10.7	7.1	0.0	3.6
平尾 (n=119)	21.8	11.8	29.4	66.4	40.3	51.3	14.3	2.5	5.9	2.5
押立 (n=40)	22.5	35.0	45.0	52.5	35.0	52.5	7.5	5.0	2.5	7.5
向陽台 (n=88)	30.7	10.2	28.4	70.5	47.7	54.5	9.1	2.3	5.7	1.1
長峰 (n=51)	45.1	0.0	25.5	68.6	29.4	47.1	7.8	2.0	3.9	3.9
若葉台 (n=136)	30.9	10.3	29.4	58.1	46.3	48.5	14.7	5.1	0.7	2.2

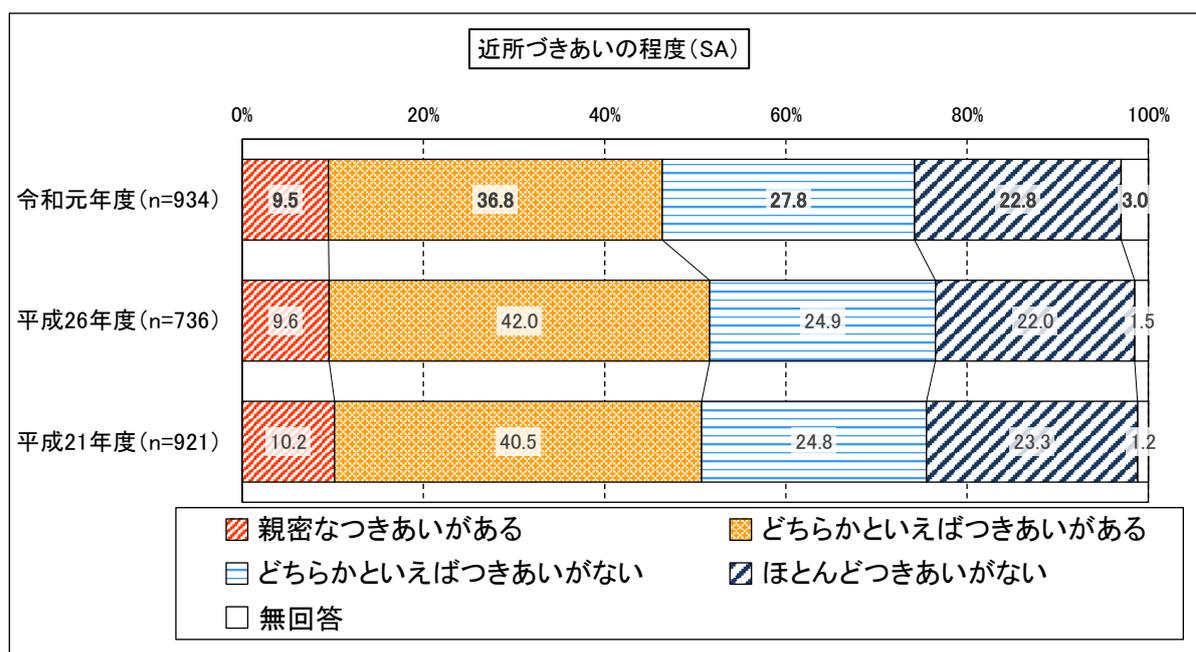
(10) 近所づきあいの程度

〔全体〕

近所づきあいの程度については、「どちらかといえばつきあいがある」が36.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえばつきあいが無い」が27.8%、「ほとんどつきあいが無い」が22.8%となっています。

「親密なつきあいがある」と「どちらかといえばつきあいがある」を合わせた“つきあいがある”は46.3%と半数弱となっています。

一方、「どちらかといえばつきあいが無い」と「ほとんどつきあいが無い」を合わせた“つきあいが無い”は50.6%と約5割となっています。



〔比較〕

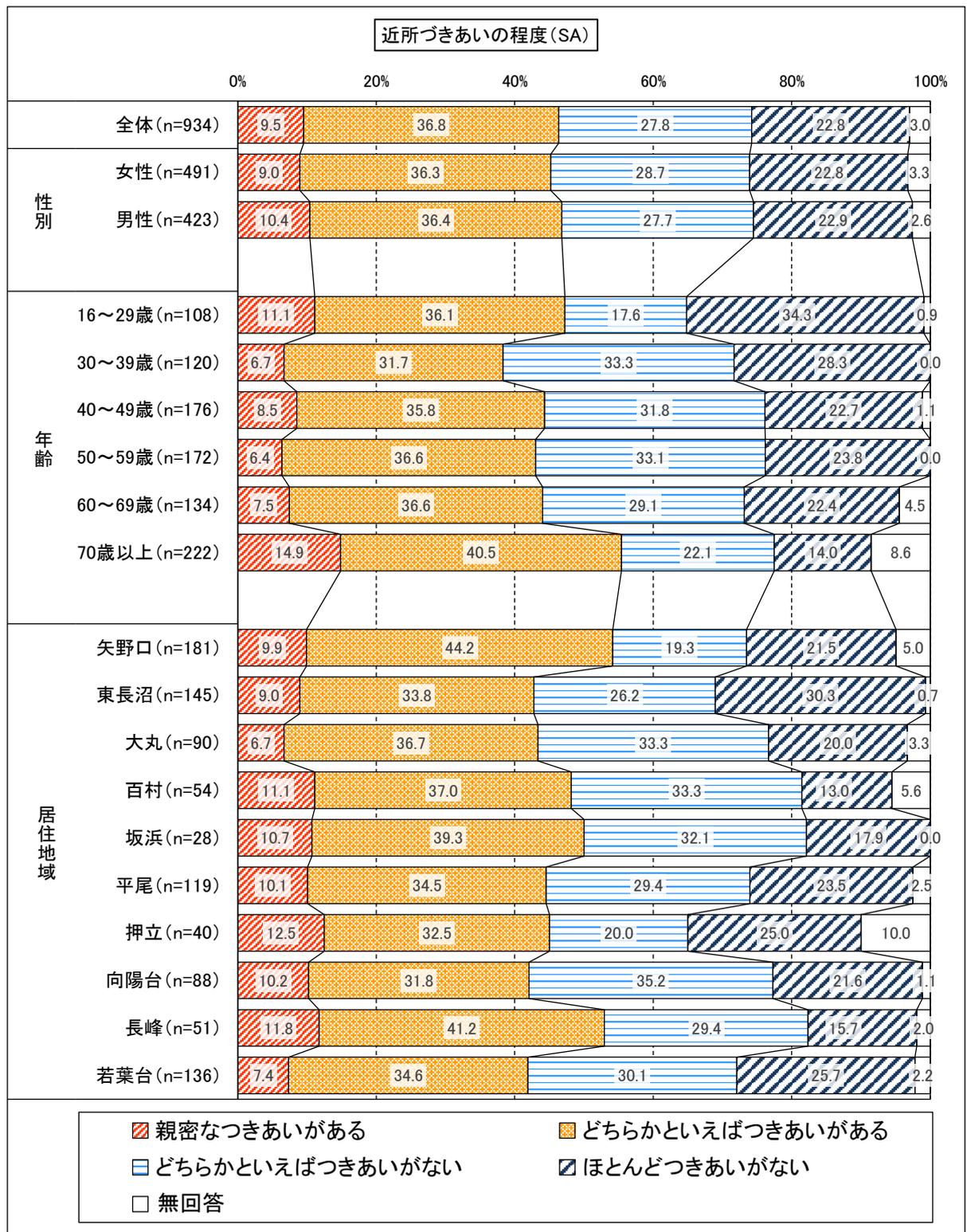
前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、“つきあいがある”が減少傾向、“つきあいが無い”が増加傾向にあります。

〔属性別〕

性別で見ると、男女ともに「どちらかといえばつきあいがある」への回答割合が最も高くなっています。

年齢別で見ると、70歳以上の“つきあいがある”への回答割合が他の年齢階層に比べ高く、30～39歳の“つきあいが無い”への回答割合が最も高くなっています。

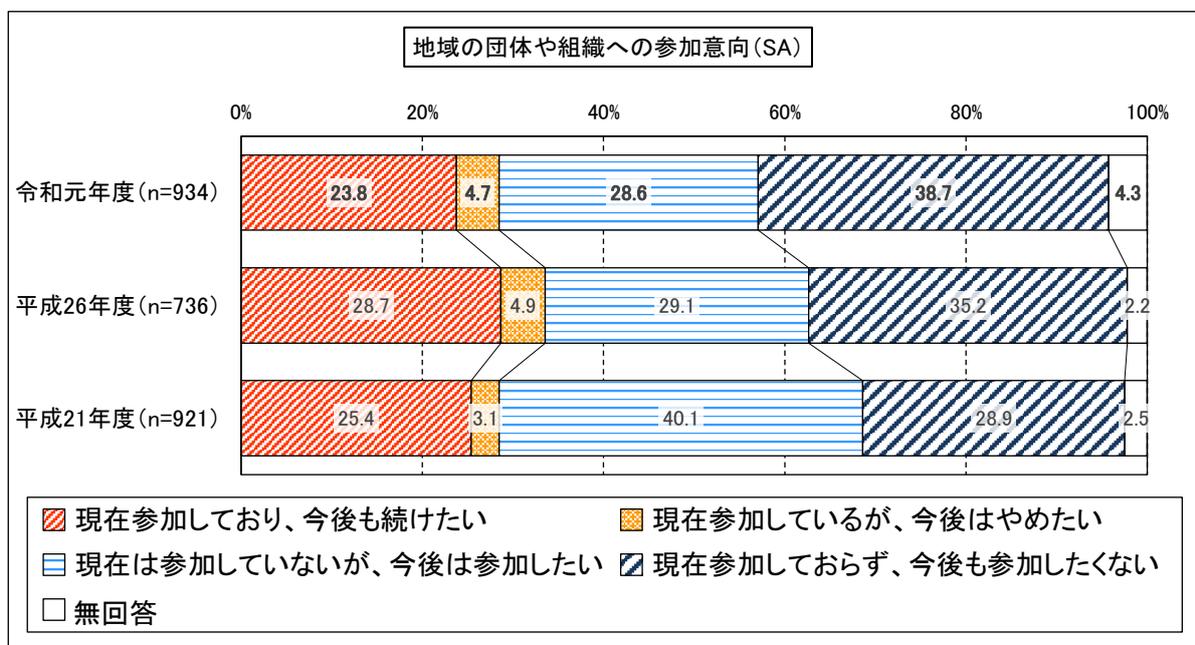
居住地域別で見ると、矢野口と長峰で“つきあいがある”への回答割合が比較的高くなっている一方、東長沼、大丸、向陽台、若葉台での“つきあいが無い”への回答割合が比較的高くなっています。



(11) 地域の団体や組織への参加意向

〔全体〕

地域や組織への参加意向については、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」が38.7%と最も高くなっており、次いで、「現在参加していないが、今後は参加したい」が28.6%、「現在参加しており、今後も続けたい」が23.8%と続いています。



〔比較〕

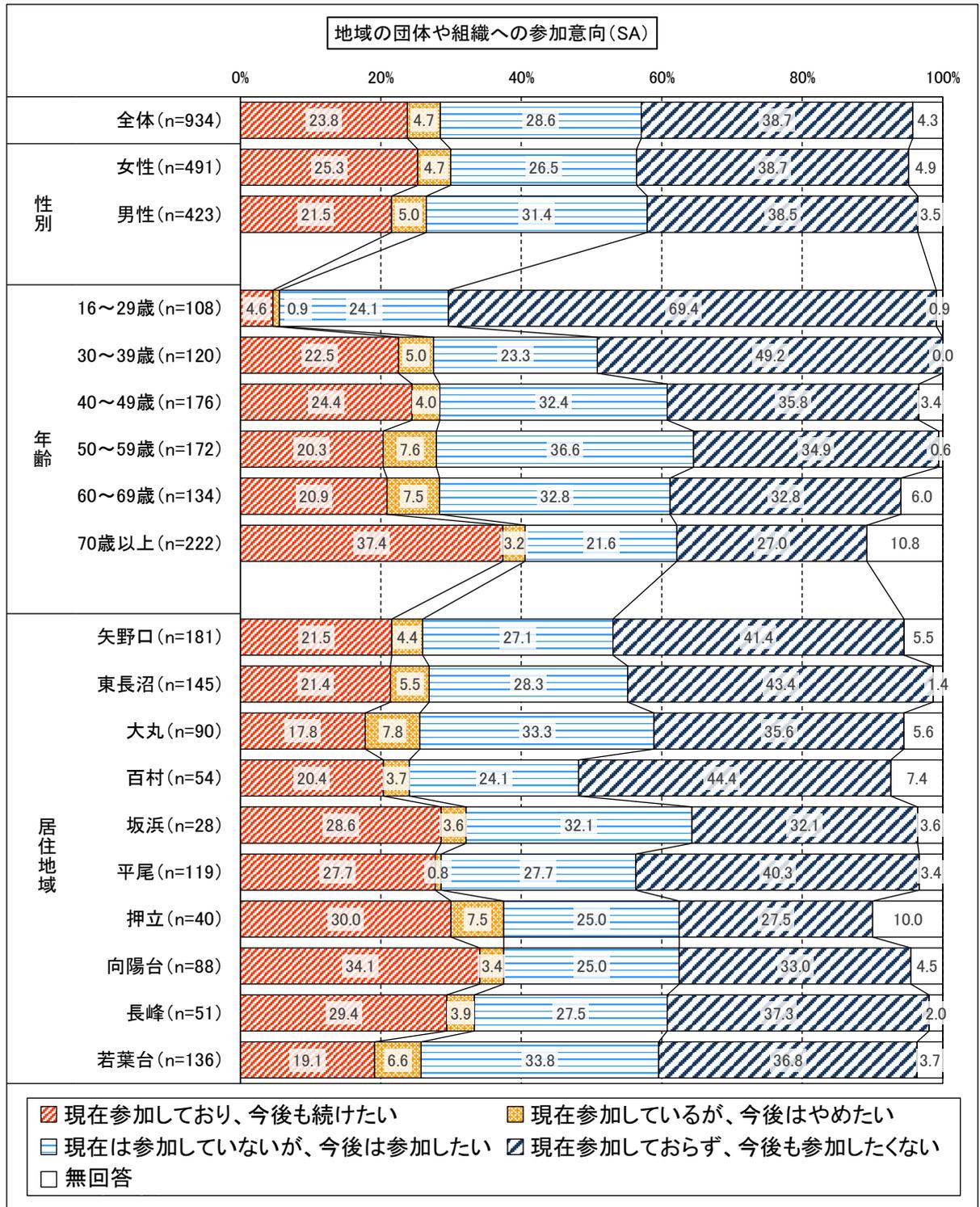
前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、「現在参加しておらず、今後も参加したくない」が増加傾向にあります。

〔属性別〕

性別で見ると、男女ともに「現在参加しておらず、今後も参加したくない」への回答割合が最も高くなっています。

年齢別で見ると、「現在参加しており、今後も続けたい」は、70歳以上で37.4%、4割弱と回答割合が最も高くなっていますが、他の年齢階層では2割を多少超える程度にとどまっており、特に16～29歳では5%に満たない回答割合となっています。

居住地域別で見ると、坂浜、平尾、押立、向陽台、長峰の5地域は「現在参加しており、今後も続けたい」への回答割合が3割前後となっていますが、その他の地域は、2割前後またはそれ以下の回答割合にとどまっています。

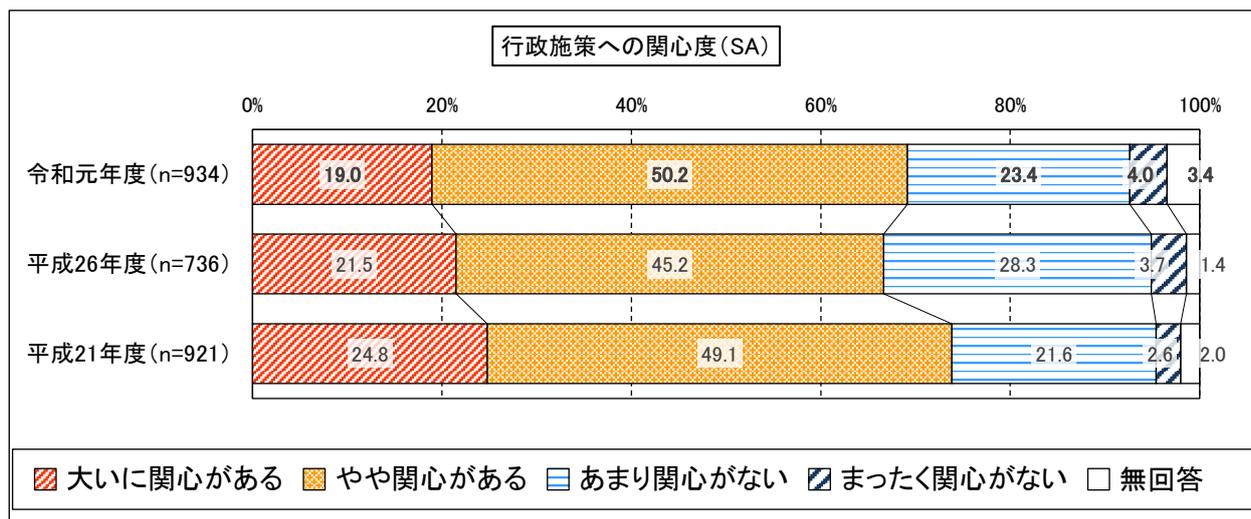


(12) 行政施策への関心度

〔全体〕

行政施策への関心度については、「やや関心がある」が50.2%と最も高く、次いで、「あまり関心がない」が23.4%、「大いに関心がある」が19.0%と続いています。

「大いに関心がある」と「やや関心がある」を合わせた“関心がある”は69.2%と回答者の約7割となっています。



〔比較〕

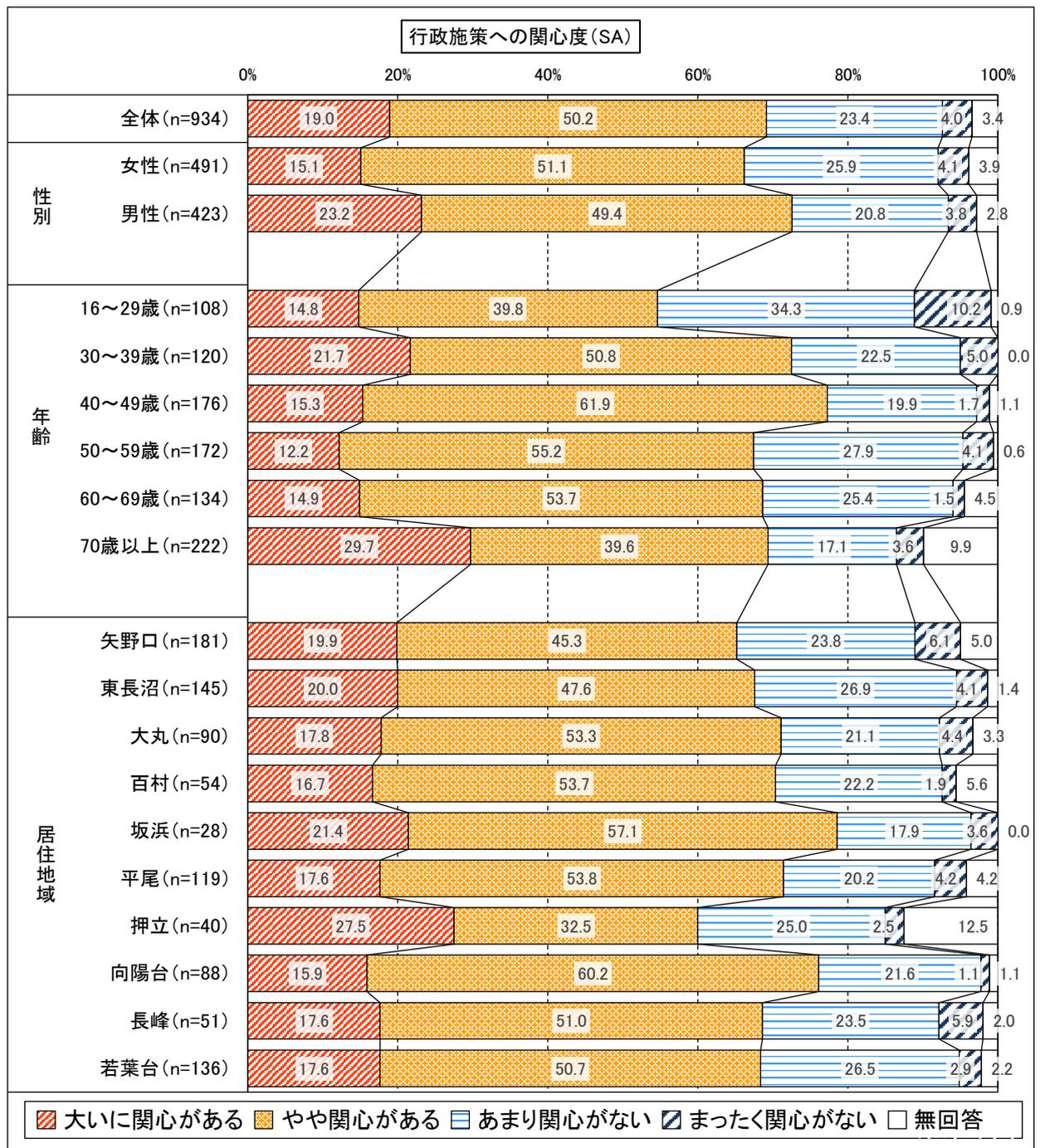
前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、「大いに関心がある」が減少傾向にあります。

〔属性別〕

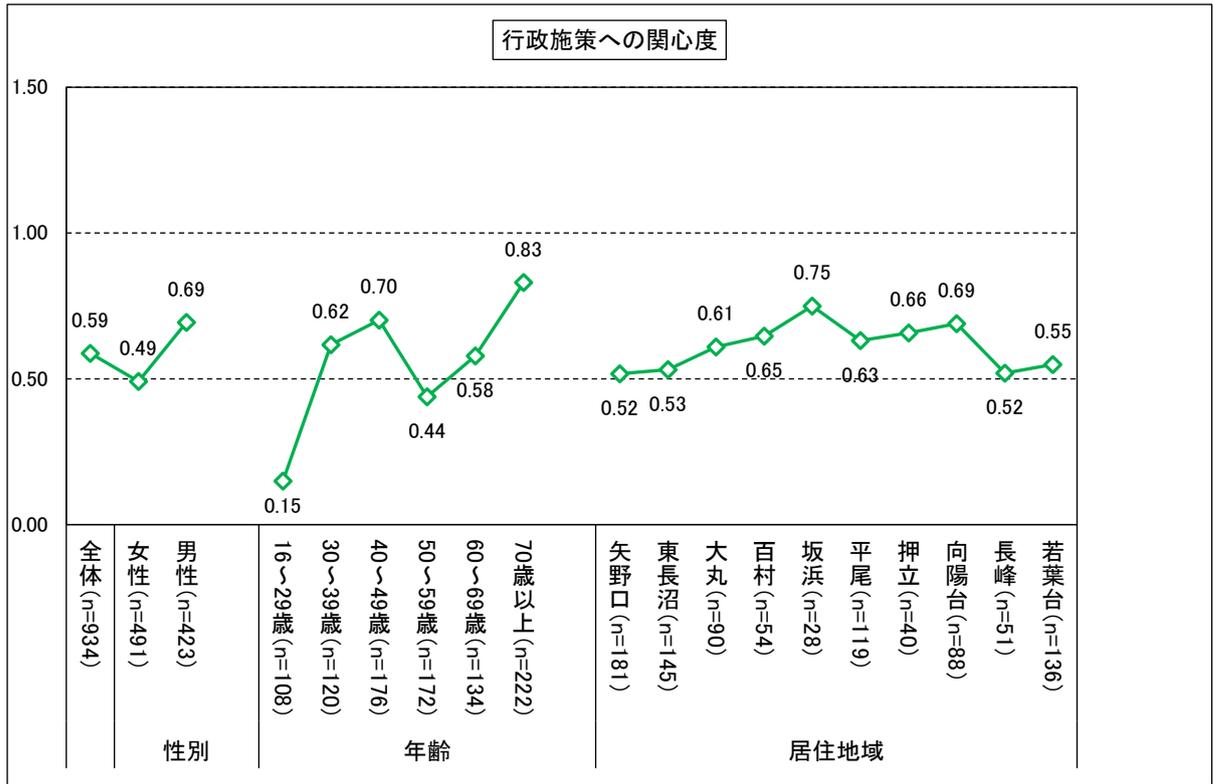
性別で見ると、男女ともに「やや関心がある」への回答割合が最も高くなっており、「大いに関心がある」と「やや関心がある」を合わせた“関心がある”は7割前後となっています。

年齢別で見ると、すべての年齢階層において「やや関心がある」への回答割合が最も高くなっていますが、「大いに関心がある」では30～39歳と70歳以上に比べ他の年齢階層は比較的低い回答結果となっています。なお、加重平均値では16～29歳が最も低い結果となっています。

居住地域別で見ると、押立で「大いに関心がある」の回答割合が他の地域に比べ高く、「大いに関心がある」と「やや関心がある」を合わせた“関心がある”は、坂浜と向陽台で他の地域に比べ比較的高い回答割合となっています。



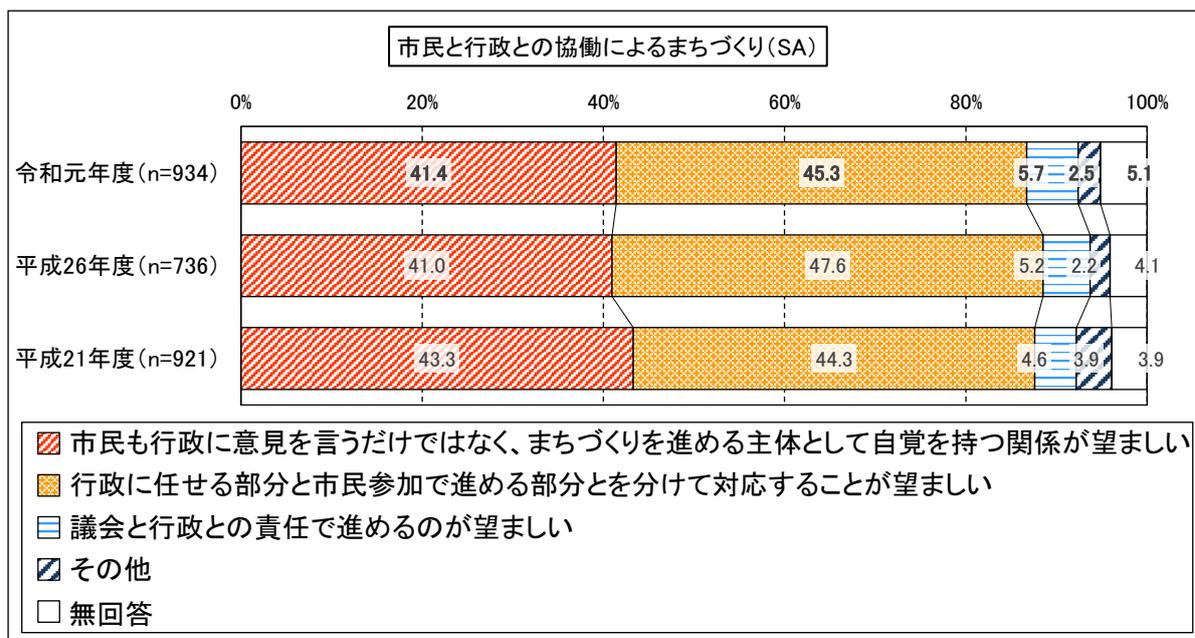
[属性別加重平均値]



(13) 市民と行政との協働によるまちづくり

〔全体〕

市民と行政との協働によるまちづくりについては、「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」が45.3%と最も高く、次いで、「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」が41.4%、「議会と行政の責任で進めることが望ましい」が5.7%と続いています。



〔比較〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、回答傾向に大きな違いは見られません。

〔その他欄自由記載内容〕

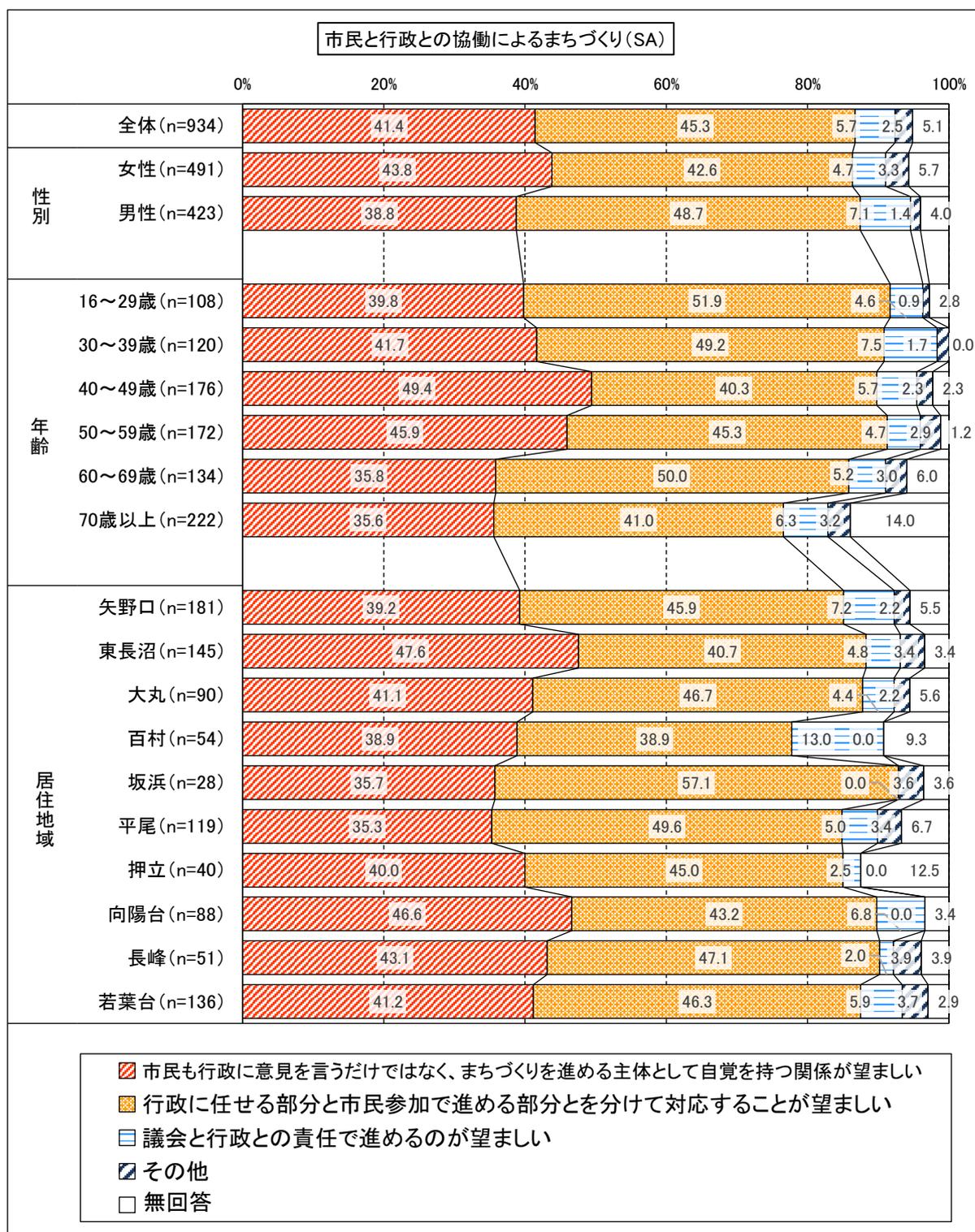
- ・ 市民主体で行政が補助するのが理想(男性 40代)
- ・ 以前、いろいろ相談したが、あまり聞いてもらえなかったので期待できない(女性 40代)
- ・ 責任の線引きと予算が明確になっていれば良い(無回答 40代)
- ・ 市民にお願いばかりするのは避けてほしい。要望のあった件は公開希望してなくてもきちんと調べてほしい。(女性 50代)
- ・ 個人の意見を反映させるのは難しいと思う(女性 70代)

〔属性別〕

性別でみると、女性は「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」と「行政に任せる部分と市民参加で進める部分を分けて対応することが望ましい」への回答割合がほぼ同じとなっていますが、男性は女性に比べ「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」への回答割合が低い結果となっています。

年齢別でみると、40～49歳と50～59歳で「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」への回答割合が他の年齢階層に比べ比較的高くなっています。

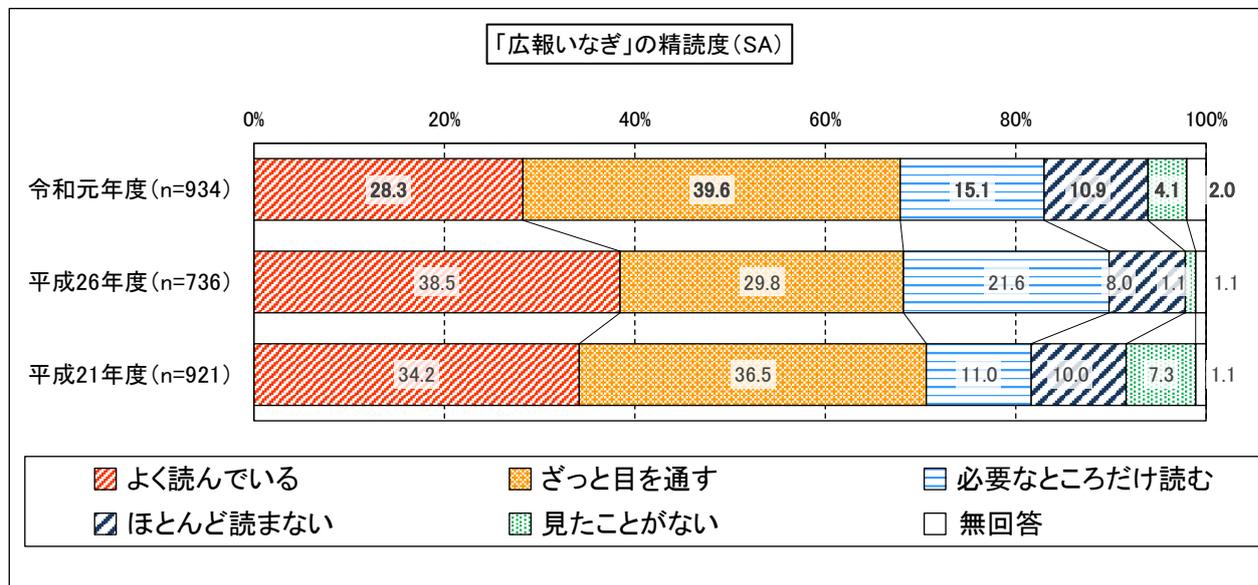
居住地域別でみると、東長沼と向陽台で「市民も行政に意見を言うだけでなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい」への回答割合が、他の地域に比べ比較的高くなっています。



(14)「広報いなぎ」の精読度

〔全体〕

広報いなぎの精読度については、「ざっと目を通す」が39.6%と最も高く、次いで、「よく読んでいる」が28.3%、「必要などころだけ読む」が15.1%と続いています。



〔比較〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、「よく読んでいる」が減少傾向となっています。

〔属性別〕

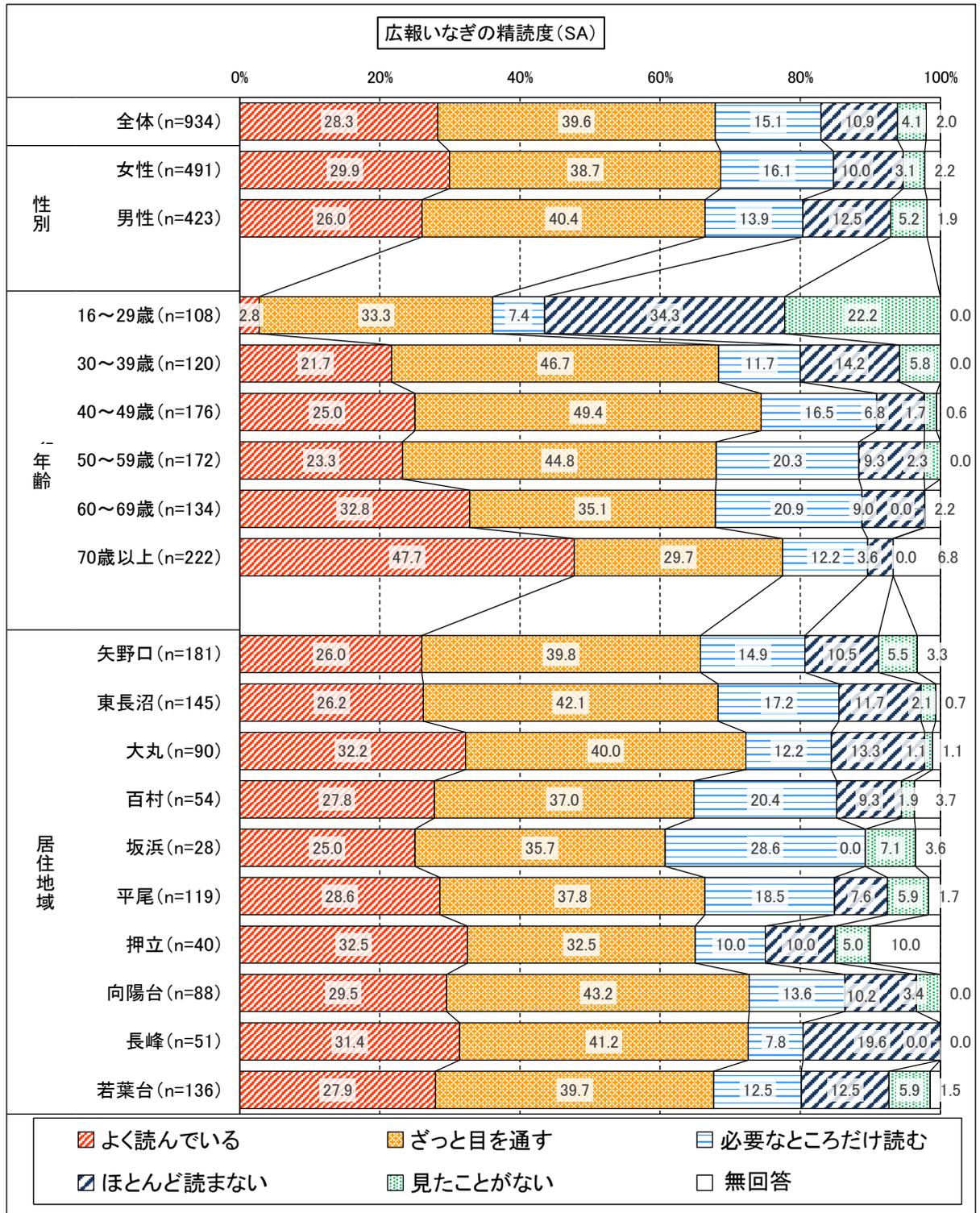
性別でみると、男女ともに「ざっと目を通す」への回答割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、「よく読んでいる」はおおむね年齢階層が上がるほど増加傾向となり、70歳以上では5割弱（47.7%）となっています。

一方、16～29歳では「よく読んでいる」は2.8%にとどまり、「ざっと目を通す」への回答割合も三分の一と他の年齢階層に比べ低くなっています。

居住地域別でみると、各地域ともに「よく読んでいる」への回答割合は3割前後となっており、東長沼、大丸、向陽台、長峰では「ざっと目を通す」への回答割合が4割を超えています。

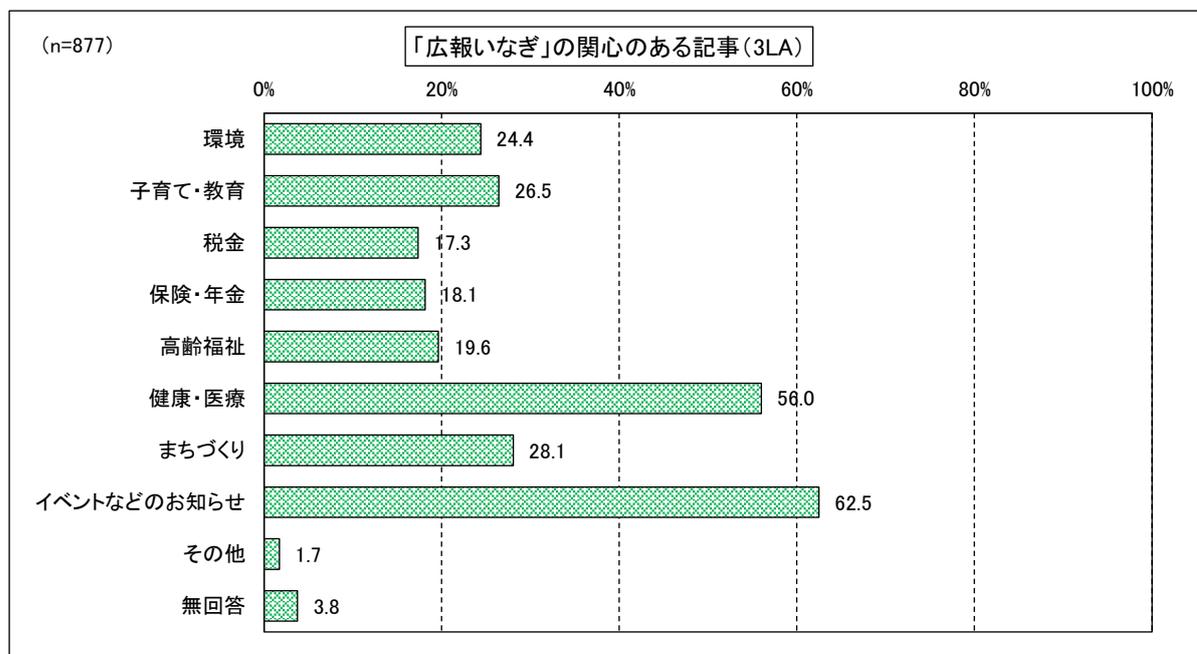
一方、「必要などころだけ読む」は百村、坂浜で2割を超えています。



(14) -1 「広報いなぎ」の関心のある記事

〔全体〕

「広報いなぎ」の関心のある記事については、「イベントなどのお知らせ」が62.5%と最も高く、次いで、「健康・医療」が56.0%、「まちづくり」が28.1%、「子育て・教育」が26.5%、「環境」が24.4%と続いています。



〔属性別：性別〕

性別でみると、男女ともに「イベントなどのお知らせ」への回答割合がもっとも高く、次いで、「健康・医療」が高くなっています。

また、女性の「子育て・教育」への回答割合は、男性よりも10ポイント強高くなっている一方、男性の「環境」「まちづくり」への回答割合は、女性よりも10ポイント以上高くなっています。

	環境	子育て・教育	税金	保険・年金	高齢福祉	健康・医療	まちづくり	イベントなどのお知らせ	その他	無回答
全体 (n=934)	24.4	26.5	17.3	18.1	19.6	56.0	28.1	62.5	1.7	3.8
女性 (n=491)	19.1	31.8	14.4	17.4	20.0	61.5	21.5	66.5	2.2	3.0
男性 (n=423)	30.3	20.9	20.1	17.8	18.3	49.9	35.9	58.5	1.3	4.6

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、60歳未満では「イベントなどのお知らせ」への回答割合が最も高くなっており、60歳以上では「健康・医療」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、40歳未満では「子育て・教育」への回答割合が高く、40歳～59歳では「健康・医療」への回答割合が高くなっています。

また、40～49歳においても、「イベントなどのお知らせ」、「健康・医療」に次いで「子育て・教育」への回答割合が高くなっており、子育て世代の関心の高さがうかがえる結果となっています。

	環境	子育て・教育	税金	保険・年金	高齢福祉	健康・医療	まちづくり	イベントなどのお知らせ	その他	無回答
全体 (n=934)	24.4	26.5	17.3	18.1	19.6	56.0	28.1	62.5	1.7	3.8
16～29歳 (n=108)	26.2	33.3	11.9	2.4	4.8	20.2	33.3	53.6	2.4	9.5
30～39歳 (n=120)	19.5	66.4	14.2	6.2	1.8	38.1	31.0	71.7	0.0	3.5
40～49歳 (n=176)	22.1	53.5	19.2	9.9	5.8	56.4	27.3	70.3	1.7	1.2
50～59歳 (n=172)	25.6	14.3	21.4	17.3	11.9	61.9	31.5	67.3	3.6	4.2
60～69歳 (n=134)	27.5	7.6	20.6	35.1	23.7	70.2	25.2	50.4	2.3	1.5
70歳以上 (n=222)	25.6	1.4	14.5	27.5	50.7	66.2	23.2	58.0	0.5	4.8

〔属性別：居住地域別〕

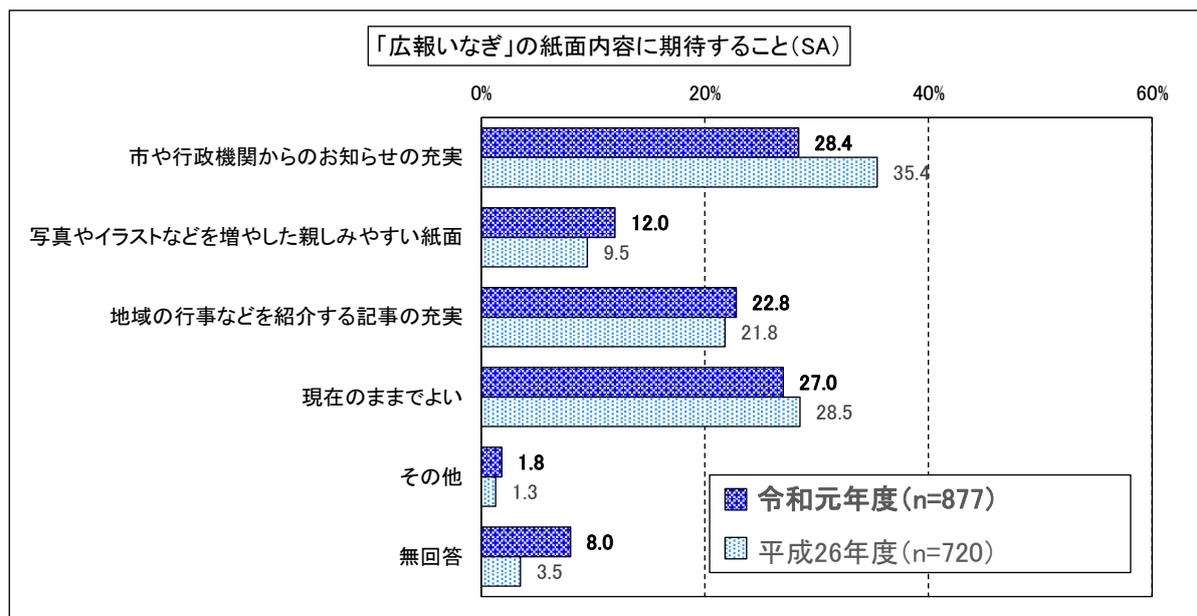
居住地域別でみると、すべての地域で「イベントなどのお知らせ」への回答割合が最も高く、次いで、「健康・医療」への回答割合が高くなっています。

	環境	子育て・教育	税金	保険・年金	高齢福祉	健康・医療	まちづくり	イベントなどのお知らせ	その他	無回答
全体 (n=934)	24.4	26.5	17.3	18.1	19.6	56.0	28.1	62.5	1.7	3.8
矢野口 (n=181)	23.0	25.5	17.6	17.0	14.5	57.6	26.7	62.4	1.8	4.8
東長沼 (n=145)	22.7	27.7	17.0	19.1	17.0	53.2	25.5	63.1	2.1	2.1
大丸 (n=90)	17.0	23.9	19.3	30.7	18.2	62.5	21.6	62.5	1.1	4.5
百村 (n=54)	17.6	21.6	27.5	11.8	21.6	56.9	39.2	64.7	2.0	3.9
坂浜 (n=28)	36.0	44.0	20.0	16.0	20.0	48.0	24.0	60.0	8.0	4.0
平尾 (n=119)	30.0	32.7	19.1	20.0	24.5	50.0	27.3	59.1	2.7	0.9
押立 (n=40)	26.5	35.3	32.4	14.7	23.5	41.2	32.4	61.8	0.0	0.0
向陽台 (n=88)	28.2	28.2	8.2	8.2	29.4	60.0	30.6	63.5	0.0	5.9
長峰 (n=51)	17.6	23.5	15.7	15.7	21.6	54.9	23.5	60.8	0.0	9.8
若葉台 (n=136)	28.6	19.0	12.7	19.0	16.7	61.1	32.5	64.3	1.6	3.2

(14) -2 「広報いなぎ」の紙面に期待すること

〔全体〕

「広報いなぎ」の紙面に期待することについては、「市や行政機関からのお知らせの充実」が28.4%と最も高く、次いで、「現在のままでよい」が27.0%、「地域の行事などを紹介する記事の充実」が22.8%、「写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面」が12.0%と続いています。



〔比較〕

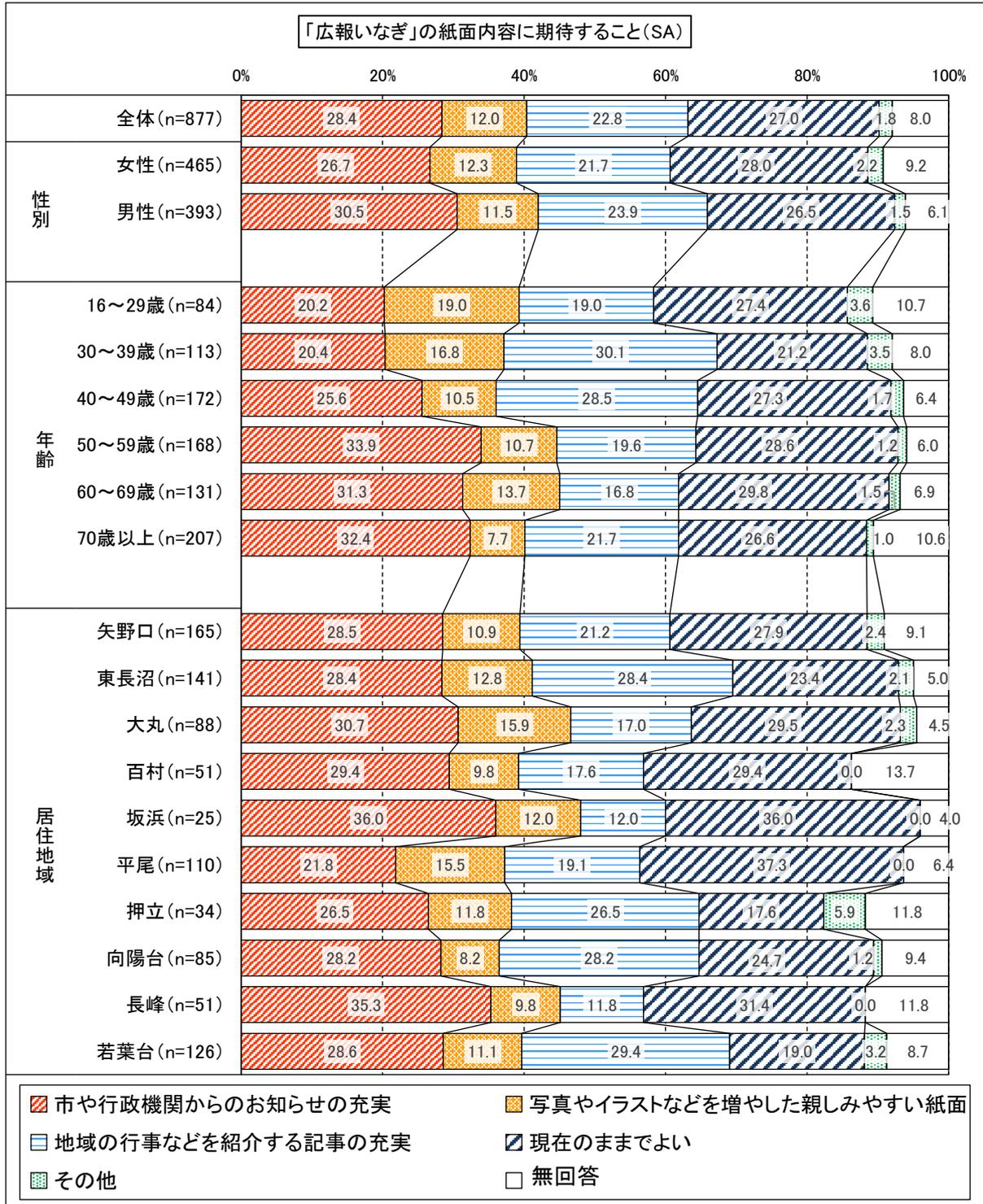
前回（平成26年度）と比較すると、回答割合に多少の違いはあるものの、同様の傾向となっています。

〔属性別〕

性別で見ると、男女ともに「市や行政機関からのお知らせの充実」への回答割合が最も高くなっています。また、「現在のままでよい」は男性の方が女性よりもわずかに高くなっています。

年齢別で見ると、「市や行政機関からのお知らせの充実」は年齢階層が上がるにつれおおむね回答割合が増加する傾向にあり、「写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面」では、年齢階層が上がるにつれおおむね回答割合が減少する傾向にあります。

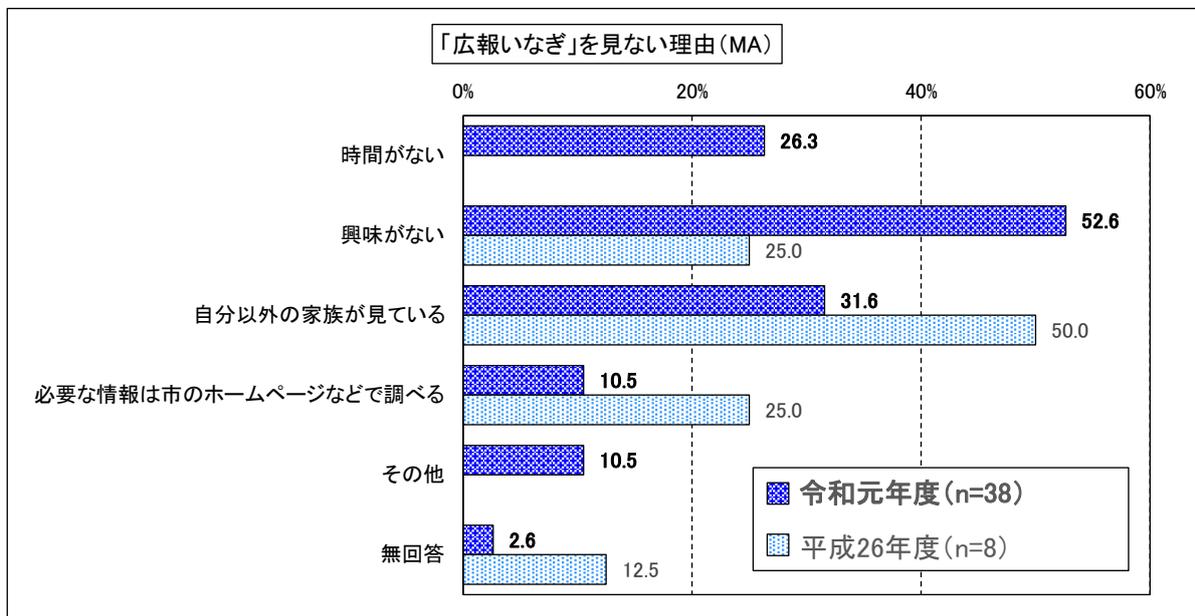
居住地域別で見ると、矢野口、大丸、百村、坂浜、平尾、長峰の6地域で「市や行政機関からのお知らせの充実」への回答割合が最も高くなっており、東長沼、押立、向陽台の3地域で「市や行政機関からのお知らせの充実」と「現在のままでよい」の回答割合が同じ結果となっています。なお、若葉台では「現在のままでよい」への回答割合が、「市や行政機関からのお知らせの充実」への回答割合よりもわずかに高くなっています。



(14) -3 「広報いなぎ」を見ない理由

〔全体〕

「広報いなぎ」を見ない理由については、「興味がない」が52.6%と最も高く、次いで、「自分以外の家族が見ている」が31.6%、「時間がない」が26.3%と続いています。



〔比較（参考）〕

※平成 26 年度実施結果では回答者数が 8 名と少なく、データとして信頼度が低いため比較対象とはならないことから、参考としてみる必要があります。

〔属性別：性別〕

※女性の回答者数が 15 名と少なく、データとして信頼度が低いため、参考としてみる必要があります。

	時間がない	興味がない	自分以外の家族が見ている	必要な情報は市のホームページなどで調べる	その他	無回答
全体 (n=38)	26.3	52.6	31.6	10.5	10.5	2.6
女性 (n=15)	26.7	33.3	33.3	6.7	13.3	6.7
男性 (n=22)	27.3	63.6	31.8	9.1	4.5	0.0

〔属性別：年齢別〕

※16～29歳以外の回答者数が少なく、データとして信頼度が低いため、参考としてみる必要があります。

	時間がない	興味がない	自分以外の家族が見ている	必要な情報は市のホームページなどで調べる	その他	無回答
全体 (n=38)	26.3	52.6	31.6	10.5	10.5	2.6
16～29歳 (n=24)	29.2	50.0	33.3	8.3	12.5	0.0
30～39歳 (n=7)	28.6	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0
40～49歳 (n=3)	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0
50～59歳 (n=4)	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0
60～69歳 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※16～29歳を除き属性別の回答者基数が少ないため、網掛はしていません。

〔属性別：居住地域別〕

※各地域ともに回答者数が少なく、データとして信頼度が低いため、参考としてみる必要があります。

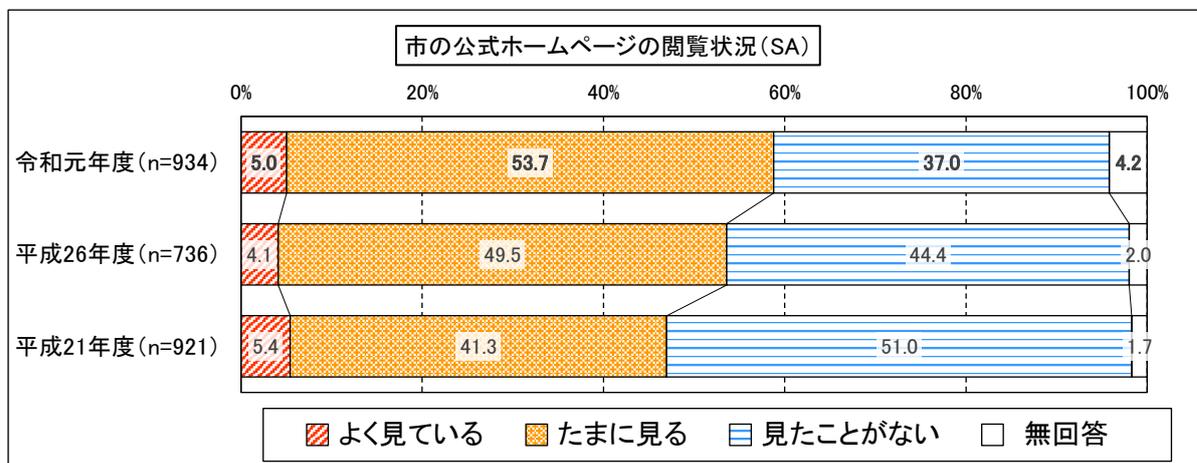
	時間がない	興味がない	自分以外の家族が見ている	必要な情報は市のホームページなどで調べる	その他	無回答
全体 (n=38)	26.3	52.6	31.6	10.5	10.5	2.6
矢野口 (n=10)	40.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
東長沼 (n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
大丸 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
百村 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
坂浜 (n=2)	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0
平尾 (n=7)	14.3	71.4	14.3	28.6	28.6	0.0
押立 (n=2)	50.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
向陽台 (n=3)	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
長峰 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
若葉台 (n=8)	25.0	50.0	25.0	12.5	0.0	0.0

※矢野口を除き属性別の回答者基数が少ないため、網掛はしていません。

(15) 市の公式ホームページの閲覧状況

〔全体〕

市の公式ホームページの閲覧状況については、「たまに見る」が53.7%と最も高く、次いで、「見たことがない」が37.0%、「よく見ている」が5.0%と続いています。



〔比較〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、「よく見ている」の回答割合に大きな変化はありませんが、「たまに見る」への回答割合が増加し、「見たことがない」が減少しています。

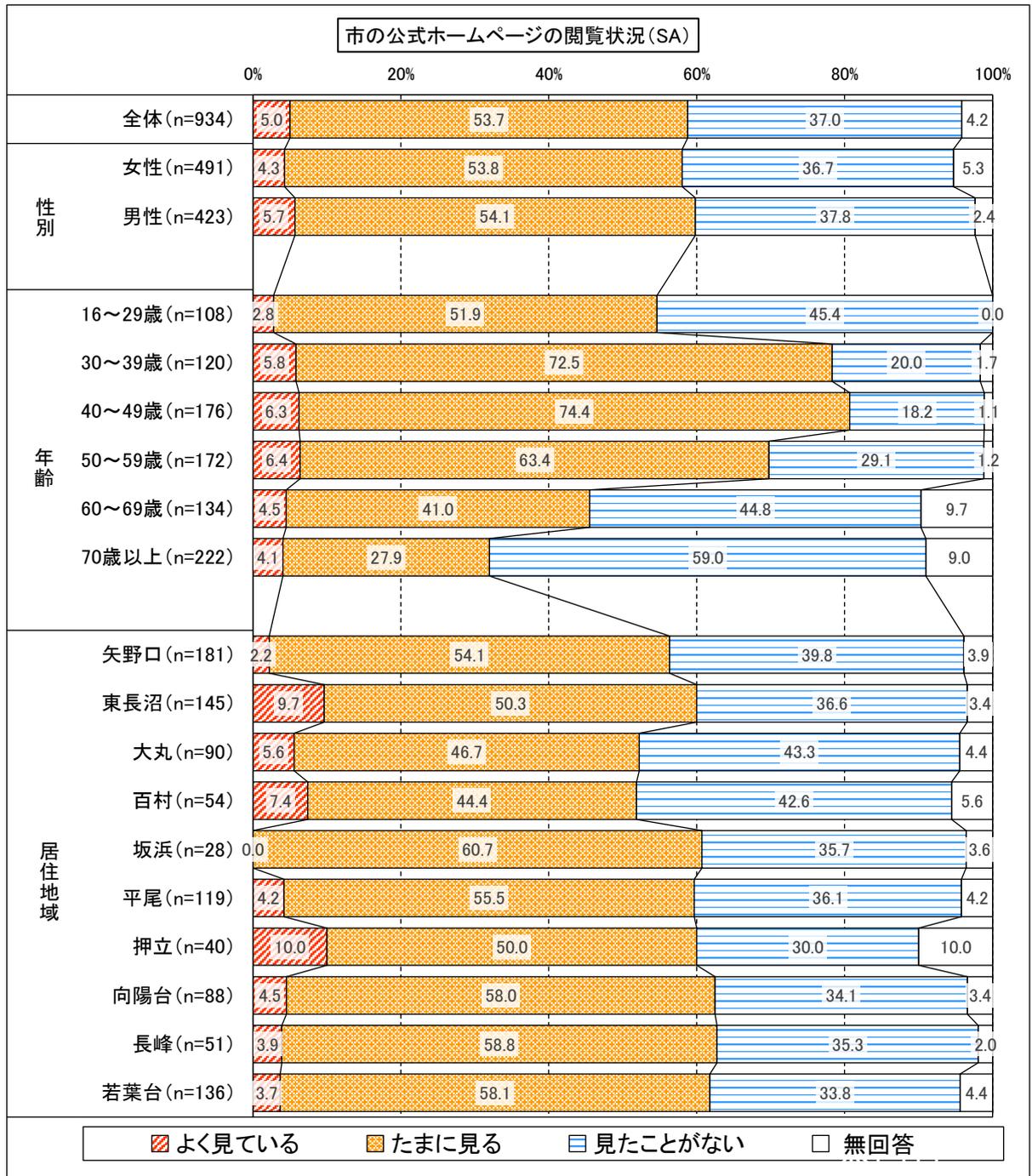
〔属性別〕

性別で見ると、男女ともに「たまに見る」への回答割合がもっとも高くなっています。

年齢別で見ると60歳未満で「たまに見る」への回答割合が最も高くなっていますが、60～69歳では約4割、70歳以上では3割弱となっています。

一方、「見たことがない」は、16～29歳と60～69歳で4割台半ば、70歳以上では約6割となっていますが、60歳以上ではインターネットそのものの利用が少ないことが想定されます。

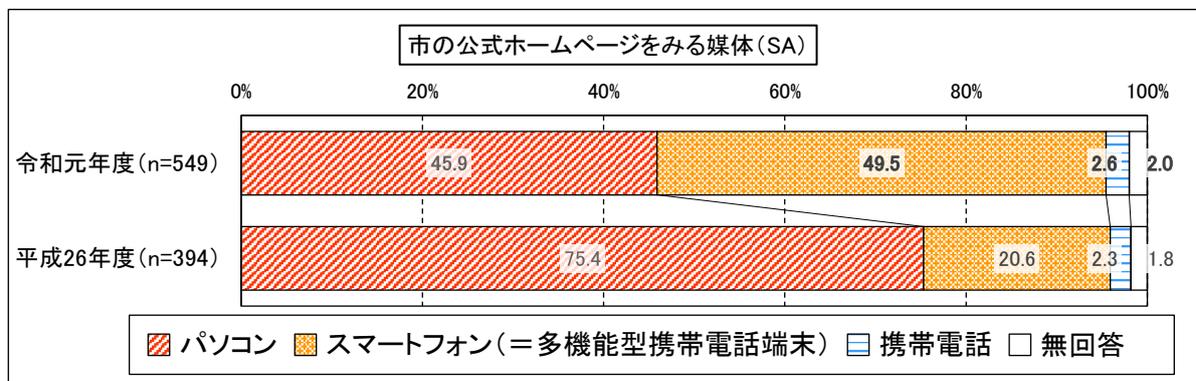
居住地域別で見ると、大丸と百村で「見たことがない」への回答割合が4割を超える結果となっています。



(15) -1 市の公式ホームページをみる媒体

〔全体〕

市の公式ホームページをみる媒体については、「パソコン」が45.9%、「スマートフォン（＝多機能型携帯電話端末）」が49.5%となっています。



〔比較〕

前回（平成26年度）と比較すると、「スマートフォン（＝多機能型携帯電話端末）」の増加が顕著になっています。

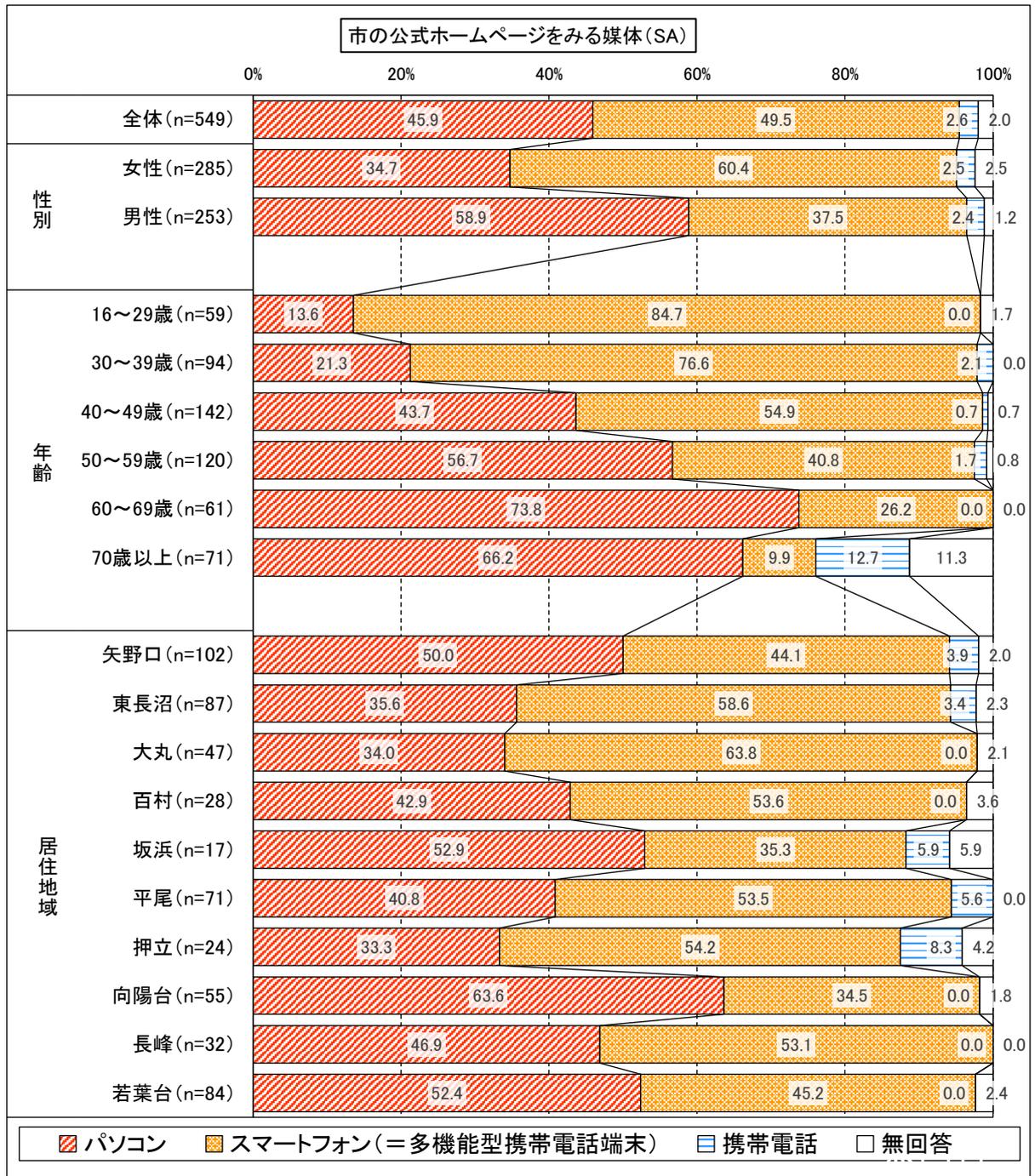
〔属性別〕

性別で見ると、女性では「スマートフォン（＝多機能型携帯電話端末）」への回答割合が最も高くなっており、男性では「パソコン」への回答割合が最も高くなっています。

年齢別で見ると、年齢階層が上がるにつれ、おおむね「パソコン」への回答割合が高くなる結果となっており、逆に年齢階層が下がるにつれ「スマートフォン（＝多機能型携帯電話端末）」への回答割合が高くなる結果となっています。

居住地域別で見ると、東長沼、大丸、百村、平尾、押立、長峰の6地域で、「スマートフォン（＝多機能型携帯電話端末）」への回答割合が最も高くなっています。

一方、矢野口、坂浜、向陽台、若葉台の4地域では、「パソコン」への回答割合が最も高くなっています。

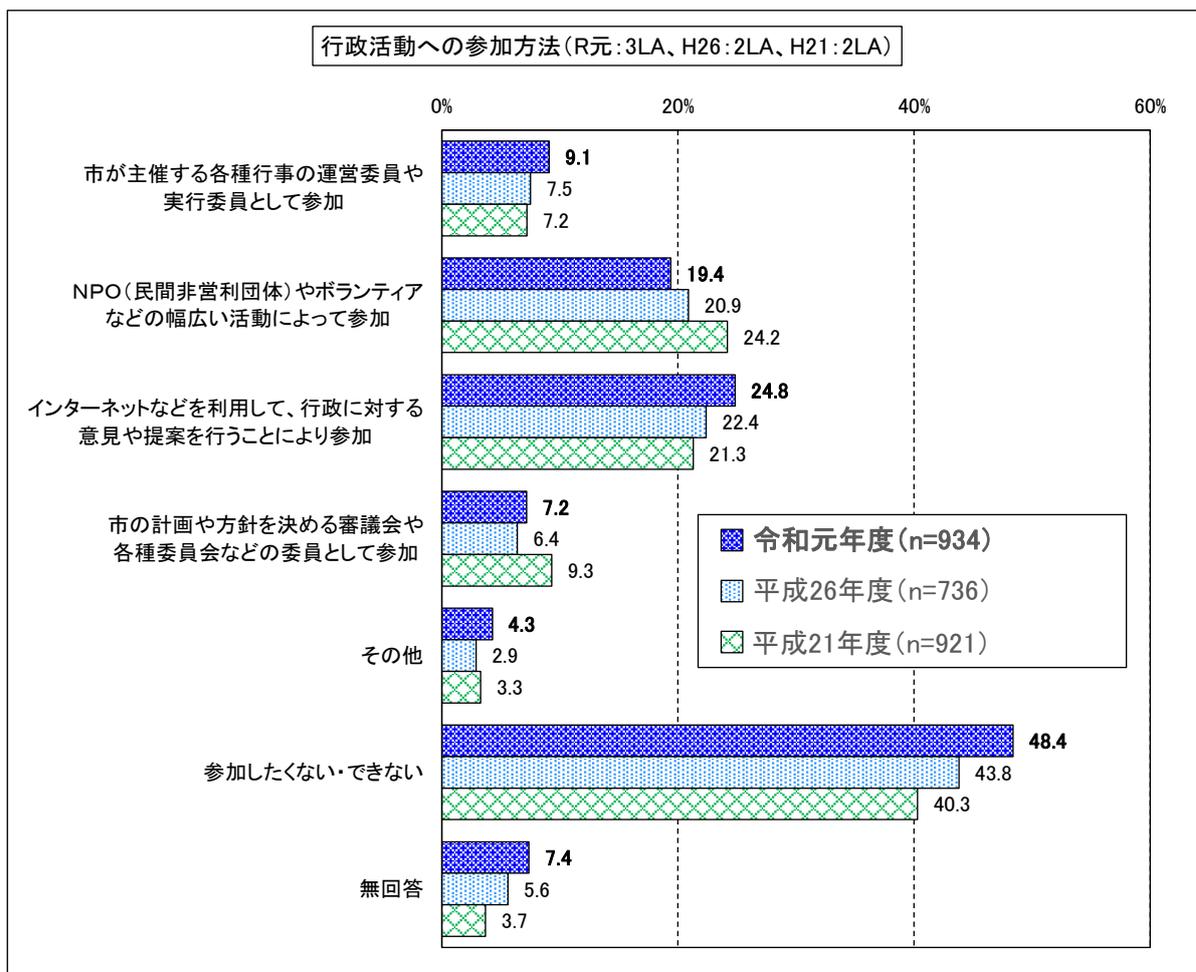


(16) 行政活動への参加方法

〔全体〕

行政活動への参加方法については、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」が24.8%と最も高く、次いで、「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」が19.4%となっています。

一方、「参加したくない・できない」は48.4%と半数近くを占めています。



〔比較〕

今回の回答条件（3LA：選択は3項目まで）と、前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）の回答条件（2LA：選択は2項目まで）が異なるため一概に比較はできませんが、おおむね同様の傾向となっています。

〔属性別：性別〕

性別で見ると、男女ともに「参加したくない・できない」への回答割合が最も高くなっており、それに次いで、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」への回答割合が高くなっています。

また、ボランティアへの参加を除き、直接的な参加（「市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加」及び「市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加」）については、女性よりも男性の方が高い回答割合となっています。

	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加	その他	参加したくない・できない	無回答
全体（n=934）	9.1	19.4	24.8	7.2	4.3	48.4	7.4
女性（n=491）	6.7	18.7	23.2	4.9	3.9	49.5	9.4
男性（n=423）	12.1	19.9	27.0	10.2	4.3	47.3	4.7

〔属性別：年齢別〕

年齢別でみると、すべての年齢階層において「参加したくない・できない」への回答割合が最も高くなっています。

それに次いで、60歳未満では「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」への回答割合が、60歳以上では「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」への回答割合が高くなっています。

	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加	その他	参加したくない・できない	無回答
全体（n=934）	9.1	19.4	24.8	7.2	4.3	48.4	7.4
16～29歳（n=108）	9.3	15.7	35.2	2.8	2.8	50.9	1.9
30～39歳（n=120）	8.3	19.2	35.0	5.0	0.8	50.0	2.5
40～49歳（n=176）	9.1	26.1	38.6	9.7	2.8	40.9	0.6
50～59歳（n=172）	10.5	23.3	25.0	7.6	2.3	47.7	4.1
60～69歳（n=134）	8.2	17.2	16.4	7.5	6.7	54.5	9.7
70歳以上（n=222）	9.0	13.5	8.6	8.1	8.1	49.5	19.4

〔属性別：居住地域別〕

居住地域別でみると、すべての地域において「参加したくない・できない」への回答割合が最も高くなっています。

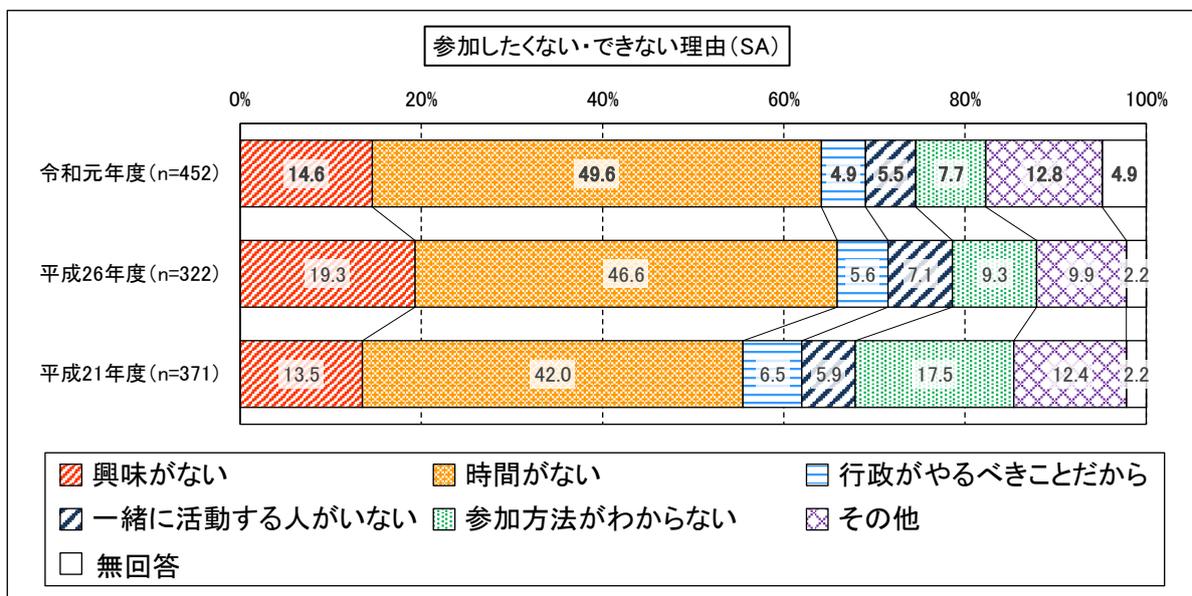
それに次いで、押立と若葉台では「NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加」への回答割合が高く、それ以外の地域においては「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加」への回答割合が高くなっています。

	市が主催する各種行事の運営委員や実行委員として参加	NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの幅広い活動によって参加	インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提案を行うことにより参加	市の計画や方針を決める審議会や各種委員会などの委員として参加	その他	参加したくない・できない	無回答
全体（n=934）	9.1	19.4	24.8	7.2	4.3	48.4	7.4
矢野口（n=181）	9.4	17.1	23.8	7.2	2.8	50.8	8.8
東長沼（n=145）	9.7	16.6	26.2	9.7	5.5	45.5	8.3
大丸（n=90）	13.3	18.9	21.1	2.2	3.3	57.8	2.2
百村（n=54）	5.6	16.7	22.2	5.6	7.4	48.1	7.4
坂浜（n=28）	17.9	7.1	25.0	7.1	10.7	46.4	10.7
平尾（n=119）	7.6	23.5	24.4	5.0	5.9	45.4	5.0
押立（n=40）	10.0	25.0	20.0	7.5	2.5	40.0	12.5
向陽台（n=88）	9.1	20.5	35.2	9.1	4.5	45.5	6.8
長峰（n=51）	3.9	23.5	33.3	7.8	3.9	45.1	3.9
若葉台（n=136）	8.1	21.3	20.6	8.1	2.2	50.7	9.6

(16) -1 参加したくない・できない理由

〔全体〕

参加したくない・できない理由については、「時間がない」が49.6%と最も高く、次いで、「興味がない」が14.6%、「参加方法がわからない」が7.7%、「一緒に活動する人がいない」が5.5%、「行政がやるべきことだから」が4.9%と続いています。



〔比較〕

前回（平成26年度）及び前々回（平成21年度）と比較すると、「参加方法が分からない」への回答割合は減少傾向となっている一方で、「時間がない」への回答割合が増加しています。

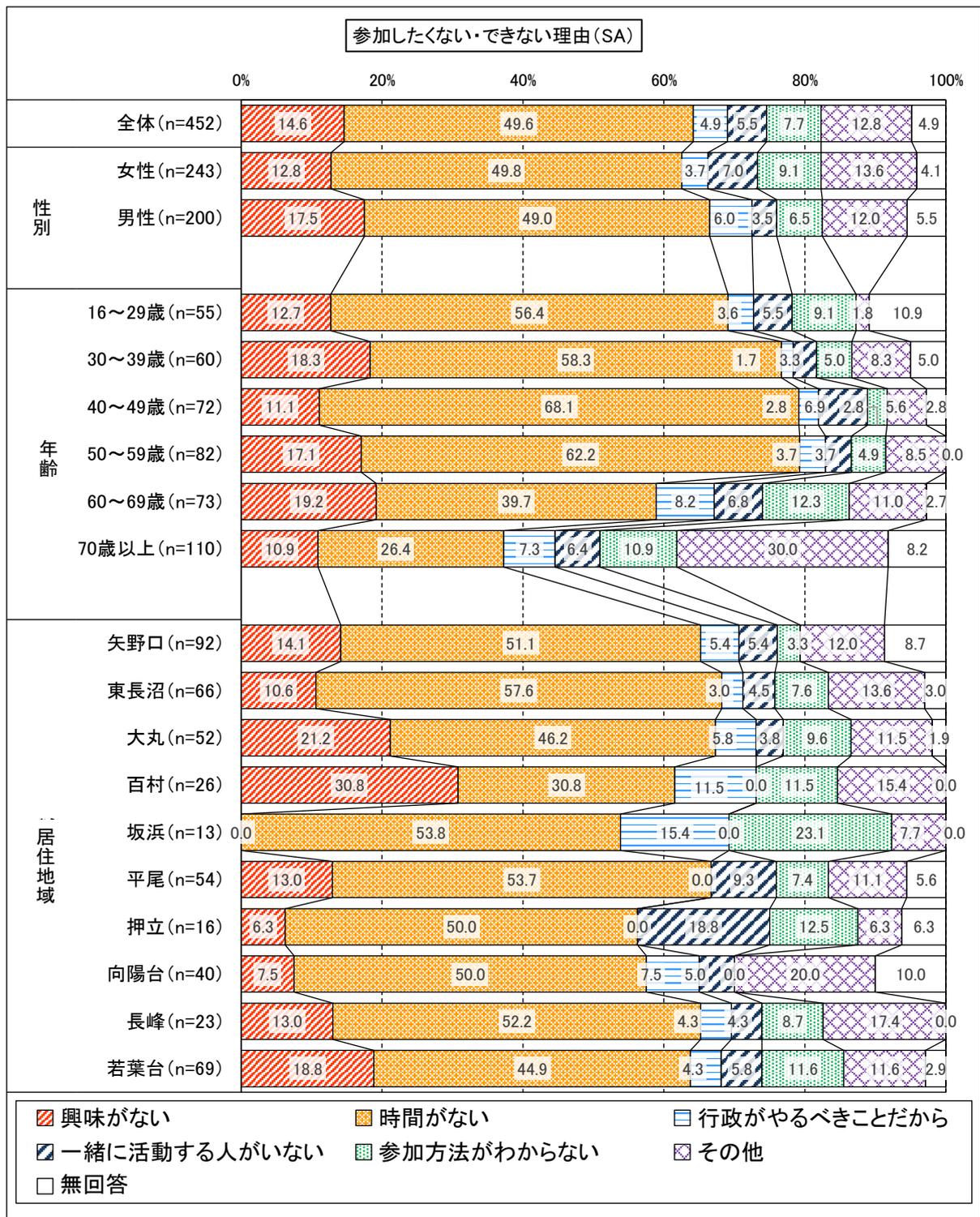
〔属性別〕

性別でみると、男女ともに「時間がない」への回答割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、60歳未満では「時間がない」への回答割合が最も高く、60歳以上でも「時間がない」への回答割合は高いものの、その回答割合は減少する結果となっています。

居住地域別でみると、「時間がない」への回答割合が高くなっています。

なお、百村では「興味がない」が同率となっています。



IV 調査票

市民意識調査へのご協力をお願いします 2030年の稲城を見据えた計画策定に活かします

市民の皆様には、日頃から市政にご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
現在、稲城市では2030年に向けた新たな長期総合計画の策定を進めております。そこで、市民の皆様の日頃の市政に対する満足度やご意見・ご要望をお聞きし、計画の基礎資料とするため、「市民意識調査」を実施いたします。

この調査の対象者は、市内にお住まいの満16歳以上の方々と、住民基本台帳から無作為に2,000名を選ばせていただきました。行政全体にわたる事項をお聞きしておりますため、該当しない設問もあるかと思いますが、ご了承願います。調査は無記名で行い、調査結果につきましては統計的な処理をいたします。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、稲城市のより良い発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年5月

稲城市長 高橋 勝浩

- ◎同封の調査票でご回答ください。
- ◎WEB回答もできます。(裏面の説明をご覧ください)
- ◎回答にあたっては、下記の説明をお読みください。

【ご回答にあたってのお願い】

1. あて名のご本人様にご回答ください。
2. 生活状況などのご回答については、令和元年5月1日現在でお答え下さい。
3. ご回答は、あらかじめ設けてある選択肢の中から、あてはまる選択肢に☑をつけてください。
4. 回答の数は、「☑を1つ」「当てはまるものを3つまで選んで☑」「当てはまるものすべてに☑」などのように指定していますので、それに合わせてください。
5. ご自分の答えが選択肢の中にない場合などは、「その他」を選び、()内に具体的な内容をご記入下さい
6. 設問によっては一部の方だけにお答えいただく場合がありますので、(～とお答えの方に)に従ってお答えください。

◎ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**6月14日(金)**までにご投函ください。切手を貼る必要はありません。

(WEB回答される場合は、調査票及び返信用封筒は破棄していただき、重複回答しないようお願いいたします。)

【お問合せ】

稲城市役所 企画部 企画政策課 長期総合計画担当

電話：042-378-2111 (内線532) (月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時00分)

Mail：chou_kei5@city.inagi.lg.jp

【WEB回答について】

1. WEB回答はこちらから
https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=shiminishikityousa
2. 通信費はご負担ください
3. WEBでのご回答の期限は、6/16(日)までとなります。
4. 紙の調査票でご回答いただいた場合は、WEBでのご回答をしないでください。
5. WEBでのご回答の際に、紙の調査票の1ページ目にある回答No.が必要になります。お手元にご用意ください。
6. 回答に長時間かかりますとタイムアウトになることがあります。その場合、回答済みの部分についても無効となり、最初からやり直しとなりますのでご注意ください。



回答No.

※このNo.はWEB回答との重複を避けるためのものです。

この調査は、すべて匿名であり個人が特定されることはありません。

あなた自身のことについて

1. あなたの性別をお答え下さい。☑を1つつけてください。

女性 男性 回答しない

2. あなたの令和元年5月1日の年齢をお答え下さい。☑を1つつけてください。

16~19歳 20~29歳 30~39歳 40~49歳 50~59歳
 60~69歳 70~79歳 80~89歳 90~99歳 100歳以上

3. あなたのお住まいの地区をお答え下さい。☑を1つつけてください。

矢野口 東長沼 大丸 百村 坂浜
 平尾 押立 向陽台 長峰 若葉台

4. あなたは稲城市内に何年間お住まいですか。☑を1つつけてください。

1年未満 1年~5年未満 5年~10年未満
 10年~20年未満 20年以上 よくわからない

5. あなたの現在の世帯の構成を選んでください。☑を1つつけてください。

1人暮らし 夫婦のみ 2世代世帯
 3世代以上世帯 その他 ()

6. 同居のご家族に、あなたご自身も含めて、高齢者やお子さんがありますか。当てはまるものに☑をつけてください。

65歳以上高齢者 中学生以下の子 子ども・高齢者はいない

7. あなたのご職業をお答え下さい。☑を1つつけてください。

農・林・漁業 (家族従事者を含む) 自営業 (商店経営等) 自由業(開業医・弁護士・司法書士等) 常勤の勤め (会社員・公務員等)
 パート・派遣 アルバイト等 学生 家事専業 (主婦・主夫) 無職 その他 ()

7-1.7で「農・林・漁業」「自営業」「自由業」「常勤の勤め」「パート・派遣・アルバイト等」とお答えの方にお聞きします。あなたの仕事場についてお答え下さい。☑を1つつけてください。

稲城市内 稲城市外

稲城市の暮らしやすさについて

(1) 稲城市の住みやすさの満足度

問1. あなたは、稲城市を住みやすいところだと思いますか。☑を1つつけてください。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="radio"/> 住みやすい | <input type="radio"/> どちらかといえば住みにくい |
| <input type="radio"/> どちらかといえば住みやすい | <input type="radio"/> 住みにくい |

問2. あなたは、稲城市に住み続けたいと思いますか。☑を1つつけてください。

- | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> ずっと住み続けたい | <input type="radio"/> 近いうちに転出する予定 | <input type="radio"/> わからない |
| <input type="radio"/> 当分は住み続けたい | <input type="radio"/> 転出したい | |

問2-1.問2で「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」とお答えの方にお聞きします。
住み続けたい理由について、当てはまるものすべてに☑をつけてください。

- 自然環境が良い (緑や用水・農地など)
- 道路やまちなみなど生活環境が整っている
- 通勤や通学に便利
- 働く場所がある
- 教育・文化環境が良い
- 買い物など生活が便利
- 医療・福祉が充実している
- 地域の間人間関係が良い
- まちに魅力やにぎわいがある
- その他 ()
- 特に理由はない

問2-2.問2で「近いうちに転出する予定」「転出したい」とお答えの方にお聞きします。
転出したい理由について、当てはまるものすべてに☑をつけてください。

- 自然環境が悪い
- 道路やまちなみなど生活環境が整っていない
- 通勤や通学に不便
- 働く場所がない
- 教育・文化環境が悪い
- 買い物など生活が不便
- 医療・福祉が充実していない
- 地域の間人間関係が悪い
- まちに魅力やにぎわいがない
- その他 ()
- 特に理由はない

(2) 稲城市での暮らしやすさについての満足度

(満足している・やや満足している・やや不満である・不満である・わからないの5段階回答)

問3. 保健・医療・福祉の施策やサービスに関する下の の1～7の項目について、あなたは満足していますか。 各行ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不 満」「わからない」のうち当てはまるものに☑を 1つつけてください。	満 足 し て い る	や や 満 足 し て い る	や や 不 満 で あ る	不 満 で あ る	わ か ら な い
1 乳幼児の健康診査・予防接種、妊婦健診など母子保健サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 成人の健康診査・保健指導など成人保健サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 病院や診療所など医療サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 休日急病診療や救急医療など医療体制	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 在宅介護支援など高齢者福祉	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 保育園や学童保育など子育て支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 障害者に対するサービス提供や生活相談など障害者福祉	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問4. 教育・文化の施策やサービスに関する次の項目に ついて、あなたは満足していますか。 各行ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不 満」「わからない」のうち当てはまるものに☑を 1つつけてください。	満 足 し て い る	や や 満 足 し て い る	や や 不 満 で あ る	不 満 で あ る	わ か ら な い
1 幼稚園、小学校、中学校などの教育	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 公民館や図書館での各種の講座や教室など生涯学習事業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 市民文化祭や芸術祭など芸術文化事業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 体育施設などでのスポーツ・レクリエーション事業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 非行防止活動など青少年健全育成事業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 公共のスポーツ施設の状況	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問5. 商工業・観光・農林業の施策に関する次の項目に ついて、あなたは満足していますか。 各行ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不 満」「わからない」のうち当てはまるものに☑を 1つつけてください。	満 足 し て い る	や や 満 足 し て い る	や や 不 満 で あ る	不 満 で あ る	わ か ら な い
1 日常の買い物の便利さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 市内の商店の数や商品の質や量	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 駅周辺や地域の商店などにぎわいや活気	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 消費生活のトラブルへの相談体制や消費生活情報の提供	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 地元における雇用の安定と確保	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 観光資源の活用やPR活動など	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 農地の保全と活用など	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問6. 都市基盤・生活環境・防災や防犯の施策に関する次の項目について、あなたは満足していますか。各行ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」のうち当てはまるものに☑を1つつけてください。	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
1 日常の交通の便利さ	<input type="radio"/>				
2 駅周辺の利便性・快適性	<input type="radio"/>				
3 鉄道・バスの運行本数などの利便性	<input type="radio"/>				
4 身近な生活道路の整備	<input type="radio"/>				
5 幹線道路の整備	<input type="radio"/>				
6 道路交通の安全性	<input type="radio"/>				
7 安全で安心して暮らすための防犯対策	<input type="radio"/>				
8 夜道を歩くときの安全・安心	<input type="radio"/>				
9 自然の豊かさ	<input type="radio"/>				
10 公園・緑地の整備状況	<input type="radio"/>				
11 まちなみのゆとりやまちの美観	<input type="radio"/>				
12 ごみの収集状況	<input type="radio"/>				
13 ごみの減量・リサイクルの推進などの取組み	<input type="radio"/>				
14 不法投棄やポイ捨て防止など環境美化対策	<input type="radio"/>				
15 路上喫煙の制限に関する啓発活動等の取組み	<input type="radio"/>				
16 地震、風水害など自然災害に対する防災対策	<input type="radio"/>				
17 消防や救急体制	<input type="radio"/>				

問7. 市民参加や市政運営の施策に関する次の項目について、あなたは満足していますか。各行ごとに、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」のうち当てはまるものに☑を1つつけてください。	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	わからない
1 男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制	<input type="radio"/>				
2 広報いなぎやホームページなど行政情報の提供	<input type="radio"/>				
3 「市政への提案」やタウンミーティングなど行政に対して意見を寄せる仕組み	<input type="radio"/>				

稲城市のまちづくりの方向について

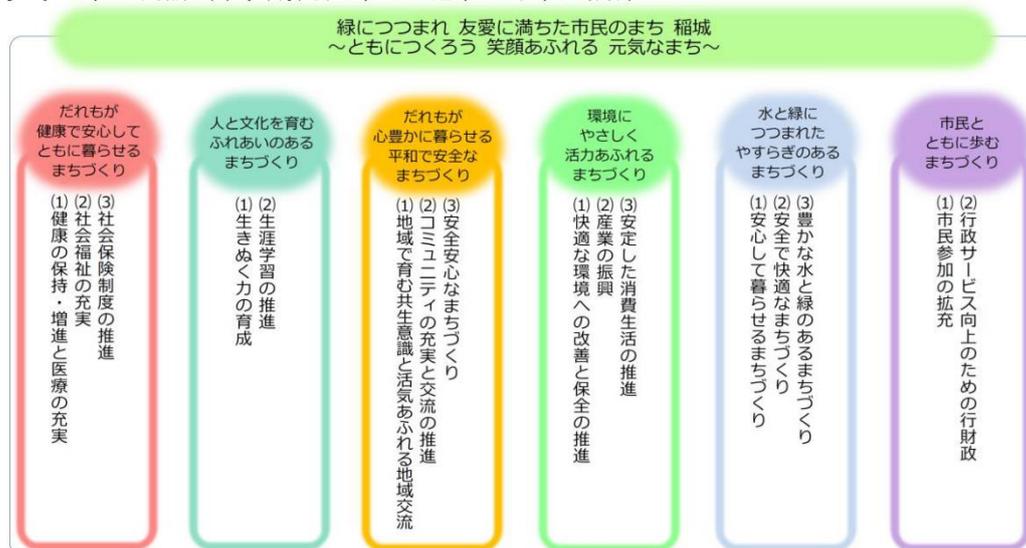
問8. 市の将来像として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。当てはまるものを**3つまで**選んで☑をつけてください。

- | | |
|--|--|
| <input type="radio"/> 水と緑の豊かな田園都市 | <input type="radio"/> 道路や公園など生活環境が充実した都市 |
| <input type="radio"/> 教育・文化に力を入れた都市 | <input type="radio"/> 商業のさかんなにぎわいのある都市 |
| <input type="radio"/> 健康・福祉に力を入れた都市 | <input type="radio"/> 地域のふれあいのある都市 |
| <input type="radio"/> 職場と住居が近接した活力ある都市 | <input type="radio"/> その他
() |

問9. 稲城市はどのような都市をめざして、まちづくりを進めるべきだと思いますか。当てはまるものを**3つまで**選んで☑をつけてください。(選択肢の各まちづくりの体系は下図をご参照ください。)

- | |
|---|
| <input type="radio"/> だれもが健康で安心してともに暮らせるまちづくり |
| <input type="radio"/> 人と文化を育むふれあいのあるまちづくり |
| <input type="radio"/> だれもが心豊かに暮らせる平和で安全なまちづくり |
| <input type="radio"/> 環境にやさしく活力あふれるまちづくり |
| <input type="radio"/> 水と緑につつまれたやすらぎのあるまちづくり |
| <input type="radio"/> 市民とともに歩むまちづくり |
| <input type="radio"/> その他
() |
| <input type="radio"/> わからない |

参考：第四次稲城市長期総合計画 施策の体系図抜粋



今後の施策等について

(1) 健康・医療・福祉について

問10. 健康・医療・福祉の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> 健康づくりや疾病予防など保健活動の充実	<input type="radio"/> 救急医療も含めた医療サービスの充実
<input type="radio"/> 介護など高齢者福祉の充実	<input type="radio"/> 障害者に対する福祉の充実
<input type="radio"/> 子育て支援など児童福祉の充実	<input type="radio"/> ひとり親家庭に対する福祉の充実
<input type="radio"/> ボランティア育成など地域福祉の充実	<input type="radio"/> 生活困窮家庭に対する援護の充実
<input type="radio"/> その他 ()	<input type="radio"/> わからない

問11. あなたは心身ともに健康だと思えますか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> そう思う	<input type="radio"/> あまりそう思わない
<input type="radio"/> ややそう思う	<input type="radio"/> そう思わない

問12. 高齢者福祉について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> 介護保険で受けられる在宅サービスの充実	<input type="radio"/> 介護施設や認知症グループホーム等の充実
<input type="radio"/> 寝たきり予防など介護予防活動の充実	<input type="radio"/> 介護する家庭への支援活動の充実
<input type="radio"/> 生きがいづくりや社会参加活動の充実	<input type="radio"/> 地域で高齢者を支える体制づくりの充実
<input type="radio"/> 地域包括支援センターなどの機能強化	<input type="radio"/> 子どもや若い世代との交流の促進
<input type="radio"/> その他 ()	<input type="radio"/> わからない

問13. あなたは稲城市が障害者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> そう思う	<input type="radio"/> あまりそう思わない
<input type="radio"/> ややそう思う	<input type="radio"/> そう思わない

問14. あなたは「成年後見制度」を知っていますか。☑を1つつけてください。

- | | |
|-------------------------------|---|
| <input type="radio"/> 知っている | <input type="radio"/> 聞いたことはあるが、内容はよく知らない |
| <input type="radio"/> 少し知っている | <input type="radio"/> 全く知らない |

問15. 子育て支援について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> 子育て支援センターなど子育て支援拠点の整備・充実 | <input type="radio"/> 学童保育や子育てサークルなど地域における子育て支援策の充実 |
| <input type="radio"/> 子育ての悩みや児童虐待防止のための相談窓口の充実 | <input type="radio"/> 保育所の整備など保育サービスの充実 |
| <input type="radio"/> 子どもを遊ばせる場所や機会の提供 | <input type="radio"/> 子どもを犯罪や事故から守るための取組みの強化 |
| <input type="radio"/> その他
() | <input type="radio"/> わからない |

(2) 教育・文化について

問16. 学校教育について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 子どもの学力向上 | <input type="radio"/> 少人数学級の実現 |
| <input type="radio"/> 国際理解教育の充実 | <input type="radio"/> 道徳教育の充実 |
| <input type="radio"/> いじめ、不登校対策の充実 | <input type="radio"/> 体育、運動の充実 |
| <input type="radio"/> 部活動の充実 | <input type="radio"/> 開かれた教育現場の充実 |
| <input type="radio"/> 家庭、地域との連携の強化 | <input type="radio"/> 学校施設、設備の充実 |
| <input type="radio"/> 特別支援教育の充実 | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> わからない | <input type="radio"/> () |

問17. 生涯学習（文化・スポーツ事業）について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを**3つまで**選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> 公民館事業の充実	<input type="radio"/> いなぎICカレッジ事業の充実
<input type="radio"/> iプラザ事業の充実	<input type="radio"/> 図書館事業の充実
<input type="radio"/> 体育施設などでの事業の充実	<input type="radio"/> 文化・スポーツ事業の情報提供の充実
<input type="radio"/> 文化・体育施設の利用機会（日数、時間など）の充実	<input type="radio"/> 文化・スポーツ事業に関するボランティア養成講座の充実
<input type="radio"/> 文化財の保護	<input type="radio"/> 文化・生涯学習施設の整備
<input type="radio"/> 体育施設の整備	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> わからない	<input type="radio"/> ()

問18. あなたは、週に1回以上運動(スポーツ)を行っていますか。☑を1つつけてください。

※スポーツとは、競技スポーツやレクリエーション活動だけでなく、健康づくりのためのウォーキング、気分転換の散歩・軽い運動等の野外活動や介護予防のためのトレーニング等目的を持って行う身体活動のすべてのことです。

<input type="radio"/> 行っている	<input type="radio"/> ほぼ行っている	<input type="radio"/> 行っていない
-----------------------------	-------------------------------	------------------------------

問18-1 問18で「行っていない」と回答した方にお聞きします。行っていない理由は何ですか。当てはまるもの**すべて**に☑をつけてください。

<input type="radio"/> 運動する場所や施設がない	<input type="radio"/> 運動する時間がない	<input type="radio"/> 運動する仲間や指導者がいない
<input type="radio"/> 運動する必要性を感じない	<input type="radio"/> その他 ()	

(3) 商工業・観光・農業について

問19. 商工業・観光・農業の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> 企業誘致や商店街の活性化など商業の振興	<input type="radio"/> 中小企業への支援など工業の振興
<input type="radio"/> 雇用の安定と就業の確保など勤労者施策の推進	<input type="radio"/> 観光拠点の形成や観光資源の活用など観光の振興
<input type="radio"/> 農地の保全や活用など農業の振興	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> わからない	<input type="radio"/> []

(4) 都市基盤整備・生活環境・防災や防犯について

問20. 都市基盤について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> きれいなまちなみの整備	<input type="radio"/> 地域の特色に合わせた建築物の制限・誘導
<input type="radio"/> 狭い道路を解消し、安全に通行できる生活道路の整備	<input type="radio"/> 地域間の交通を円滑にする幹線道路の整備
<input type="radio"/> 既存の道路・橋りょう等の維持保全	<input type="radio"/> 治山治水を視野に入れた河川等の整備
<input type="radio"/> 身近な公園や緑地の整備	<input type="radio"/> 森林浴やキャンプなどができる公園等の整備
<input type="radio"/> バスなど公共交通の整備	<input type="radio"/> 大型の商業施設や商店街の整備
<input type="radio"/> 駐輪・駐車場施設の整備	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> わからない	<input type="radio"/> []

問21. 生活環境について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> 環境負荷の低減と地球温暖化対策の推進	<input type="radio"/> ごみの減量やリサイクルの推進
<input type="radio"/> 騒音や振動などの解消対策	<input type="radio"/> 大気や河川水質などの環境調査
<input type="radio"/> 不法投棄やポイ捨て防止など環境美化の充実	<input type="radio"/> 路上喫煙の制限に関する啓発活動
<input type="radio"/> 生物多様性の保全に向けた取り組みの推進	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> わからない	<input type="radio"/> []

問22. 防災や防犯などの分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで☑をつけてください。

<input type="radio"/> 火災予防や消防力の強化	<input type="radio"/> 防災を目的とした河川等の整備
<input type="radio"/> 風水害対策の警戒避難体制の整備	<input type="radio"/> 大規模地震対策など防災の強化
<input type="radio"/> 交通安全対策の充実	<input type="radio"/> 地域の防犯体制の強化
<input type="radio"/> 消費生活の安全対策	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> わからない	<input type="radio"/> ()

(5) 市民参加・市政運営について

問23. あなたのご家族では、ご近所とどの程度のおつきあいをされていますか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> 親密なつきあいがある	<input type="radio"/> どちらかといえばつきあかない
<input type="radio"/> どちらかといえばつきあいがある	<input type="radio"/> ほとんどつきあがない

問24. あなたは、地域の団体や組織(自治会、婦人会、老人クラブ、PTA、スポーツクラブ、同好会など)に参加したいと考えていますか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> 現在参加しており、今後も続けたい	<input type="radio"/> 現在参加しているが、今後はやめたい
<input type="radio"/> 現在は参加していないが、今後は参加したい	<input type="radio"/> 現在参加しておらず、今後も参加したくない

問25. あなたは稲城市の行政施策にどの程度関心がありますか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> 大に関心がある	<input type="radio"/> あまり関心がない
<input type="radio"/> やや関心がある	<input type="radio"/> まったく関心がない

問26. あなたは、市民と行政との協働(パートナーシップ)により、まちづくりを進めることについて、どのようにお考えですか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> 市民も行政に意見を言うだけではなく、まちづくりを進める主体として自覚を持つ関係が望ましい	<input type="radio"/> 行政に任せる部分と市民参加で進める部分とを分けて対応することが望ましい
<input type="radio"/> 議会と行政との責任で進めるのが望ましい	<input type="radio"/> その他 ()

問27. 市では、「広報いなぎ」を毎月1日と15日に発行し、ポスティングにより全戸配布をしています。あなたはどの程度読んでいますか。☑を1つつけてください。

<input type="radio"/> よく読んでいる	<input type="radio"/> ざっと目を通す	
<input type="radio"/> 必要なところだけ読む	<input type="radio"/> ほとんど読まない	<input type="radio"/> 見たことがない

問27-1 問27で「よく読んでいる」「ざっと目を通す」「必要なところだけ読む」「ほとんど読まない」と回答した方にお聞きします。「広報いなぎ」のどのような記事に関心を持って読まれますか。当てはまるものを3つまで選び☑をつけてください。

<input type="radio"/> 環境	<input type="radio"/> 子育て・教育	<input type="radio"/> 税金
<input type="radio"/> 保険・年金	<input type="radio"/> 高齢福祉	<input type="radio"/> 健康・医療
<input type="radio"/> まちづくり	<input type="radio"/> イベントなどのお知らせ	<input type="radio"/> その他 ()

問27-2 問27で「よく読んでいる」「ざっと目を通す」「必要なところだけ読む」「ほとんど読まない」と回答した方にお聞きします。「広報いなぎ」の紙面内容に期待することはありますか。次の中で当てはまるもの1つに☑をつけてください。

<input type="radio"/> 市や行政機関からのお知らせの充実	<input type="radio"/> 写真やイラストなどを増やした親しみやすい紙面
<input type="radio"/> 地域の行事などを紹介する記事の充実	<input type="radio"/> 現在のままでよい
<input type="radio"/> その他 ()	

問27-3 問27で「見たことがない」と回答した方にお聞きします。「広報いなぎ」を見ない理由はありますか。当てはまるものすべてに☑をつけてください。

<input type="radio"/> 時間がない	<input type="radio"/> 興味がない
<input type="radio"/> 自分以外の家族が見ている	<input type="radio"/> 必要な情報は市のホームページなどで調べる
<input type="radio"/> その他 ()	

市民意識調査 結果報告書

発行：令和元年 11 月

発行者：稲城市

〒206-8601

東京都稲城市東長沼 2111 番地

編集：稲城市 企画部 企画政策課 長期総合計画担当

TEL：042-378-2111（代表）

FAX：042-377-4781

URL [http:// www.city.inagi.tokyo.jp/](http://www.city.inagi.tokyo.jp/)